

台町遺跡・台町古墳群

—阿武隈川下流右岸金山地区河川改修事業に伴う平成 28 年度発掘調査報告書—

2017 年 9 月

丸森町教育委員会
国土交通省東北地方整備局

台町遺跡・台町古墳群

—阿武隈川下流右岸金山地区河川改修事業に伴う平成28年度発掘調査報告書—

序 文

丸森町では、旧石器時代の遺跡はいまだ発見されていませんが、縄文時代の遺跡は数多く確認されしており、遺物・遺構も検出していることから、古くから豊かな土地であったことが想像されます。しかし、そこに続く弥生時代の遺跡についてはこれまで弥生土器や石包丁など遺物の出土はありましたが、住居跡などの生活の遺構は確認されていませんでした。

本書で紹介する本発掘調査は、平成 27 年 7 月 21 日から 9 月 30 日にかけて行った国土交通省の河川改修事業に伴う台町遺跡・台町古墳群の確認調査の結果、多数の遺構が確認され、遺跡の詳細を記録することが必要となり、平成 29 年 5 月 9 日から 12 月 16 日にかけて実施したものです。

調査の結果、台町古墳群での新たな古墳の確認はならなかったものの、台町遺跡にて貯蔵穴や堅穴住居跡、掘立柱建物などの遺構が確認されました。また、遺物は縄文時代から近世にかけて幅広い年代のものが出土し、この地域でも古い時代から長きにわたって人々が生活していた痕跡が確認されました。

中でも堅穴住居跡のひとつは出土した遺物から弥生時代中期ごろのものと推定され、町内では初めての弥生時代の住居跡の発見となり、県内でもあまり確認例の大変貴重な発見となりました。

発掘調査ならびに本調査報告書の刊行にあたりましては、地元の方々・関係機関の方々より多大なるご協力をいただきました。ご協力をいただきました皆様に対し心から感謝を申し上げます

平成 29 年 月

丸森町教育委員会

教育長 佐藤 隆夫

例　　言

1. 本書は国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所が行う阿武隈川下流右岸金山地区河川改修事業に伴い、平成28年度に実施した台町遺跡・台町古墳群の本発掘調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は丸森町教育委員会が主体となり、丸森町教育委員会生涯学習課が担当し、宮城県教育庁文化財保護課の協力を受けた。
3. 発掘調査及び整理・報告書作成に当たっては、以下の方々及び機関からご指導・ご協力をいただいた。（順不同・敬称略）
宮城県教育庁文化財保護課・東北歴史博物館・千葉孝弥（多賀城市教育委員会）・日下和寿（白石市教育委員会）・小川淳一（白石市博物館建設準備室）・石本弘（白石市文化財保護委員）・佐藤俊（福島県文化振興財団）・植松暁彦（山形県埋蔵文化財センター）・藤沢敦（東北大学総合学術博物館）・佐々木理（同）・佐藤祐輔（仙台市繩文の森広場）
4. 本書に掲載した遺跡分布図は、国土地理院発行「丸森」・「角田」（縮尺1/25000）の地形図を複製して使用した。
5. 使用した座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。図中の北は第X系座標の北と一致する。
6. 本書で使用した遺構略号は以下のとおりである。
SA：堀跡・柱穴列跡 SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SE：井戸跡 SI：竪穴住居跡 SK：土坑 SX：その他の遺構
7. 遺構平面図・断面図にはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は原則として以下のとおりである。
調査区配置図：1/4000　調査区平面図：1/500　遺構平面図・断面図：1/60
8. 土色の記述には、小山・竹原編（2002）「新版標準土色帖」を使用した。
9. 遺物図版にはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は原則として以下のとおりである。
土器：1/3　　金属製品：2/3　　石器・石製品：2/3、1/2、1/3
10. 航空写真撮影と遺物写真撮影は以下の機間に委託して行なった。
航空写真：株式会社イビソク　　遺物写真：株式会社アート・プロフィール
11. 放射性炭素年代測定は株式会社加速器分析研究所に委託して行い、マイクロX線CTによる古銭の銭種判別は藤沢敦氏・佐々木理氏（東北大学総合学術博物館）の協力を頂き実施した。その成果は第6章に掲載した。
12. 執筆は丸森町教育委員会と宮城県教育庁文化財保護課で協議し、第1～3章は荒井優作、第4章は黒田智章、第5章は黒田と山口貴久、第7章は荒井と黒田が担当し、荒井・黒田が編集した。
13. 発掘調査成果の一部については、平成27年度実施の確認調査の成果をまとめた丸森町文化財調査報告書第22集及び平成28年10月8日に行なった現地説明会でその内容の一部を公表しているが、これと本書の内容が異なる場合は、本書の内容がこれに優先する。
14. 発掘調査の出土遺物・図面・写真は丸森町教育委員会が管理・保管している。

調査要項

遺跡名 台町遺跡（遺跡番号 10102）
台町古墳群（遺跡番号 10050）

所在地 宮城県伊具郡丸森町字二本木・字平
丸森町金山字下片山・字台町・字日野川原

調査原因 阿武隈川下流右岸金山地区河川改修事業

調査主体 丸森町教育委員会

調査担当 丸森町教育委員会生涯学習課

調査員 丸森町教育委員会生涯学習課 荒井優作
宮城県教育庁文化財保護課 小野章太郎 黒田智章 山口貴久

調査補助員 [発掘調査] 池田一夫 天野剛弘 斎藤眞理子 菊地多鶴子 目黒力
大槻重行 矢目隆行 斎藤健治 天野幸枝 福山すみ子
高瀬浩充 佐藤照夫 平田喜一郎 船山哲男 斎藤和幸
富塚清 須貝麻由美 佐藤和男 目黒正則
[整理作業] 天野剛弘 天野幸枝 福山すみ子 須貝麻由美

調査期間 [発掘調査] 平成 28 年 5 月 9 日～平成 28 年 12 月 16 日
[整理作業] 平成 28 年 12 月 19 日～平成 29 年 3 月 30 日

調査面積 6132.9 m²（調査対象面積 31,400 m²）

目 次

序文

丸森町教育委員会教育長 佐藤隆夫

例言

目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の概要	1
第1節 遺跡の位置と地理的環境	1
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の方法と経過	4
第4章 基本層序	7
第5章 発見した遺構と遺物	8
第1節 A・B区	8
A 堅穴住居跡	8
B 掘立柱建物跡	19
C 墓跡	26
D 井戸跡	26
E 土坑	28
F 溝跡	31
第2節 C区	39
A 土坑	39
B 溝跡	39
第3節 D・E区	43
A 掘立柱建物跡	43
B 井戸跡	43
C 土坑	48
D 溝跡	49
第4節 その他の出土遺物	56
第6章 自然科学分析	60
第1節 台町遺跡における放射性炭素年代(AMS年代測定)	60
第2節 マイクロX線CT可視化法による台町遺跡出土古銭の銭種判別	64
第7章 総括	68
第1節 遺構の特徴と年代	68

第2節 弥生時代の遺構と遺物	70
第3節 古代の遺構と遺物	71
第4節まとめ	72

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録

図目次

第1図 丸森町の位置	2
第2図 遺跡の位置	2
第3図 台町遺跡・台町古墳群と周辺の遺跡	3
第4図 調査区配図図	5
第5図 基本層序	7
第6図 A・B区全体図	9・10
第7図 A区遺構配置図	11
第8図 B・2区遺構配置図	12
第9図 B・3区遺構配置図	13
第10図 B・4区遺構配置図	14
第11図 S12住居跡平面図・断面図・掘方平面図	15
第12図 S12住居跡出土遺物(1)	16
第13図 S13住居跡出土遺物(2)	17
第14図 S13住居跡平面図・断面図	18
第15図 S13住居跡出土遺物	18
第16図 SB2・3・4建物跡平面図	20
第17図 SB5・6・7・8建物跡平面図	21
第18図 B区掘立柱建物跡断面図	22
第19図 SA3・4崩跡断面図	27
第20図 SE2戸跡断面図	30
第21図 A・B区土坑断面図	30
第22図 SE2戸跡出土遺物	31
第23図 A・B区土坑出土遺物	31
第24図 SD1溝跡断面図	33
第25図 SD1溝跡出土遺物	34
第26図 B区溝跡断面図	35
第27図 B区溝跡出土遺物(1)	37
第28図 B区溝跡出土遺物(2)	38
第29図 C区全体図	40
第30図 C区土坑断面図	41
第31図 C区溝跡断面図	42
第32図 C区溝跡出土遺物	42
第33図 D・E区全体図	44
第34図 D区遺構配置図	45
第35図 E区南部遺構配置図	46
第36図 SB1建物跡断面図	47

第37図 SB1建物跡出土遺物	47
第38図 SE1戸跡断面図	47
第39図 E区土坑断面図	49
第40図 E区土坑出土遺物	50
第41図 D・E区溝跡断面図	51
第42図 D・E区溝跡出土遺物	52
第43図 その他の出土遺物(1)	56
第44図 その他の出土遺物(2)	57
第45図 その他の出土遺物(3)	58
第46図 その他の出土遺物(4)	59
第47図 その他の出土遺物(5)	59

表目次

第1表 S12住居跡土層観察表	16
第2表 SB2建物跡土層観察表	23
第3表 SB3建物跡土層観察表	23
第4表 SB4・5・8建物跡土層観察表	24
第5表 B区溝跡土層観察表	36
第6表 E区土坑出土遺物観察表	51
第7表 掘立柱建物一覧表	54
第8表 崩跡・柱穴列一覧表	54
第9表 土坑一覧表	54
第10表 溝跡一覧表	55
第11表 その他の出土遺物観察表(須恵器・中世陶磁器・近世陶磁器)	58

写真図版目次

図版 1	遺跡遠景（北東から）	79
図版 2	遺跡遠景・全景	80
図版 3	A・B 区全景	81
図版 4	A-1・2 区全景、検出遺構	82
図版 5	B-2 区全景、検出遺構、B-1 区全景	83
図版 6	B-3・4 区全景	84
図版 7	S12 住居跡（1）	85
図版 8	S12 住居跡（2）	86
図版 9	S13 住居跡	87
図版 10	SB2 建物跡	88
図版 11	SB3 建物跡	89
図版 12	SB4 建物跡	90
図版 13	SB5 建物跡	91
図版 14	SBB 建物跡柱穴、SA3・SM 塚跡柱穴	92
図版 15	B 区土坑・溝跡	93
図版 16	C-1～6 区全景	94
図版 17	C 区検出遺構	95
図版 18	D-1～4、E 区全景	96
図版 19	SBI 建物跡	97
図版 20	D 区	98
図版 21	E 区	99
図版 22	調査前状況	100
図版 23	E-2 区、F 区、G-1～3 区	101
図版 24	S12・3 住居跡、A-B 区井戸跡、土坑、溝跡出土遺物（1）	102
図版 25	A・B 区溝跡出土遺物（2）	103
図版 26	B・C・E 区遺構出土遺物	104
図版 27	その他の出土遺物（1）	105
図版 28	その他の出土遺物（2）	106

第1章 調査に至る経緯

阿武隈川下流域にある宮城県伊具郡丸森町金山字台町周辺の地域はこの流域で唯一の堤防未整備区間で、周辺と比べて流下能力が低く、たびたび洪水の被害を受けており、早期の築堤整備を必要としていた。

平成26年4月に国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所から、丸森町金山地区の阿武隈川・雄子尾川の合流する地点西側における阿武隈川下流右岸金山地区河川改修事業計画が示された。工事の総延長は1,070m、総面積は31,400m²である。台町遺跡・台町古墳群の遺跡範囲を含む広い区域で築堤工事が計画されており、遺跡に及ぼす影響は甚大であることが予想されたことから、国土交通省・宮城県教育庁文化財保護課・丸森町教育委員会で協議を重ね、確認調査を実施した後に再協議を行うこととした。

確認調査は平成27年2月16日～24日と同年7月21日～9月30日の2回に分けて行った。

2月16日から行った確認調査では、この時点で買収が完了していた計画地中央部の柵門の設置予定箇所周辺に15箇所のトレンチを設定して調査を行い、時期不明の旧河川跡1条および土坑2基を検出した。

7月21日から行った確認調査では、工事予定区域全体で64箇所のトレンチを設定して調査を行った。調査区は北側から現在の地形によってA・B・C・D区^{※1}と大別して呼称した。調査の結果、A区からは土師器片をわずかに出土したほかは遺構は検出されなかった。B～D区では竪穴住居跡とみられる遺構や溝跡などを検出し、土師器や須恵器などが出土した（丸森町教育委員会2016）。

確認調査の結果を受けて、三者で再度協議した結果、計画の変更是難しいとのことから、平成28年度に遺構が確認された範囲を対象に本発掘調査を行うこととした。

※注1 区割りは本発掘調査のA～D区と異なる。

第2章 遺跡の概要

第1節 遺跡の位置と地理的環境

丸森町は仙台市から南に約45kmに位置する宮城県最南端の町で、東に宮城県亘理郡山元町・福島県相馬郡新地町、西に宮城県白石市・福島県伊達市、南に福島県相馬市、北に宮城県角田市と境を接し、阿武隈急行線と国道349号線が町の北部から西部に、国道113号線が北部から南東部に伸びる（第1図）。

茨城県北部から延びる阿武隈山地は、1,000mクラスの山を形成しながら福島県を縦断するが、丸森町に入ると次第に標高が低くなり、幅も狭まる。さらに、二股に分かれて標高200m～400m前後の高地となる。丸森町はこの阿武隈山地の北東部、二股の分岐点に位置するため、周囲を山に囲まれた盆地となっており、全町の約70%を山林が占める。しかし、町の北部は伊具盆地に続く平野となっていて、丸森・金山・小斎・館矢間地区では水田も多い。また、町の西部から北東部にかけては阿武

隈川が流れており、その支流の1つとして雉子尾川が大内地区、金山地区を経て合流している（第2図）。

台町遺跡・台町古墳群は、丸森地区と金山地区的境界に位置し丸森町字二本木、字平、金山字下片山、字台町、字日野川原地内に遺跡範囲が広がっている。両遺跡はこの阿武隈川と雉子尾川が合流する地点の西側に広がり、台町遺跡は合流点から西に約700m地点の標高16～22mの沖積低地から丘陵にかけて、台町古墳群は合流点から西に約1km地点の標高25～40mのなだらかな丘陵上に位置している。

第2節 歴史的環境

今回調査を行った遺跡の周辺には縄文から近世までの遺跡が分布しており、調査を行った区域は台町遺跡・台町古墳群・台町館跡の異なる時代の3つの遺跡が近接して所在する（第3図）。

台町遺跡は、過去に縄文土器や石庖丁が採集され、縄文・弥生時代の散布地として知られていたが、平成14年5月に行なった道路改良工事に伴う発掘調査で土師器や近世陶磁器などが出土し、古代・近世の遺構や遺物が存在する可能性が考えられた。

台町古墳群は、主軸長33mの前方後円墳1基と径5～25mの円墳177基からなる5世紀から7世紀にかけてつくられた群集墳である。昭和24年(1949)から続く志間泰治氏による継続的な調査により、礎郭、箱式石棺、竪穴式石室、横穴式石室など多様な主体部構造が確認され（志間1954ほか）、腰を掲げる女性の埴輪像のほか、六鈴鏡や鉛劍、直刀などの遺物も出土している。このほか、平成元年から2年に行われた宮城県教育委員会による阿武隈川築堤工事に伴う発掘調査では、それまで古墳が確認されていなかった急斜面地より新たに古墳4基が検出され、副葬品と考えられる鐵刀・鐵鍼が出土した（宮城県教育委員会1991）。また、東北地方南部における古墳時代の政治的・社会的構造を明らかにしようと、それまで行われた台町古墳群の調査記録の集成を行った東北大大学による測量調査（藤沢2006）も行われている。

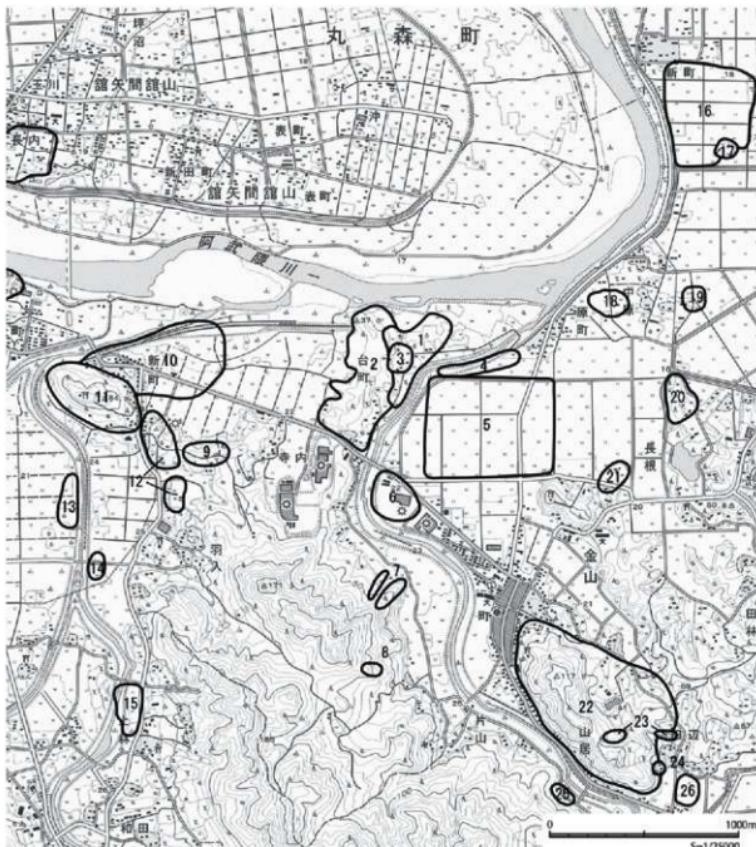
台町館跡は、土塁や空堀のある中世の屋敷跡であるが、これまでに発掘調査は行われていない。



第1図 丸森町の位置



第2図 遺跡の位置



番号	道路名	立地	種別	時代	番号	道路名	立地	種別	時代
1	台町遺跡	沖縄平野	散布地	満文・弥生	14	越川遺跡	自然堤防	散布地	古墳～奈良
2	台町古墳群	丘陵	古墳・散布地	満文・弥生・古墳中・後	15	足道跡	谷底平野	集落	満文～中世
3	台町加跡跡	沖縄平野	城館	中世	16	矢ノ日遺跡	冲縄平野	散布地	古墳～中世
4	原町遺跡	沖縄平野	散布地	古代	17	大ノ日御跡	自然堤防	城館	中世
5	船渡港遺跡	沖縄平野	集落	古代	18	南瀬遺跡	冲縄平野	散布地	古墳中・後・奈良
6	雲道跡	自然堤防	散布地	奈江・平安	19	中瀬遺跡	冲縄平野	散布地	古墳中
7	上片山古墳群	丘陵	古墳	古墳中・後	20	北瀬遺跡	丘陵麓	散布地	満文
8	小富士山古墳群	丘陵	古墳	古墳中・後	21	日置田遺跡	丘陵地	散布地	満文
9	寺内作田遺跡	丘陵斜面	散布地	弥生	22	金山城跡	丘陵	城館	中世
10	大古町遺跡	沖縄平野	古墳・散布地	古代・中世	23	下田辺横穴墓群	丘陵斜面	横穴墓	古墳後
11	丸山遺跡	丘陵	城跡・散布地	満文・中世・近世	24	長崎寺廻内跡塚	丘陵斜面	經塚	近世
12	新町古墳群	丘陵	古墳	古墳中・後	25	河原瀬遺跡	丘陵麓	散布地	弥生
13	越田遺跡	自然堤防	散布地	古墳・奈良	26	深田古墳群	谷底平野	古墳	古墳後

第3図 台町遺跡・台町古墳群と周辺の遺跡

本遺跡の周辺には、以下のような遺跡がある。

縄文時代の遺跡には、泉遺跡、松崎遺跡、日照田遺跡があり、泉遺跡では縄文時代中期の大木 10 式・晚期の大洞 C 式、日照田遺跡では中期の大木 8 式の土器が採集されている。

弥生時代の遺跡では、石庖丁が採集された寺内作田遺跡、磨製石剣が採集された河原開遺跡がある。

古墳時代になると遺跡数が増加し、今回調査を行った台町古墳群のほか、上片山古墳群、小富士山古墳群、新町古墳群などで古墳が築造されるほか、矢ノ目遺跡では集落が確認されており、昭和 34・35 年の発掘調査で、古墳時代中期の南小泉式・後期の栗開式の土師器や石製模造品が出土し、10 棟以上の竪穴住居跡が確認された（志間 1964）。

古代の遺跡では、大古町遺跡で平成 13～15 年度に国道 113 号線バイパス改良工事に伴う発掘調査が行われ、竪穴住居跡 3 軒を検出した。住居跡出土の土師器から 8 世紀後半から 9 世紀頃と推定している（丸森町教育委員会 2003・2004）。

中世から近世に入ると台町館跡のほか、丸山館跡、矢ノ目館跡、金山城跡など城館がつくられるようになる。また、前述した大古町遺跡でも、中世から近世にかけての集落跡を発見している。大古町遺跡では平成 8～9 年度に行われた桜づみ工事に伴う調査で、12 世紀後半から 13 世紀前半の輸入陶磁器、常滑産の甕などの遠隔地で生産された遺物やかわらけが出土し、文治の乱前後に遺跡が存在し、平泉廃絶後も鎌倉幕府とかかわりを持つような権力者が居住していたと考えられる（丸森町教育委員会 1999）。

さらに、大古町遺跡で行われた平成 13～15 年度の調査では、井戸跡から伊達家の家紋である三引両紋が描かれた片口漆椀や「法度」と書かれた高札と見られる遺物が出土している。これらは、伊達宗が居住した丸山館跡が機能していた時期と推定される年代と同時期で、関連があるものと考えられる（丸森町教育委員会 2003・2004）。

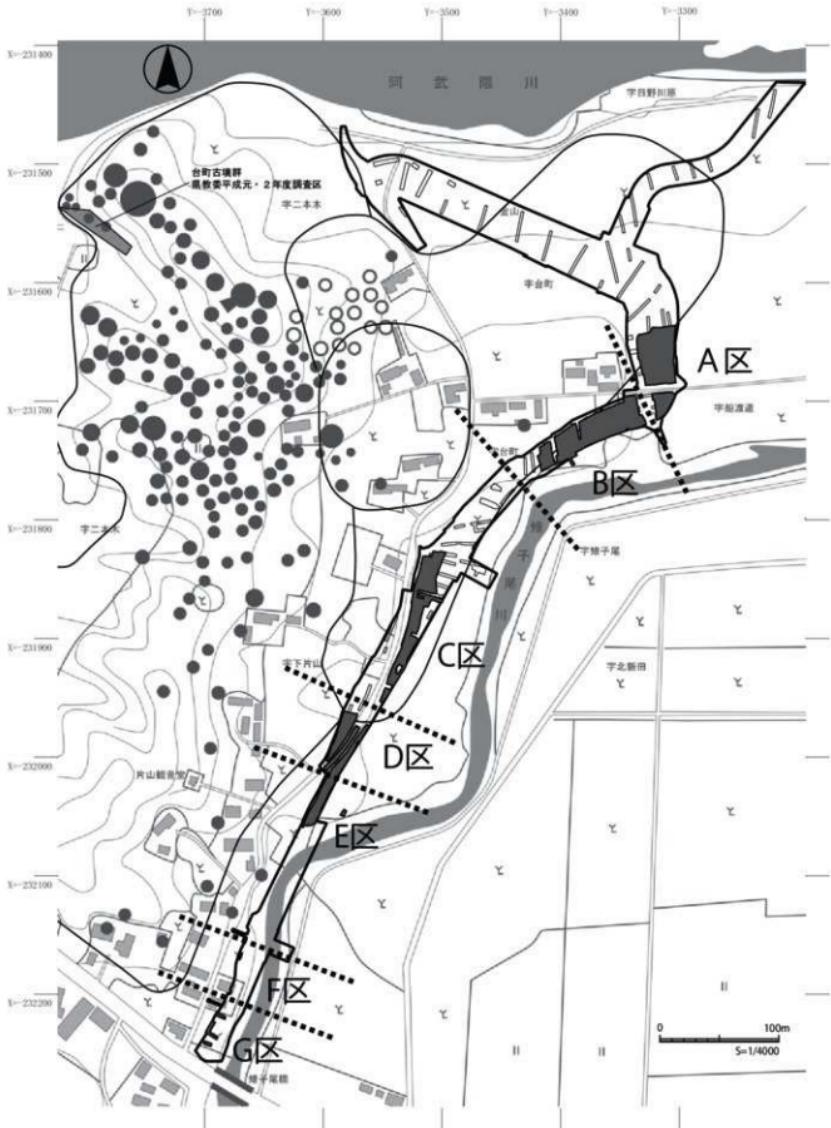
第 3 章 調査の方法と経過

調査区域の名称は前年の確認調査で設定した区域名を参考に、旧地形により、北側から A・B・C・D 区と呼称し、また、今年度発掘調査に着手した D 区南側については、北側から E・F・G 区と呼称した（第 4 図）。さらに、各区を調査に着手した順に、A 区を A-1～2 区、B 区を B-1～4 区、C 区を C-1～6 区、D 区を D-1～4 区、E 区を E-1～2 区に細分した。

本発掘調査は平成 28 年 5 月 9 日から同年 12 月 16 日まで行った。国土交通省との協議により、工事着手予定が早い南側（E 区）から調査に着手した。

E 区の調査は 5 月 9 日より開始した。重機で表土を除去したところ、遺構確認面で溝跡や土坑などを確認したことから、調査区域を拡張し、6 月 3 日まで調査を行った。

D 区の調査は 5 月 26 日に着手した。D 区は調査区域の中央部に町道が通っており、調査開始時点では生活道路として使用されていたため、町道の両側を先行して調査することとした。調査は 6 月 16 日まで行い、溝跡などを発見し、これらの遺構が町道部分にも広がるものとみられたことから、町道の付け替え工事後に調査を行うことし、11 月 2 日～15 日、11 月 29 日～12 月 8 日に調査を行った。



第4図 調査区配置図

C 区の調査は 6 月 10 日に着手した。事業区域内に条件が整わない区域があったことから、この部分以外の調査を 7 月 13 日まで行った。調査の結果、調査区域外にも遺構が広がるものとみられたことから、条件が整い次第調査を行うこととなり、平成 29 年 1 月 30 日・31 日に調査を実施した。

B 区の調査は 7 月 19 日から 12 月 16 日まで行った。B 区では検出した溝跡（SD7）が半円形になつており、円墳がある可能性があったため、国土交通省と協議し、9 月 26 日に調査区の拡張を行つた。しかし、古墳と確認できる遺物・遺構は検出されなかつたため、古墳ではないと判断した。

A 区の調査は 9 月 9 日から 12 月 16 日まで行なつた。B 区の北側を東に伸びる農道の北側から調査を行い、溝跡（SD1）が農道の南側へ延びることが確認されたため、この箇所を A-2 区として調査を行なつた。

11 月 18 日には、日本特殊撮影株式会社に委託し、遺跡の航空写真の撮影を行つてゐる。

12 月 16 日には発掘作業の大部分を終了し、遺物の整理、図面データの整理作業に着手し、平成 29 年 3 月 30 日に調査を終了した。

なお、7 月 7 日には、町内の啓明小学校より発掘現場の見学（児童 18 名・引率 3 名）を受け入れて案内を行つたほか、10 月 8 日には地域の住民を対象として現地説明会を実施し、雨天にもかかわらず 20 名の参加を得た。

また、F 区の調査は 7 月 15 日に行い遺構・遺物は検出されなかつた。G 区の確認調査は 8 月 3 日に行つた。雉子尾橋の袂付近に 3 つのトレンチを設定したが、土師器の細片が出土したのみで遺構は確認されず、8 月 5 日に調査を終了した。

さらに、12 月 26 日に新たに発生した付帯工事に伴う調査を実施して（E-2 区）、時期不明の溝跡 1 条を検出した。

調査面積は約 6,133 m²で、遺構確認面までの掘削はバックホーを使用して行つた。検出した遺構は、トータルステーション及び電子平板システム（「遺構くん」cubic 社）を使用して平面図を作成し、断面図は手実測で作成した。また、記録写真には 6 × 7 cm 判カラーリバーサル・モノクロネガフィルム及びデジタル一眼レフカメラを使用している。

第4章 基本層序

本発掘調査区は沖積低地から丘陵端部に位置し、標高は16～22mである。調査地点における層序は、丘陵部と低地部で異なり、II～VII層が低地部、IX層が丘陵部で確認される（第5図）。

第I層：現表土・盛土・旧表土。

第II層：褐色（10YR4/6）粘土質シルト。河川由来の自然堆積層。

第III層：にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト質粘土。河川由来の自然堆積層。

第IV層：灰黄褐色（10YR4/2）粘土質シルト。河川由来の自然堆積層。

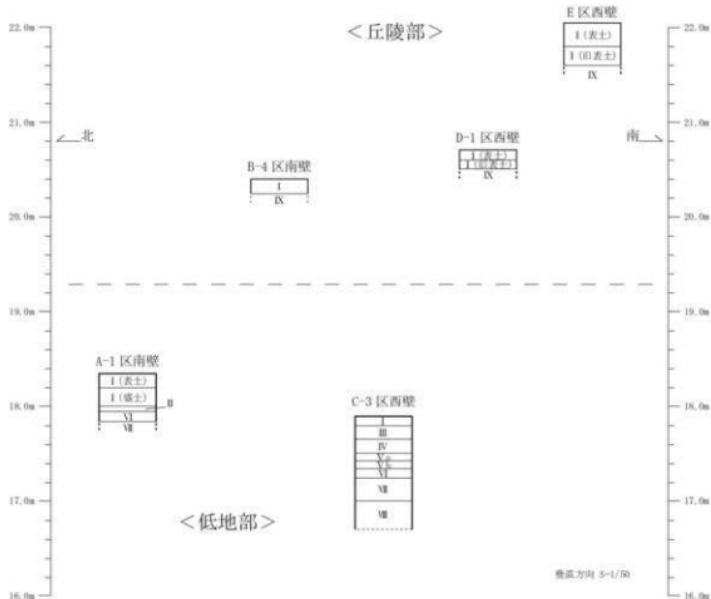
第V層：暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）を呈する河川由来の自然堆積層。

第VI層：暗褐色（10YR3/3）粘土質シルト。河川由来の自然堆積層。

第VII層：褐色（10YR4/4）シルト質粘土。河川由来の自然堆積層。A・C区の遺構確認面。

第VIII層：褐色（10YR4/4）シルト質粘土。第VII層に比べてしまりがある。河川由来の自然堆積層。

第IX層：にぶい黄褐色（10YR5/4）粘土。B・D・E区の遺構確認面。



第5図 基本層序

第5章 発見した遺構と遺物

今回の調査で検出した遺構は、竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡10棟、堀跡・柱穴列跡5条、井戸跡2基、土坑36基、溝跡56条、ピットなどがある。丘陵端部にあたるB区およびD+E区に集中する。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦、中世陶磁器、近世陶磁器、金属製品、石器・石製品、土製品があり、54×34×15cmの整理箱で18箱分出土した。

以下に、発見した遺構と遺物について調査区ごとに詳述する。なお、遺構は主要なものについて記述し、章末にすべての遺構の観察表を掲載した。

第1節 A・B区

遺跡の北東部に位置し、標高16～17mの沖積低地にあるA-1・2区と、標高17～20mの丘陵端部にあるB-1～4区に分けられる。B-4区西部の標高が最も高く、これより東側は旧地形が残り、ゆるやかに傾斜しているのに対し、西側の大部分は過去の開田工事により段状に削平されている。遺構は竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡9棟、堀跡・柱穴列跡5条、井戸跡1基、土坑22基、溝跡20条、整地層2箇所を検出した（第6～10図）。

A. 竪穴住居跡

【SI2住居跡】（第11・12・13図、第1表）

【位置・検出面】B-4区南西部で検出した。検出面は地山（IX層）である。

【重複】SB8建物跡、SK48・59土坑と重複し、SK48・59土坑より新しく、SB8建物跡よりも古い。

【平面形】長径4.5m、短径4.2mの円形を呈する。

【壁】地山を壁とし、床面から外側にやや傾斜をもって立ち上がる。壁高は最も残りのよい南側で床面から19cmである。東側では、地山ブロックを多く含む暗褐色シルトで壁を補修した痕跡を確認した。

【床面】住居掘り方理土を床面としている。南側約2/3の範囲はほぼ平坦であるが、北側約1/3の範囲は最大高14cmのマウンド状の高まりをもつ。住居掘り方理土の厚さは、南側の平坦部が2～11cm、北側のマウンド状の高まりが5～21cmある。また、掘り方底面では、住居内の北東側、円周の約1/4の範囲で、上幅約60～85cm、下幅約40～60cm、深さ14cmの構状の掘り込みが認められた。これは、住居の掘り方の段階で、北東側へ一度拡張したものとみられる。

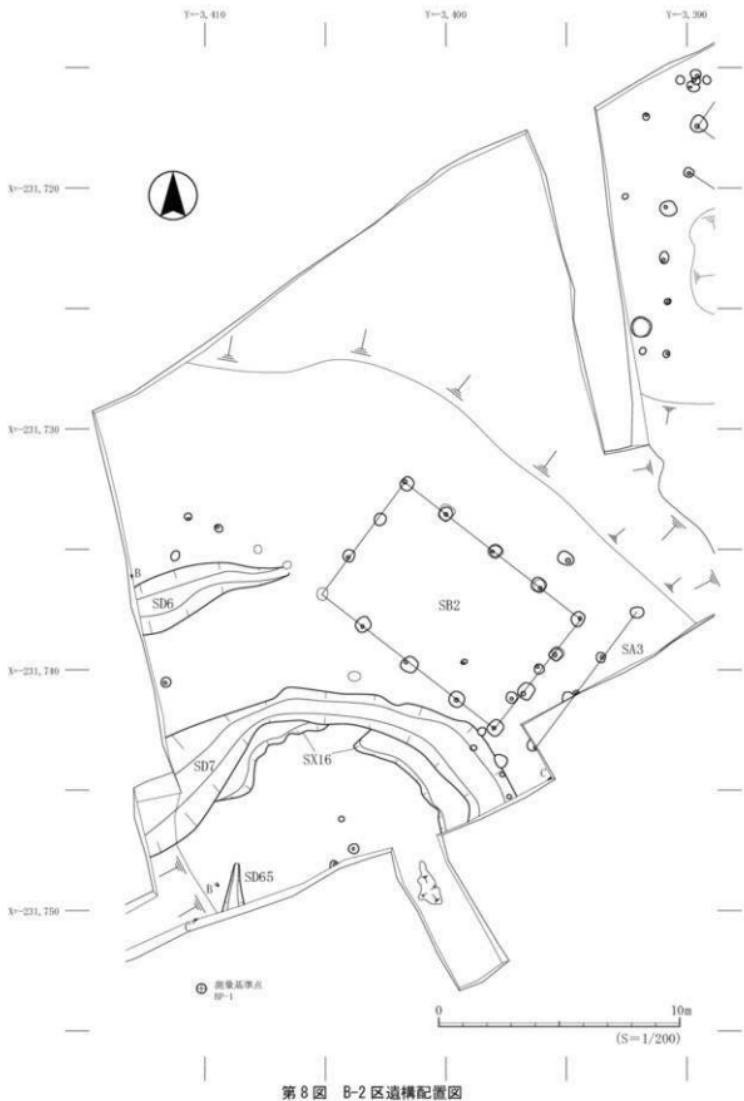
【柱穴】住居跡に伴うとみられる柱穴を3箇所で検出した。平面形は直径27～35cmの円形または不整な円形を呈し、深さが24cmある。埋土は、炭化物粒をわずかに、地山ブロックを多く含むにぶい黄褐色粘土質シルトである。柱痕跡は2箇所で確認し、柱穴1では直径12cmの円形を呈し、深さが9cmある。また、柱穴1では柱抜き取り穴を確認した。

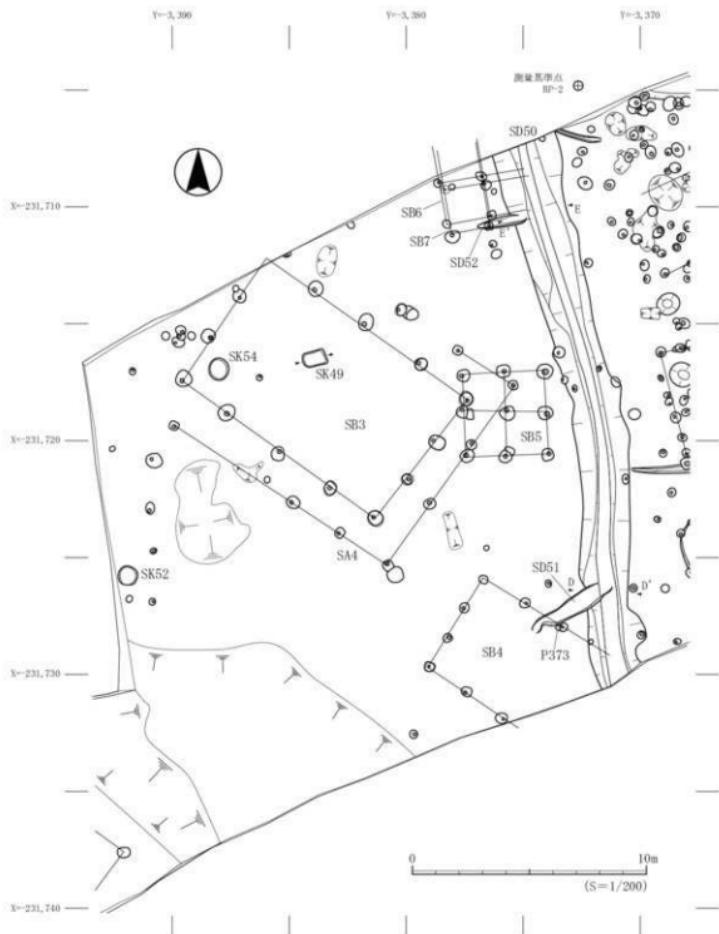
【貯蔵穴状土坑】住居内の東側で貯蔵穴とみられる土坑（土坑1）を検出した。平面形は長径110cm、短径92cmの楕円形、断面形は深さ40cmの浅い皿形を呈する。炭化物粒を少量含み、焼土ブロックおよび地山ブロックを多く含む暗褐色シルトで埋め戻されている。





第7図 A区造構配置図

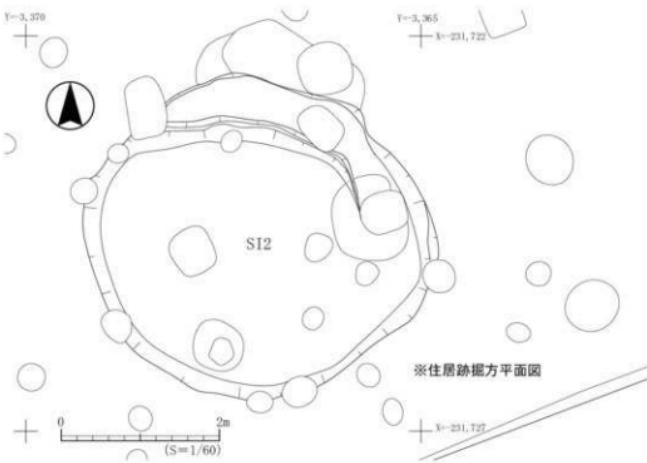
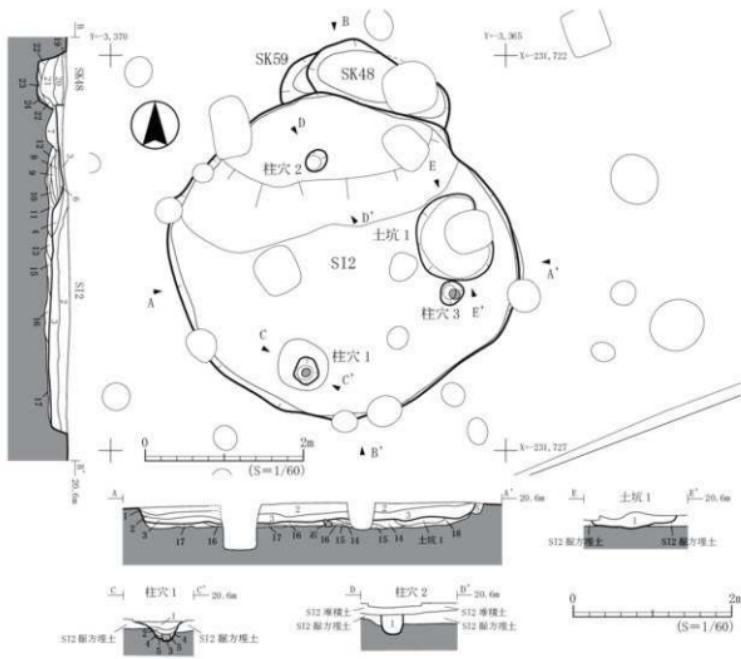




第9図 B-3区造構配置図



第10図 B-4区造構配置図



第11図 SI2 住居跡平面図・断面図・掘方平面図

第1表 S12 住居跡 土層観察表

遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
S12	1	暗褐色 (109R3/2)	シルト	地山小~中プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	2	暗褐色 (109R3/3)	シルト	地山粒~中プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	3	黒褐色 (109R3/2)	シルト	地山小~中プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	4	黒褐色 (109R3/2)	シルト	地山小~中プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	5	暗褐色 (109R3/2)	シルト	地山小~大プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	6	暗褐色 (109R3/3)	シルト	地山粒~中プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	7	暗褐色 (109R3/3)	シルト	地山粒~中プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	8	暗褐色 (109R3/3)	シルト	地山中~大プロック少量。	堆積土
	9	にじ~黄褐色 (109R4/3)	粘土質シルト	地山中プロック多量。	堆積土
	10	暗褐色 (109R3/3)	シルト	地山中~中プロック多量、炭化物粒微量。	堆積土
	11	暗褐色 (109R3/3)	シルト	地山粒~中プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	12	にじ~黄褐色 (109R4/3)	粘土質シルト	地山中~大プロック多量。	堆積土
	13	暗褐色 (109R3/4)	シルト	地山粒~中プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	14	にじ~黄褐色 (109R4/2)	シルト	地山中~大プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	15	灰褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山中~大プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	16	灰褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山中~大プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	17	にじ~黄褐色 (109R4/3)	粘土質シルト	地山中~大プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	18	暗褐色 (109R3/2)	シルト	地山中~中プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	19	暗褐色 (109R3/2)	シルト	地山中~中プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	20	暗褐色 (109R3/3)	シルト	地山中~中プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	21	暗褐色 (109R3/3)	シルト	地山中~中プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	22	暗褐色 (109R3/3)	シルト	地山中~中プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	23	暗褐色 (109R3/2)	シルト	地山中~中プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	24	暗褐色 (109R3/3)	シルト	地山中~中プロック少量、炭化物粒微量。	堆積土
	3	黒褐色 (109R3/2)	シルト	炭化物粒・礫土粒微量。	柱状取穴
	2	黒褐色 (109R3/2)	シルト	地山粒~中プロック・炭化物粒・礫土粒少量。	柱状取穴
	3	にじ~黄褐色 (109R4/3)	粘土質シルト	地山中プロックを含む。炭化物粒微量。	柱状取穴
	4	にじ~黄褐色 (109R4/3)	粘土質シルト	地山中~中プロックを含む。炭化物粒微量。	柱状取穴
	5	にじ~黄褐色 (109R4/3)	粘土質シルト	地山中~大プロック・炭化物粒微量。	柱状取穴
S12-柱穴1 C-C'	1	暗褐色 (109R3/4)	粘土質シルト	地山中~中プロックを多量、炭化物粒を少量。地土 (S085/6 明赤褐色粘土質シルト) 中~大プロックを多量含む。	堆積土
S12-柱穴2 D-D'	1	暗褐色 (109R3/3)	シルト	地山中~中プロックを多量、炭化物粒を少量。地土 (S085/6 明赤褐色粘土質シルト) 中~大プロックを多量含む。	堆積土
S12-土坑1 E-E'	1	暗褐色 (109R3/3)	シルト	地山中~中プロックを多量、炭化物粒を少量。地土 (S085/6 明赤褐色粘土質シルト) 中~大プロックを多量含む。	堆積土

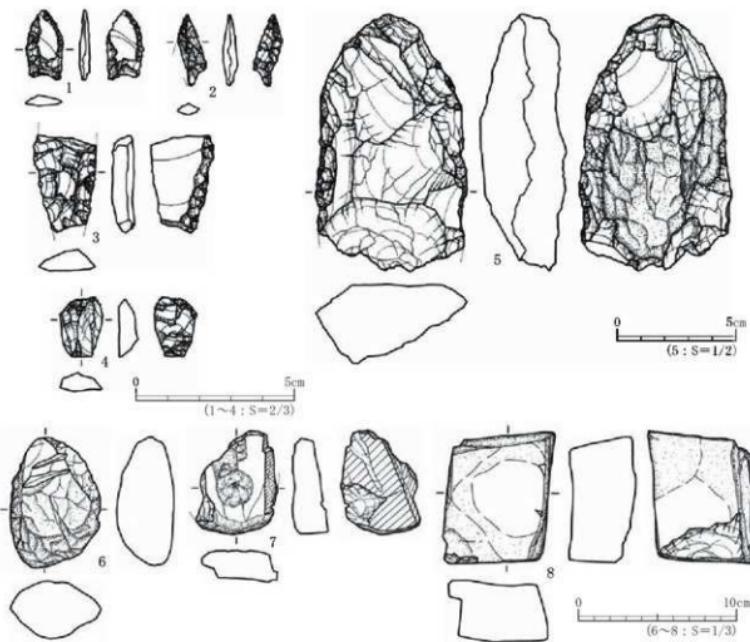


No.	施設	部類	遺構	層位	残存	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴	写真図版	登録番号
1	泥生土器	鉢	S12-1	堆積土上層	全体	-	-	-	縦横文 内にヨコナメ	2-2	P113
2	泥生土器	鉢	S12-2	堆積土上層	全体	-	-	-	縦横文 内にヨコナメ	2-3	P115
3	泥生土器	鉢	S12-3	堆積土上層	全体	-	-	-	縦横文 内にヨコナメ (手取川式) 内に「ミサキ」縦横文内凹痕	2-4	P121
4	泥生土器	鉢	S12-4	堆積土上層	全体	-	-	-	縦横文 内にヨコナメ (手取川式) 内に「ミサキ」縦横文内凹痕	2-5	P122
5	泥生土器	鉢	S12-5	堆積土上層	全体	-	-	-	縦横文 内にヨコナメ (手取川式) 内に「ミサキ」縦横文内凹痕	2-6	P123
6	泥生土器	鉢	S12-6	堆積土上層	全体	-	-	-	縦横文 内にヨコナメ (手取川式) 内に「ミサキ」縦横文内凹痕	2-7	P124
7	泥生土器	鉢	S12-7	堆積土上層	全体	-	-	-	縦横文 内にヨコナメ (手取川式) 内に「ミサキ」縦横文内凹痕	2-8	P125
8	泥生土器	鉢	S12-8	堆積土上層	全体	-	-	-	縦横文 内にヨコナメ (手取川式) 内に「ミサキ」縦横文内凹痕	2-9	P126
9	泥生土器	鉢	S12-9	堆積土上層	全体	-	-	-	縦横文 内にヨコナメ (手取川式) 内に「ミサキ」縦横文内凹痕	2-10	P127
10	泥生土器	鉢	S12-10	堆積土上層	全体	-	-	-	縦横文 内にヨコナメ (手取川式) 内に「ミサキ」縦横文内凹痕	2-11	P128
11	泥生土器	鉢	S12-11	堆積土上層	全体	-	-	-	縦横文 内にヨコナメ (手取川式) 内に「ミサキ」縦横文内凹痕	2-12	P129
12	泥生土器	鉢	S12-12	床面	全体	-	-	-	縦横文 内にヨコナメ (手取川式) 内に「ミサキ」縦横文内凹痕	2-13	P137

第12図 S12 住居跡出土遺物 (1)

〔堆積土〕 4層確認した。1・2層は炭化物粒をわずかに、地山粒～プロックを少量含む暗褐色シルト、3・4層は炭化物粒をわずかに、地山プロックを少量含む黒褐色シルトで、いずれも自然堆積層である。

〔出土遺物〕 弥生土器鉢 (第12図1～2)・壺 (同図3・4)・甕 (同図5～12)、石鍬 (第13図1～2)・石匙 (同図3)・楔形石器 (同図4)・打製石斧 (同図5)・磨石 (同図8)・凹石 (同図7)・砥石 (同図6) が出土した。弥生土器はいずれも小破片だが、平行沈線文をもつ土器 (第12図3・4・7) のほか、頸部に横線の沈線を持つ土器 (同図5) が認められる。



第13図 SI2 住居跡出土遺物（2）

【S13 住居跡】（第14・15図）

〔位置・検出面〕B-4区北東で検出した。検出面は地山（IX層）である。

〔重複〕なし

〔平面形〕大半が調査区外で、検出できたのは南東部分のみである。南北1.7m以上、東西1.4m以上で、方形を呈するとみられる。方向は東辺でN-11° -Wである。

〔壁〕地山を壁とし、やや斜めに立ち上がる。高さは最も残りのよい南壁で床面から12cmである。

〔床面〕掘方埋土を床面としている。ほぼ平坦であるが、標高の低い東に向かって緩やかに傾斜している。住居掘方埋土の厚さは6～16cmである。

〔柱穴〕主柱穴と明確に言えるものは検出されていない。ただし、調査区北壁で柱穴1個（柱穴1）を検出した。南側半分のみの検出で、柱痕跡は確認できなかった。径32cm、深さ26cmである。また、

No.	種別	層位	連続	断面	既存	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考	写真番号	標識番号
1	石器	石器	S12	2層	完形	珪質灰岩	2.15	1.14	0.33	円基	24-13	573
2	石器	石器	S12	3層	基礎・集落文様	珪質灰岩	2.25	0.79	0.40	有基	24-14	572
3	石器	石器	S12	堆積土	破片	珪質灰岩	2.97	1.98	0.62	断形	24-15	562
4	石器	塊状石器	S12	堆積土	完形	珪質灰岩	1.89	1.31	0.61		24-16	563
5	石器	打制石器	S12	床面	刃部欠損	安山岩質灰岩	10.85	6.40	3.25		24-18	566
6	石器	石器	S12	床面	一部欠損	礫石	8.27	5.75	3.92		24-20	567
7	石器	石器	S12	輪廓土	破片	珪質灰岩	6.49	4.91	2.10	礫石の転用	24-17	569
8	石器	帶石	S12	堆積土	完形	玄武岩質安山岩	8.11	6.29	3.83		24-19	561

壁柱穴を8個検出した。径10cm、深さ16cmである。

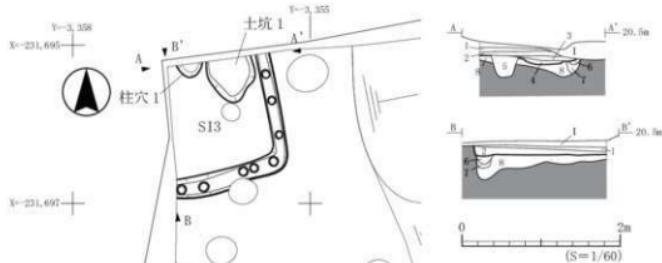
[堆積土]3層確認した。1層は炭化物粒と小礫をわずかに含む黒褐色粘土質シルト、2層は炭化物粒・地山粒・小礫をわずかに含む暗褐色粘土質シルトである。3層は住居検出範囲の北東部で部分的に確認したもので、焼土を多く含む暗褐色粘土質シルトである。いずれも自然堆積層である。

[カマド]カマドは不明である。

[周溝]東辺と南辺で検出した。上幅14~26cm、下幅12~17cm、深さ8~12cmで、断面形はU字形である。堆積土は地山ブロックと微量の炭化物粒を含む暗褐色粘土質シルトで、人為堆積である。

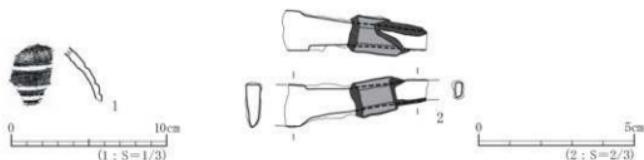
[土坑]調査区北壁際で土坑を1基(土坑1)検出した。平面形は不整な楕円形で、長軸60cm以上、深さは6cmある。断面形は皿形を呈する。地山ブロックを含み、炭化物粒をわずかに含む、暗褐色の粘土質シルトで埋め戻されている。

[出土遺物]須恵器提瓶(第15図1)、刀子(同図2)が出土した。刀子は周溝埋土からの出土で、木質部が残存している。



遺物名	編号	土色	土性	特徴	分類
S13	1-a'	黒褐色(10YR 2/3)	粘土質シルト	小礫・炭化物粒微量、土間隙率微量。	堆積土
	1-b'	黒褐色(10YR 2/3)	粘土質シルト	地山小へ半ブロック多量、炭化物粒微量。	堆積土
	2	暗褐色(10YR 2/3)	粘土質シルト	地山多量、炭化物粒少量。	堆積土
	3	暗褐色(10YR 2/3)	粘土質シルト	地山小へ半ブロック少量、炭化物粒微量。	土坑1(土壁)
	4	暗褐色(10YR 2/3)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、炭化物粒微量。	柱穴1(腰方)
	5	暗褐色(10YR 2/3)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、炭化物粒微量。	柱穴1(腰方)
	6	暗褐色(10YR 2/3)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、炭化物粒微量。	周溝埋土
	7	暗褐色(10YR 2/3)	粘土質シルト	地山小へ半ブロックを含む、小礫・粗砂多量。	周溝部
	8	暗褐色(10YR 2/3)	粘土質シルト	地山小へ半ブロックを含む。	堆積土

第14図 S13住居跡平面図・断面図



No.	種別	器種	遺構	層位	残存	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	特徴	写真図版 登録番号
1	須恵器	提瓶	S13	3	全体	-	-	-	外:ロクロナデ、構造部状況 内:ロクロナデ	24-21 P100
2	金属製品	刀子	S13	4	底部	(4.63)	1.36	0.68	木質残存	24-22 ￥5

第15図 S13住居跡出土遺物

B . 挖立柱建物跡

【SB2 建物跡】(第 16・18 図、第 2 表)

〔位置・検出面〕B-2 区南部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕なし。

〔規模・構造〕桁行4間、梁行3間の東西棟である。桁行は東側柱列で総長9.2m、柱間寸法が北から2.1m・2.5m・2.5m・2.1mあり、梁行は南側柱列で総長5.8m、柱間寸法が西から1.8m・2.1m・1.8mある。また、建物の東・南辺外側にSA3 柱穴列跡があり、この建物に付随する堀跡とみられる。

〔方向〕南側柱列でみると西で約38° 北に偏する。

〔柱穴〕14ヶ所で確認した。平面形は隅丸方形または円形を呈する。長軸48～68cm、短軸44～62cm、深さ10～62cmある。埋土は地山ブロックを含む、ややしまりの弱い褐色～暗褐色を呈する粘土質シルトである。柱痕跡は12ヶ所で確認し、径14～20cmある。柱抜き取り穴は5ヶ所で確認した。

〔出土遺物〕P2 の掘方埋土から弥生土器壺(第44図1)、P8 の掘方埋土から土師器甕が出土している。

【SB3 建物跡】(第 16・18 図、第 3 表)

〔位置・検出面〕B-3 区西部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕SB5 建物跡と重複し、これよりも新しい。

〔規模・構造〕桁行4間、梁行3間の東西棟である。桁行は西側柱列で総長10.1m、柱間寸法が北から2.3m・2.7m・2.7m・2.4mあり、梁行は南側柱列で総長6.4m、柱間寸法は西から2.2m・2.0m・2.2mある。また、建物の東・南・西辺外側に堀跡とみられるSA4 堀跡がある。

〔方向〕南側柱列でみると西で約36° 北に偏する。

〔柱穴〕13ヶ所で確認した。平面形は円形または楕円形を呈する。長軸43～73cm、短軸38～67cm、深さ26～56cmある。埋土は地山ブロックを含む、ややしまりの弱い褐色～暗褐色を呈する粘土質シルトである。柱痕跡は13ヶ所で確認し、径14～21cmある。柱抜き取り穴は5ヶ所で確認した。

〔出土遺物〕遺物は出土していない。

【SB4 建物跡】(第 16・18 図、第 4 表)

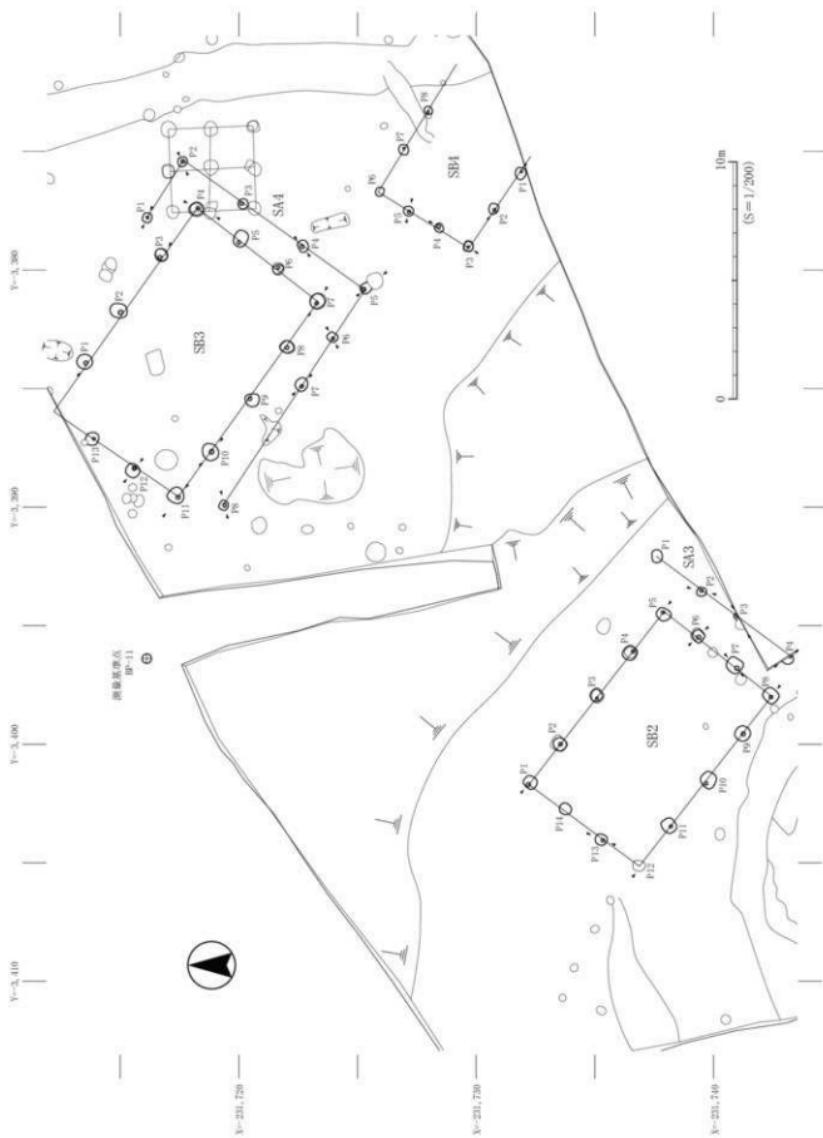
〔位置・検出面〕B-3 区南東部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕SD50 構跡と重複するが、新旧関係は不明である。

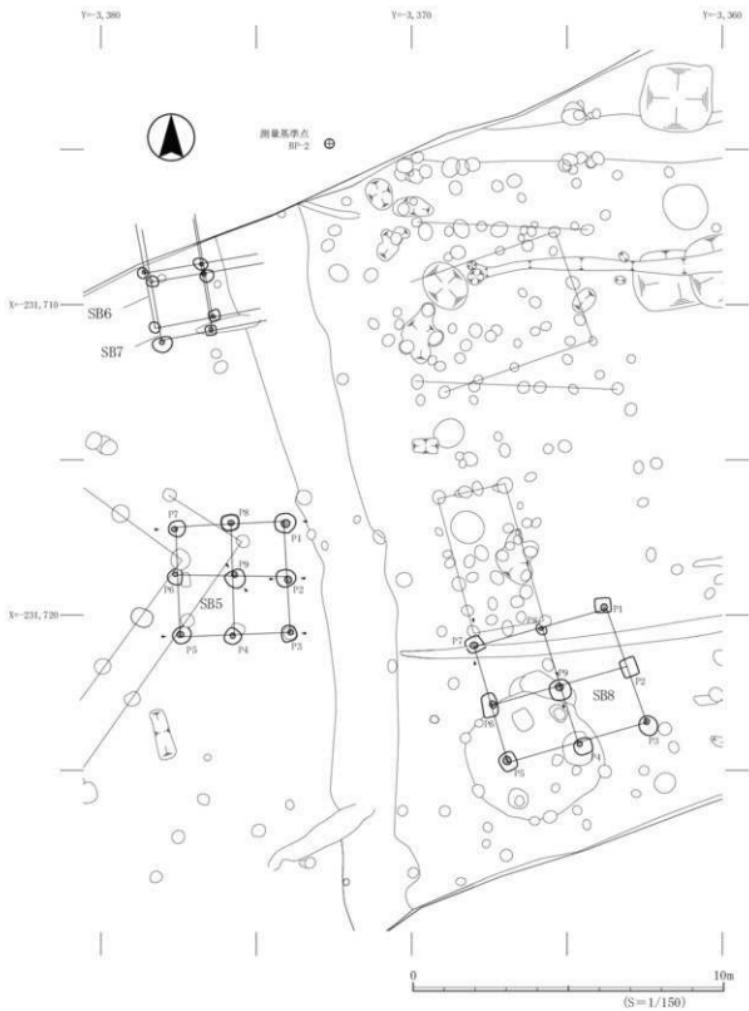
〔規模・構造〕桁行2間以上、梁行3間の東西棟である。桁行は西側柱列で総長3.9m以上、柱間寸法が北から1.9m・2.0mあり、梁行は北側柱列で総長4.5m、柱間寸法が西から1.5m・1.4m・1.6mある。

〔方向〕北側柱列でみると東で約34° 南に偏する。

〔柱穴〕8ヶ所で確認した。平面形は円形である。長軸35～51cm、短軸34～44cm、深さ8～24cmある。埋土は地山ブロックを含む黄褐色または暗褐色を呈する粘土質シルトである。柱痕跡は6ヶ所で確認し、径11～16cmある。柱抜き取り穴は1ヶ所で確認した。

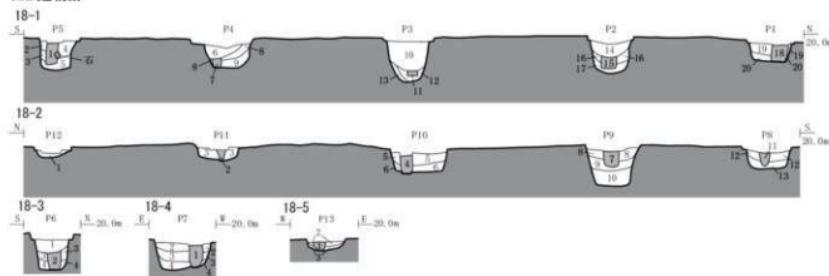


第16図 SB2・3・4建物跡平面図

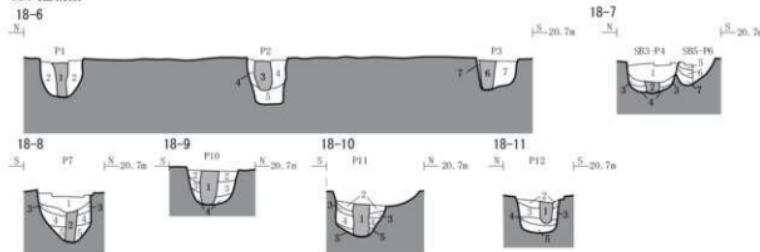


第17図 SB5・6・7・8建物跡平面図

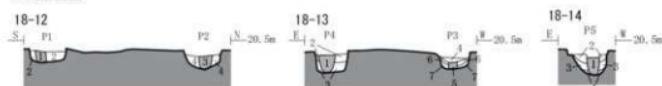
SB2 建物跡



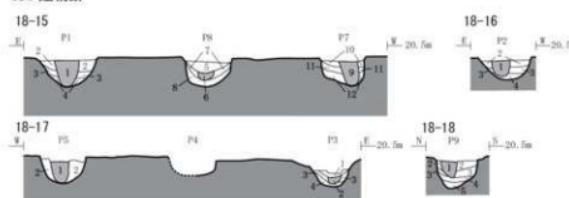
SB3 建物跡



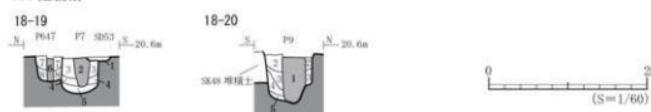
SB4 建物跡



SB5 建物跡



SB8 建物跡



第18図 B区掘立柱建物跡断面図

第2表 SB2 建物跡 土層観察表

測線名	測線No.	層序	土色	土性	特徴	分類
SB2-P5(P312)	18-1	1	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山小ブロック少量。	柱基礎
		2	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山粉少量。	柱方墊土
		3	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱方墊土
		4	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山小ブロック少量。	柱方墊土
		5	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉へブロックを含む。	柱方墊土
		6	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	炭化物微量。	柱抜取穴
		7	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱基础
		8	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山粉へブロック少量。	柱方墊土
		9	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉へブロックを含む。	柱抜取穴
		10	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	含有物なし。	柱基础
		11	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱方墊土
		12	[に] 黄褐色 (1015/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量。	柱方墊土
		13	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山小ブロック微量。	柱方墊土
		14	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山小ブロック微量。	柱抜取穴
		15	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山小ブロック微量。	柱基础
		16	黄褐色 (1015/6)	粘土質シルト	地山中ブロック多量。	柱方墊土
		17	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉少量。	柱方墊土
		18	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉へ炭化物微量。	柱基础
		19	[に] 黄褐色 (1014/2)	粘土質シルト	地山粉へブロック少量。	柱方墊土
		20	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱方墊土
SB2-P12(P206)	19-2	1	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱抜取穴
SB2-P11(P305)	2	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱基础	
SB2-P19(P308)	3	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量。	柱方墊土	
		4	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	粘土質シルト	柱基础
		5	褐色 (1014/6)	粘土質シルト	地山粉へブロックを含む。	柱方墊土
		6	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉へブロック少量。	柱方墊土
		7	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱基础
		8	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山粉へブロック少量。	柱方墊土
		9	黄褐色 (1015/6)	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。	柱方墊土
		10	黄褐色 (1015/6)	粘土質シルト	地山小ブロック多量。	柱基础
SB2-P8(P310)	11	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山・炭化物微量。	柱基础	
		12	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉へブロック微量。	柱方墊土
		13	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉へブロック少量。	柱方墊土
SB2-P6(P312)	18-3	1	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉へブロック少量、炭化物粒微量。	柱抜取穴
		2	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱基础
		3	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱方墊土
		4	[に] 黄褐色 (1014/3)	粘土質シルト	地山中ブロックを含む。	柱方墊土
SB2-P7(P313)	19-4	1	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉へ炭化物微量。	柱基础
		2	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山小ブロック微量。	柱基础
		3	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱方墊土
		4	褐色 (1014/6)	粘土質シルト	地山粉へブロックを含む。	柱方墊土
		5	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	炭化物粒・地山中ブロック少量。	柱基础
SB2-P13(P319)	19-5	1	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	炭化物粒・地山中ブロック少量。	柱基础
		2	[に] 黄褐色 (1014/3)	粘土質シルト	炭化物粒微量・地山中ブロック少量。	柱基础
		3	褐色 (1014/6)	粘土質シルト	炭化物粒微量・地山大ブロックを多く含む。	柱方墊土

第3表 SB3 建物跡 土層観察表

測線名	測線No.	層序	土色	土性	特徴	分類
SB3-P1(P306)	18-6	1	[に] 黄褐色 (1014/3)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱基础
		2	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山小へブロック多量。	柱方墊土
SB3-P2(P305)	3	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱基础	
		4	[に] 黄褐色 (1014/3)	粘土質シルト	地山粉へブロックを含む。	柱方墊土
SB3-P3(P306)	5	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱基础	
		6	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉へブロックを含む。	柱方墊土
SB3-P4(P302)	19-7	1	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉へブロックを含む。	柱抜取穴
		2	黑暗色 (1012/2)	粘土質シルト	地山小ブロック微量。	柱基础
		3	暗褐色 (1013/3)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱方墊土
		4	[に] 黄褐色 (1014/3)	粘土質シルト	地山中ブロック微量。	柱方墊土
		5	褐色 (1014/6)	粘土質シルト	地山粉へブロックを含む。	柱方墊土
SB3-P6(P301)	19-8	1	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉へブロック微量。	柱基础
		2	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山小ブロック微量。	柱基础
		3	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱方墊土
		4	褐色 (1014/6)	粘土質シルト	地山粉へブロックを含む。	柱方墊土
SB3-P7(P310)	19-9	1	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	炭化物粒・地山中ブロック少量。	柱基础
		2	[に] 黄褐色 (1014/3)	粘土質シルト	炭化物粒微量・地山中ブロック少量。	柱基础
		3	褐色 (1014/6)	粘土質シルト	炭化物粒微量。	柱方墊土
SB3-P9(P309)	19-10	1	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量。	柱基础
		2	[に] 黄褐色 (1014/3)	粘土質シルト	地山中ブロック微量、炭化物粒微量。	柱方墊土
		3	褐色 (1014/3)	粘土質シルト	地山中ブロック微量、炭化物粒微量。	柱方墊土
		4	[に] 黄褐色 (1014/3)	粘土質シルト	地山中ブロック微量、炭化物粒微量。	柱方墊土
		5	褐色 (1014/6)	粘土質シルト	地山中ブロック微量、含有物なし。	柱基础
SB3-P10(P301)	19-11	1	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱基础
		2	[に] 黄褐色 (1014/3)	粘土質シルト	地山中ブロック微量、炭化物粒微量。	柱方墊土
		3	褐色 (1014/3)	粘土質シルト	地山中ブロック微量、炭化物粒微量。	柱方墊土
		4	[に] 黄褐色 (1014/3)	粘土質シルト	地山中ブロック微量、炭化物粒微量。	柱方墊土
		5	褐色 (1014/6)	粘土質シルト	地山中ブロック微量。	柱方墊土
SB3-P11(P320)	19-12	1	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱基础
		2	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山粉少量。	柱方墊土
		3	[に] 黄褐色 (1014/3)	粘土質シルト	地山粉へブロックを含む。	柱方墊土
		4	褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山粉少量。	柱方墊土
		5	[に] 黄褐色 (1014/4)	粘土質シルト	地山粉へブロック多量。	柱基础
SB3-P12(P306)	19-13	1	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉微量。	柱基础
		2	[に] 黄褐色 (1014/3)	粘土質シルト	地山中ブロック多量。	柱方墊土
		3	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉へブロック少量。	柱方墊土
		4	暗褐色 (1013/4)	粘土質シルト	地山粉へブロック少量。	柱方墊土
		5	[に] 黄褐色 (1014/3)	粘土質シルト	地山中ブロック多量。	柱方墊土

第4表 SB4・5・8 建物跡 土層観察表

遺構名	層位名	層位	土色	土性	特徴	分類
SB4-P1 (P229)	18-12	1	暗褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック・炭化物粒少量。	柱坑跡
		2	黄褐色 (10B3/5)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土
SB4-P2 (P228)	2	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物粒少量、炭化物粒微量。	柱坑跡	
	3	深褐色 (10B3/5)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
SB4-P4 (P270)	18-13	1	暗褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック。	柱坑跡
	2	暗褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、	柱力壁土	
	3	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、	柱力壁土	
SB4-P5 (P271)	18-14	1	深褐色 (10B2/3)	粘土質シルト	地山松木根、	柱抜け穴
	2	暗褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山松木根、	柱坑跡	
	3	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山松木根、	柱力壁土	
	4	暗褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、	柱力壁土	
	5	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、	柱力壁土	
	6	暗褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、	柱力壁土	
	7	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、	柱力壁土	
	8	暗褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、	柱力壁土	
	9	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、	柱力壁土	
SB5-P1 (P269)	18-15	1	暗褐色 (10B3/2)	粘土質シルト	地山中ブロック・炭化物粒少量。	柱坑跡
	2	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
	3	...-.-.-. 黄褐色 (10B5/4)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
SB5-P6 (P267)	1	明黄色 (10B1/6)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
	2	暗褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、	柱抜け穴	
	3	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック、炭化物粒少量。	柱坑跡	
	4	暗褐色 (10B3/2)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、	柱力壁土	
	5	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
	6	暗褐色 (10B3/2)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、炭化物粒微量。	柱坑跡	
	7	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
	8	明黄色 (10B1/6-6)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
	9	暗褐色 (10B3/2)	粘土質シルト	地山小ブロック、炭化物粒少量。	柱坑跡	
	10	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
	11	...-.-.-. 黄褐色 (10B5/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
	12	暗褐色 (10B1/8)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
SB5-P2 (P267)	18-16	1	暗褐色 (10B3/2)	粘土質シルト	地山中ブロック・炭化物粒微量。	柱坑跡
	2	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
	3	...-.-.-. 黄褐色 (10B5/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
SB5-P3 (P266)	4	明黄色 (10B3/6)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
SB5-P7 (P263)	18-17	1	暗褐色 (10B3/2)	粘土質シルト	地山中ブロック少量。	柱坑跡
	2	暗褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量。	柱力壁土	
SB5-P9 (P269)	1	暗褐色 (10B3/2)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、	柱抜け穴	
	2	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、	柱坑跡	
	3	...-.-.-. 黄褐色 (10B5/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、	柱力壁土	
	4	明黄色 (10B3/6)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
	5	暗褐色 (10B3/6)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
SB5-P9 (P269)	18-18	1	暗褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック・炭化物粒少量。	柱坑跡
	2	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、	柱力壁土	
	3	...-.-.-. 黄褐色 (10B5/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
	4	明黄色 (10B3/6)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
	5	暗褐色 (10B3/6)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
S03	18-19	1	暗褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロックを含む、炭化物粒微量。	埋隙土
SB6-P7 (P266)	2	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、	柱坑跡	
	3	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
	4	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、	柱力壁土	
	5	暗褐色 (10B3/2)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
P6-47	6	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山松木根、	柱坑跡	
	7	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中ブロックを含む、炭化物粒微量。	柱力壁土	
	8	褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、	柱力壁土	
SB6-P9 (P265)	18-20	1	暗褐色 (10B3/4)	粘土質シルト	地山中・小ブロック少量、炭化物粒少量。	柱坑跡
	2	灰黃褐色 (10Y1/2)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物粒微量。	柱力壁土	
	3	深褐色 (10Y1/2)	粘土質シルト	地山中・小ブロック少量、	柱力壁土	
	4	灰黃褐色 (10Y1/2)	粘土質シルト	地山大・小ブロック微量。	柱力壁土	
	5	灰黃褐色 (10Y1/2)	粘土質シルト	地山松木根、	柱力壁土	

〔出土遺物〕P4 から土師器細片が出土している。

【SB5 建物跡】(第17・18図、第4表)

〔位置・検出面〕B-3区東部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複関係〕SB3 建物跡と重複し、これより古い。

〔規模・構造〕東西2間、南北2間の連続建物である。東西が北側柱列で総長3.5m、柱間寸法が西から1.8m・1.7mあり、南北が東側柱列で総長3.6m、柱間寸法が北から1.8m・1.8mある。

〔方向〕東側柱列でみると北と北約3°西に偏する。

〔柱穴〕9ヶ所で確認した。平面形は円形を基調とし、長軸51～68cm、短軸46～63cm、深さ19～

33cm ある。埋土は褐色を呈する粘土質シルトである。柱痕跡は 9ヶ所で確認し、径 14～28cm ある。柱抜き取り穴は 2ヶ所で確認した。

〔出土遺物〕P1 から土師器甕が出土している。

【SB6 建物跡】(第 9・17 図)

〔位置・検出面〕B-3 区北東部で検出した。検出面は IX 層である。

〔重複〕なし。

〔規模・構造〕東西 1 間以上、南北 1 間以上の総柱建物である。平面規模は、東西が南側柱列で 1.8m 以上あり、南北が西側柱列で 1.7m 以上ある。

〔方向〕西側柱列でみると南で約 12° 西に偏する。

〔柱穴〕4ヶ所で確認した。平面形は円形や方形を呈し、長軸 33～48cm、短軸 32～36cm ある。埋土は灰黄褐色を呈する粘土質シルトである。柱痕跡は 3ヶ所で確認し、径 12cm ある。

〔出土遺物〕遺物は出土していない。

【SB7 建物跡】(第 17 図)

〔位置・検出面〕B-3 区北東部で検出した。検出面は IX 層である。

〔重複〕SD52 溝跡と重複し、これより古い。

〔規模・構造〕東西 1 間以上、南北 1 間以上の総柱建物である。平面規模は、東西が南側柱列で 1.6m 以上、南北が西側柱列で 1.8m 以上ある。

〔方向〕西側柱列でみると南で約 11° 西に偏する。

〔柱穴〕4ヶ所で確認した。平面形は円形や方形を呈し、長軸 34～63cm、短軸 31～49cm ある。埋土は灰黄褐色を呈する粘土質シルトである。柱痕跡は 4ヶ所で確認し、径 10～16cm ある。

〔出土遺物〕遺物は出土していない。

【SB8 建物跡】(第 17・18 図、第 4 表)

〔位置〕B-4 区南西部で検出した。検出面は IX 層である。

〔重複〕SI2 住居跡・SB9 建物跡・SK48 土坑・SD53 溝跡と重複し、SI2 住居跡・SK48 土坑より新しく、SB9 建物跡・SD53 溝跡より古い。

〔規模・構造〕東西 2 間、南北 2 間の総柱建物である。平面規模は、東西が北側柱列で総長 4.4m、柱間寸法が西から 2.2m・2.2m あり、南北が西側柱列で総長 3.9m、柱間寸法が 1.9m・2.0m である。

〔方向〕西側柱列でみると南で約 16° 西に偏する。

〔柱穴〕9ヶ所で確認した。平面形は方形や円形を呈し、長軸 35～77cm、短軸 29～64cm、深さ 43～69cm ある。埋土は褐色を呈する粘土質シルトで、地山ブロックを含む。柱痕跡は 8ヶ所で確認し、径 15～30cm ある。

〔出土遺物〕P9 から土師器甕、P6 から剥片が出土している。

C. 堀跡

B-2 区 SB2 建物跡・B-3 区 SB3 建物跡に近接して柱穴列跡を検出した。建物の棟方向に平行または直交し、また、柱堀方埋土が建物跡のものと同様であることから、建物に伴う堀跡と考えられる。

【SA3 堀跡】(第 16・19 図)

〔位置・検出面〕SB2 建物跡の 2 m 南側で検出した。検出面は IX 層である。

〔重複〕なし。

〔規模・構造〕東西方向 3 間の掘立柱堀跡である。総長 6.9m、柱間寸法が東から 2.3m・推定 2.3 m・2.3m ある。

〔方向〕北で約 37° 東に偏する。

〔柱穴〕4ヶ所で確認した。平面形は円形を呈する。長軸 39 ~ 54cm、短軸 38 ~ 43cm、深さ 14 ~ 40cm である。堀方埋土は黄褐色を呈する粘土質シルトで、地山小ブロックを含む。柱痕跡は 2ヶ所で確認した。径 16 ~ 18cm ある。柱抜き取り穴は 1ヶ所で確認した。

〔遺物〕遺物は出土していない。

【SA4 堀跡】(第 16・19 図)

〔位置・検出面〕SB3 建物跡の 1.5 m 南側で検出した。検出面は IX 層である。

〔重複〕SB5 建物跡と重複し、これより新しい。

〔規模・構造〕SB3 建物跡の東側を「コ」字状に囲む掘立柱堀跡で、西側柱列が推定 4 間、南側柱列が 3 間、東側柱列が 2 間である。西側柱列が総長 10.8m、柱間寸法は確認できた南側 2 間分が南から 2.4m・2.4m、南側柱列が総長 9.4m、柱間寸法が西から 3.2m・3.1m・3.1m、東側柱列が総長 5.9m、柱間寸法が北から 3.1m・2.8m ある。

〔方向〕西側柱列でみると北で 33° 西に偏する。

〔柱穴〕9ヶ所で確認した。平面形は円形を呈する。長軸 48 ~ 59cm、短軸 37 ~ 50cm、深さ 14 ~ 60cm ある。埋土は暗褐色またはにぶい黄褐色を呈する粘土質シルトで、地山粒～小ブロックを含む。柱痕跡は 8ヶ所で確認した。径 14 ~ 22cm ある。

〔出土遺物〕遺物は出土していない。

D. 井戸跡

【SE2 井戸跡】(第 20 図)

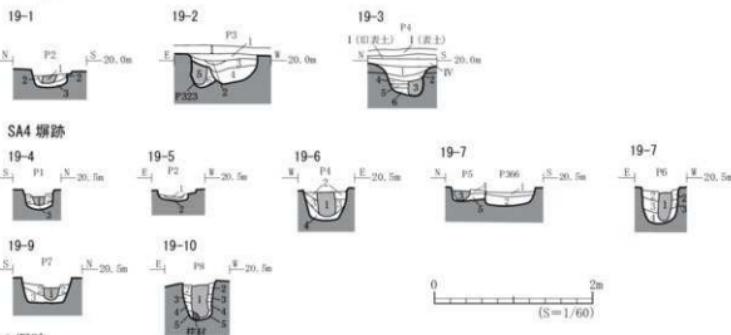
〔位置・検出面〕A-2 区 北東部で検出した。検出面は VII 層である。

〔重複〕なし。

〔規模・構造〕素掘りの井戸跡である。検出面で径 1.4m、底面で径 0.7m の円形を呈する。深さは 1.1m あり、断面形は U 字形を呈する。

〔壁・底面〕壁は底面から垂直に立ち上がる。

SA3 塚跡



SA3 墓跡

墓跡名	回 No.	層序	土色	土性	特徴	分類
SA3-P2 (P324)	19-1	1	暗褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物鉱灰量。	柱状路
		2	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、炭化物鉱灰量。	輪方堆土
		3	黃褐色 (10YR5/9)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物鉱灰量。	輪方堆土
P322	19-2	1	黑褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山小ブロック無量。	柱状路
		2	暗褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山小ブロック・炭化物鉱灰量。	柱状路
		3	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山小ブロック・炭化物鉱灰量。	柱状路
		4	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、炭化物鉱灰量。	輪方堆土
SA3-P3 (P323)	5	暗褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山小ブロック・炭化物鉱灰量。	柱状路	
	6	にじ・黃褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物鉱灰量。	輪方堆土	
SA3-P4 (P776)	19-3	1	暗褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山小ブロック・炭化物鉱灰量。	柱状路
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山小ブロック少量。	柱状路	
P379	3	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中ブロックを含む、炭化物鉱灰量。	柱状路	
	4	にじ・黃褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物鉱灰量。	輪方堆土	
	5	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山小ブロック少量。	輪方堆土	
	6	褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山大ブロック多量。	輪方堆土	

SA4 墓跡

墓跡名	回 No.	層序	土色	土性	特徴	分類
SA4-P1 (P369)	19-4	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック・炭化物鉱灰量。	柱状路
		2	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック・炭化物鉱灰量。	輪方堆土
		3	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック・炭化物鉱灰量。	輪方堆土
SA4-P2 (P369)	19-5	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック・炭化物鉱灰量。	柱状路
	2	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量。	輪方堆土	
P379	19-6	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山小ブロック・炭化物鉱灰量。	柱状路
	2	にじ・黃褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山中ブロックを含む、炭化物鉱灰量。	輪方堆土	
	3	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック・炭化物鉱灰量。	輪方堆土	
	4	黃褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、炭化物鉱灰量。	輪方堆土	
P366	19-7	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	炭化物鉱灰量。	輪方堆土
	2	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中・小ブロック少量。	輪方堆土	
SA4-P5 (P365)	19-8	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中・小ブロック少量、炭化物鉱灰量。	柱状路
	2	にじ・黃褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山中・小ブロック少量。	輪方堆土	
	3	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中・小ブロック少量。	輪方堆土	
	4	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中・小ブロック少量。	輪方堆土	
SA4-P6 (P368)	19-8	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山中・小ブロック少量。	柱状路
	2	にじ・黃褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山中・小ブロック少量。	輪方堆土	
	3	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山中・小ブロック少量。	輪方堆土	
	4	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中・小ブロック少量。	輪方堆土	
SA4-P7 (P366)	19-9	1	にじ・黃褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山中・小ブロック少量。	柱状路
	2	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中・小ブロックを含む。	輪方堆土	
	3	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山中・小ブロック多量。	輪方堆土	
	4	にじ・黃褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山中・小ブロックを含む。	輪方堆土	
SA4-P8 (P341)	19-10	1	にじ・黃褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山中・小ブロック多量。	柱状路
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山絨毛を含む。	輪方堆土	
P365	3	にじ・黃褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山絨毛を含む。	輪方堆土	
	4	にじ・黃褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山中・小ブロックを含む。	輪方堆土	
	5	にじ・黃褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山中・小ブロック多量。	輪方堆土	

第19図 SA3・4 墓跡断面図

[埋土]15層あり、上層(1~9)は地山粒→小ブロックおよび炭化物粒を含む暗褐色～黒褐色粘土質シルト、下層(10~15)は多量の地山粒→小ブロックを含む黒褐色粘土質シルトで埋め戻されている。

[出土遺物]須恵器高台付短頸壺(第22図1)のほか、土師器杯・甕が出土している。

E . 土坑

【SK35 土坑】(第 21 図)

〔位置・検出面〕B-4 区西部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕なし。

〔規模・構造〕平面形は径 1.1m の円形を呈し、断面形は深さ 0.3m の逆台形を呈する。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、東側でやや深く掘り込まれている。

〔埋土〕4 層あり、上層（1・2）は地山ブロック・炭化物粒・小礫をわずかに含むにぶい黄褐色の粘土質シルト、下層（3・4）は多量の地山ブロックと少量の炭化物粒を含むにぶい黄褐色の粘土質シルトで埋め戻されている。

〔出土遺物〕1 層から 18 世紀代の肥前産染付皿が出土している。

【SK40 土坑】(第 23 図)

〔位置・検出面〕B-4 区北東部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕SK41・42 土坑と重複し、これより古い。

〔規模・構造〕平面形は長軸 1.9m、短軸 1.6m の円形を呈し、断面形は深さ 0.4m の皿形を呈する。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面は東に向かって緩やかに窪む。

〔埋土〕3 層あり、微量の地山ブロック、炭化物粒を含む黒褐色の粘土質シルトで埋め戻されている。

〔出土遺物〕須恵器壺（第 23 図 5）が出土している。

【SK43 土坑】(第 21 図)

〔位置・検出面〕B-4 区北東部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕SD55 構跡と重複し、これより新しい。

〔規模・構造〕平面形は長軸 1.8m、短軸 1.4m の楕円形を呈し、断面形は深さ 0.4m の逆台形を呈する。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

〔埋土〕7 層あり、上層（1・2）は微量の地山ブロック・炭化物粒を含む暗褐色の粘土質シルト、中層（3）は少量の地山ブロック・炭化物粒を含む黒褐色の粘土質シルト、下層（4～7）は地山ブロックを含む黄褐色～黒褐色の粘土質シルトで埋め戻されている。

〔出土遺物〕須恵器蓋・甕や剥片が出土している。

【SK48 土坑】(第 21・23 図)

〔位置・検出面〕B-4 区南西部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕SI2 住居跡・SB8 建物跡・SK59 土坑と重複し、SI2 住居跡・SB8 建物跡より古く、SK59 土坑より新しい。

〔規模・構造〕平面形は長軸 1.8m、短軸 0.7m 以上の不整な楕円形を呈し、断面形は深さ 0.4m の逆台

形を呈する。壁は底面からほぼ垂直に立ち上り、底面はほぼ平坦である。

〔埋土〕6層あり、上層（19・20）は微量の地山ブロック・炭化物粒を含む暗褐色のシルト、中層（21）は多量の地山ブロックを含む暗褐色のシルト、下層（22～24）は少量の地山ブロックを含む暗褐色のシルトで埋め戻されている。

〔出土遺物〕弥生土器甕（第23図1～3）・壺、石鏃（同図6）、石範（同図7）が出土している。

【SK49 土坑】（第21図）

〔位置・検出面〕B-3区北部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕なし。

〔規模・構造〕平面形は長軸1.0m、短軸0.6mの隅丸長方形を呈し、断面形は深さ0.1mの皿形を呈する。壁は東側で底面から緩やかに立ち上がるが、西側ではほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

〔埋土〕2層あり、上層は微量の地山ブロック・炭化物粒を含む黒褐色の粘土質シルト、下層は多量の地山ブロックを含む黒褐色の粘土質シルトで埋め戻されている。

〔出土遺物〕埋土より錢貨が出土した。紐で6枚が束ねられている。X線CT撮影を実施したところ、「天元聖寶」・「至和元寶」・「祥符通寶」・「元祐通寶」・「聖宋元寶」・「皇宋通寶」の6種の錢名を確認することができた（第6章）。

【SK58 土坑】（第21・23図）

〔位置・検出面〕A-2区東部で検出した。検出面はVII層である。

〔重複〕P797と重複し、これより古い。

〔構造・規模〕平面形は径0.6mの円形を呈し、断面形は深さ0.2mの逆台形を呈する。壁は北側で底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

〔埋土〕6層あり、上層（4～6）は少量～多量の地山ブロック、微量の炭化物粒を含む暗褐色～褐色の粘土質シルト、下層（7～9）は多量の地山ブロックを含む褐色～にぶい黄褐色の粘土質シルトで埋め戻されている。

〔出土遺物〕埋土上層からほぼ完形の土師器壺（第23図4）が出土している。

【SK59 土坑】（第11・21図）

〔位置・検出面〕B-4区南西部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕SI2住居跡・SK48土坑と重複しており、これらより古い。

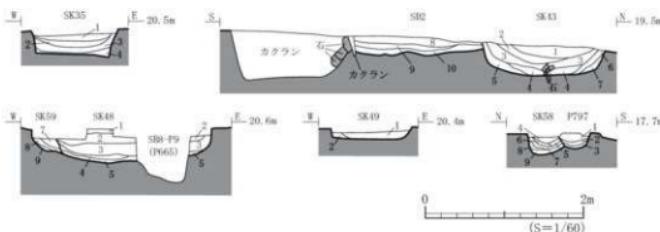
〔構造・規模〕平面形は長軸0.5m以上、短軸0.4m以上の不整な円形を呈し、断面形は深さ0.3mの逆台形を呈する。壁は底面から緩やかに立ち上がる。

〔埋土〕3層あり、上層（7・8）は地山ブロック、炭化物粒とともに少量の暗褐色のシルト、下層（9）は地山ブロックを多量に含む暗褐色のシルトで埋め戻されている。

〔出土遺物〕遺物は出土していない。



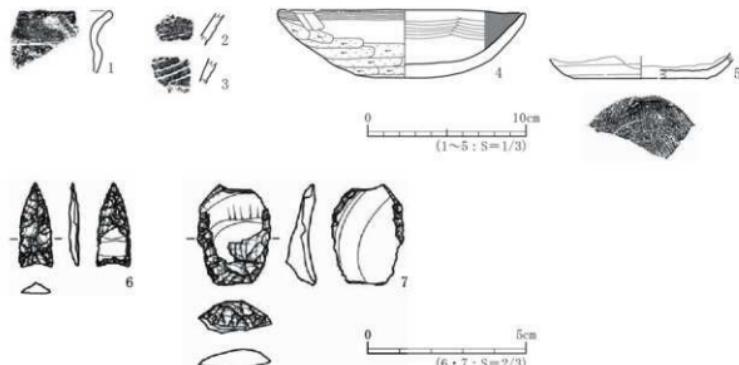
第20図 SE2 井戸跡断面図



第21図 A・B区土坑断面図



第22図 SE2 井戸跡出土遺物



No.	種別	面積	遺構	層位	保存	口径 (cm)	高さ (cm)	厚さ (cm)	特徴	写真印数	登録番号
1	生土上部	東	SK48	3	口縁+内部	-	-	-	外:口縁部と側面の間に次層1条 内:調査不明	24-24	P121
2	生土上部	東	SK48	5	体部	-	-	-	外:平行沈澱文 内:調査不明	24-25	P122
3	生土上部	東	SK48	7	側面	-	-	-	外:二角文・束文 (日本縞き) 内:輪環底	24-26	P112
4	土堆頂	坪	SK48	海綿土	口付実形	15.6	6.0	4.3	外:口付実形 内:ミサキ一面色処理	24-29	P31
5	裏壳層	坪	SK48	海綿土	直筋1/3	(8.0)	-	-	外:ロクロナダ-内:セケツリ	24-30	P39

No.	種別	面積	遺構	層位	保存	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 S (cm)	備考	写真印数	登録番号
6	石器	石器	SK48	3層	實形	柱質直筋	2.61	1.06	0.35	21基	24-27	S71
7	石器	石器	SK48	3層	口付実形	柱質直筋	3.14	2.22	0.86		24-28	S70

第23図 A・B区土坑出土遺物

F. 溝跡

【SD1溝跡】(第24・25図)

[位置・検出面] A-1区からA-2区にかけて調査区中央部で検出した。検出面はVII層である。

[重複] SK55・56・57土坑と重複し、これらよりも古い。

[規模・構造] 南北方向(N-11-W)に延びる。検出長は58.9mで、南側は調査区外へ延びている。上幅0.5~1.3m、下幅0.3~0.5m、深さ0.5~0.8mあり、断面形はV字形を呈する。底面は南に向かって低くなっている。

[堆積土] 11層あり、上層(1・2)は地山ブロックと微量の炭化物粒を含む暗褐色~褐色の粘土質シルトで埋め戻され、中層(3~8)は地山ブロックと炭化物粒を含む暗褐色~にぶい黄褐色の粘土質シルトが自然堆積し、下層(9~11)は地山ブロックを多く含み、炭化物粒を含む褐色~にぶい黄褐色の粘土質シルトが自然堆積している。

〔出土遺物〕堆積土から、土師器坏（第25図1～2）・甕（同図3）、須恵器坏（同図7～8）・高台坏（同図10）・甕（同図4～6・9）、土鍤（同図11）が出土している。

【SD2溝跡】（第26～29図）

〔位置・検出面〕B-4区東部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕SD53・55溝跡と重複し、これらより古い。

〔規模・構造〕L字（南北:N、東西:W-11-N）に延びており、東西方向に延びる部分はSD55溝跡と重複するため下層のみ残存している。検出長は南北で18.2m、東西で2.1mで、南側は調査区外へ延びている。上幅1.4～1.8m、下幅0.7～0.9m、深さ0.5～0.7mあり、断面形は逆台形を呈する。底面は平坦で、南に向かって低くなっている。

〔堆積土〕9層あり、上層（9・10）は地山ブロックと炭化物粒を含む暗褐色の粘土質シルト、中層（11～13）は地山ブロックと炭化物粒を含む黒褐色～黄褐色の粘土質シルト、下層（14～17）は地山ブロックを多く含み、炭化物粒をわずかに含む褐色～明黄褐色の粘土質シルトが自然堆積している。

〔出土遺物〕土師器坏・甕・須恵器甕（第27図6）・坏・壺・蓋・石鍤（同図1）、平瓦（第28図1～3・7）、中世陶器甕（同図8～10）が出土している。

【SD6溝跡】（第26・27図）

〔位置・検出面〕B-2区西部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕なし。

〔規模・構造〕東西方向（W-14-S）に伸びる。西側は調査区外へ伸びている。検出長は6.4mで、上端0.5～2.2m、下端0.3～0.8m、深さ0.2～0.6mあり、断面形は皿形を呈する。底面は平坦で、西に向かって低くなる。

〔堆積土〕6層あり、上層（9～12）は炭化物粒をわずかに含む灰黄褐色または暗褐色の粘土質シルト、下層（13・14）は地山ブロックを多く含むにぶい黄褐色シルト質粘土が自然堆積している。

〔出土遺物〕須恵器甕（第27図7）が出土している。

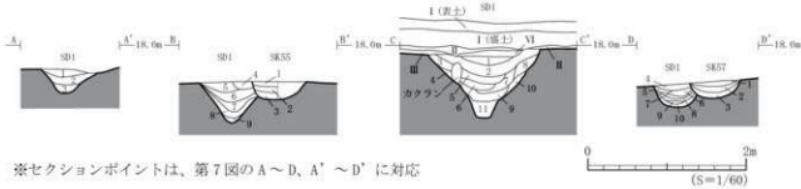
【SD7溝跡】（第26～28図）

〔位置・検出面〕B-2区南部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕SX16整地遺構と重複し、これより新しい。

〔規模・構造〕弧状（南北N-42-W:、東西:W-20-S）に延びる。検出長は17.8mで、西側および南側は調査区外へ延びている。上端0.9～3.3m、下端0.4～1.2m、深さ0.2～0.5mで、断面形は皿形を呈する。底面は平坦で、西に向かって低くなる。SX16整地遺構はこのSD7溝跡と一連の遺構とみられ、溝の側縁を補強するための整地とみられる。

〔堆積土〕5層あり、上層（4）は地山粒・地山ブロックを多く含み、炭化物粒と小礫を含む黒褐色シルト質粘土、中層（5・6）は地山粒・地山ブロックや炭化物・小礫を含む暗褐色シルト質粘土、下層（7・8）は地山ブロックを極めて多く含み、炭化物粒を少量、小礫を多く含む暗褐色シルト質粘土が自然堆積している。



*セクションポイントは、第7図のA～D、A'～D'に対応

A-1 区北2断面 (図面 A-A')

遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SD1	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山紅少量、炭化物微少量。	堆積土
	2	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山紅少量、炭化物微少量。	堆積土
	3	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山紅多量、炭化物微少量。	堆積土

A-1 区SD1・SK55断面 (図面 B-B')

遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SK55	1	褐色 (10Y 4/3)	粘土質シルト	地山小ブロック×炭化物微少量。	堆積土
	2	暗褐色 (10YR3/20)	粘土質シルト	地山中ブロック×炭化物少量。	堆積土
	3	暗褐色 (10Y 4/3)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物微少量。	堆積土
SD1	4	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量。	堆積土
	5	にじむ 黄褐色 (10YR4/20)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、炭化物微少量。	堆積土
	6	黒褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	7	暗褐色 (10Y 4/3)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	8	暗褐色 (10Y 4/3)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	9	暗褐色 (10Y 4/3)	粘土質シルト	地山小ブロック多量、炭化物微少量。	堆積土

A-1 区南壁断面 (図面 C-C')

遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SD1	1	褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山大ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	2	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	3	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	4	にじむ 黄褐色 (10YR4/20)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	5	にじむ 黄褐色 (10YR4/20)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	6	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	7	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	8	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、炭化物微少量。	堆積土
	9	にじむ 黄褐色 (10YR4/20)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	10	にじむ 黄褐色 (10YR4/20)	粘土質シルト	地山小ブロック多量、炭化物微少量。	堆積土
	11	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	地山大ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土

A-2 区 SD1・SK57 断面 (図面 D-D')

遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SK57	1	暗褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	2	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	3	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山大ブロック多量、炭化物微少量。	堆積土
SD1	4	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山大ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	5	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	6	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山中ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	7	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	8	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	9	にじむ 黄褐色 (10YR4/20)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土
	10	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物微少量。	堆積土

第24図 SD1溝跡断面図

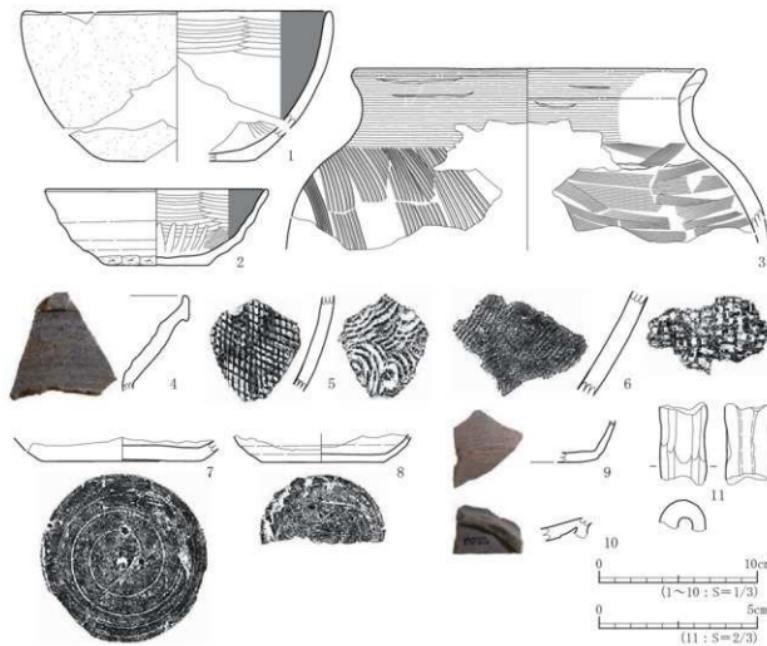
[出土遺物] 土師器高坏 (第27図4) のほか、土師器壺・甕や須恵器坏・平瓦 (第28図4) が出土している。

【SD50溝跡】(第26～29図、第5表)

[位置・検出面] B-3区東端で検出した。検出面はIX層である。

[重複] SB6・7建物跡およびSD51・52・66溝跡と重複しており、SD51・52・66溝跡より古く、SB6・7建物跡より新しい。

[規模・構造] 南北方向 (N-18-W) に延びる。検出長は23.4mで、北側、南側両端が調査区外に延びている。

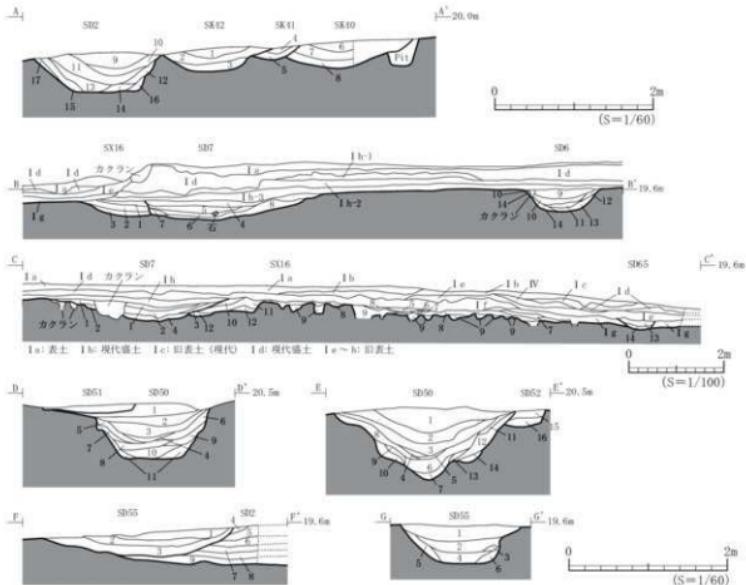


No.	種別	形種	遺構	層位	残存	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴	実測範囲	登録番号
1	土師器	坪	堆積土	1/2	19.2	(9.2)	(9.3)	4.8	内：ヨコナデ→ラカズリ 内：ミガキ→黒色処理	24-33	P20
2	土師器	坪	堆積土	1/3	14.0	6.3	4.8	4.8	外：ロクロナデ、底：平特ちぎり 内：ミガキ→黒色処理	24-35	P24
3	土師器	甕	堆積土	1/8	22.2	(11.4)	(11.4)	4.8	外：ハマメ→ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	24-37	P15
4	須恵器	中壺	堆積土	一回					外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	24-36	P18
5	須恵器	甕	堆積土	一回					外：斜格子タタキ目 内：錫64円あて瓦	24-34	P16
6	須恵器	甕	堆積土	一回					外：平行タタキ 内：施字吹あて瓦	25-1	P19
7	須恵器	盤	堆積土	一回					外：直線切跡目 内：ロクロナデ	25-5	P22
8	須恵器	盤	堆積土	一回					外：直線切跡目 内：ロクロナデ	25-6	P25
9	須恵器	小壺	堆積土	一回					外：ロクロナデ→小輪タスモ目 瓦：ヘラ切目 内：ロクロナデ	25-2	P17
10	須恵器	高台付	堆積土	一回					外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	25-3	P13
11	土器	土罐	堆積土	1/2	(2.7)	1.1	0.5	ナデ 口縁：既存瓦、底径：既存、脚面：丸様	24-32	P28	

第25図 SD1溝跡出土遺物

上幅1.7～2.9m、下幅0.3～0.8m、深さ0.7～0.9mで、断面は逆台形を呈する。底面は平坦である。
 [堆積土]14層あり、上層(1～3)は地山ブロック・炭化物粒を微量～少量含む黒褐色～暗褐色の粘土質シルト、中層(5・6・8・9・11・12)は地山ブロックを少量～多量、炭化物粒を微量含む黒褐色～暗褐色の粘土質シルト、下層(7・10・13・14)は地山ブロックを多量、炭化物粒を微量含むにぶい黄褐色の粘土質シルトが自然堆積している。

[出土遺物]須恵器甕(第27図5)、平瓦(第28図6)、磨石・砥石(第27図3)が出土している。このほか、土師器甕・杯や須恵器甕・杯・瓶、近世の陶磁器碗・鉢・瓦が出土している。



*セクションポイントは、第8～10図のA～G、A'～G'に対応

層構名	断面	土色	土性	特徴	分類
SK42	A-A'	1 暗褐色 (109R5/2)	粘土質シルト	炭化物軽微量。	壤土
	2 黄褐色 (109R2/3)	粘土質シルト	地山小ブロック量、炭化物軽微量。	壤土	
	3 黄褐色 (109R5/2)	粘土質シルト	地山中ブロック量、炭化物軽微量。	壤土	
	4 暗褐色 (109R5/4)	粘土質シルト	地山中ブロック量、炭化物軽微量。	壤土	
	5 黄褐色 (109R5/6)	粘土質シルト	地山大ブロック量。	壤土	
	6 黑褐色 (109R2/2)	粘土質シルト	地山中ブロック量、炭化物軽微量。	壤土	
SK51	7 黑褐色 (109R2/2)	粘土質シルト	地山中ブロック量、炭化物軽微量。	壤土	
	8 黑褐色 (109R2/2)	粘土質シルト	地山中ブロック量、炭化物軽微量。	壤土	
	9 暗褐色 (109R5/3)	粘土質シルト	地山中ブロック量、炭化物軽微量。	壤土	
	10 黑褐色 (109R3/2)	粘土質シルト	地山中ブロック量を含む、炭化物軽微量。	壤土	
	11 黄褐色 (109R5/1)	粘土質シルト	地山中ブロック量、炭化物軽微量。	壤土	
	12 黄褐色 (109R5/6)	粘土質シルト	地山大ブロック量、炭化物軽微量。	壤土	
	13 黄褐色 (109R4/4)	粘土質シルト	地山中ブロック量、炭化物軽微量。	壤土	
	14 黑褐色 (109R2/2)	粘土質シルト	地山中ブロック量、炭化物軽微量。	壤土	
	15 暗褐色 (109R4/6)	粘土質シルト	地山大ブロック量。	壤土	
	16 黄褐色 (109R5/6)	粘土質シルト	地山大ブロック量、炭化物軽微量。	壤土	
SK41	17 黄褐色 (109R5/9)	粘土質シルト	地山大ブロック量。	壤土	
	B-B'	1 暗褐色 (109R5/4)	粘土質シルト	地山暗、炭化物軽量。	壤土
	2 暗褐色 (109R5/4)	粘土質シルト	地山暗、炭化物軽量。	壤土	
	3 暗褐色 (109R5/4)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量、炭化物軽量、少泥少量。	壤土	
SK40	4 黑褐色 (109R2/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量、炭化物軽量、少泥少量。	壤土	
	5 暗褐色 (109R5/4)	粘土質シルト	地山暗、少泥量。	壤土	
	6 黑褐色 (109R2/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量、炭化物軽量。	壤土	
	7 黑褐色 (109R2/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量、炭化物軽量。	壤土	
	8 黑褐色 (109R2/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量、炭化物軽量。	壤土	
SK16	9 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	炭化物軽量。	壤土	
	10 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗、炭化物軽量。	壤土	
	11 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量、炭化物軽量。	壤土	
	12 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量、炭化物軽量。	壤土	
	13 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山大ブロック量。	壤土	
	14 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山大～中ブロック量。	壤土	
	15 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	16 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	17 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	18 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
SB7	19 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	20 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量、炭化物軽量、少泥少量。	壤土	
	21 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量、炭化物軽量、少泥少量。	壤土	
	22 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量、炭化物軽量、少泥少量。	壤土	
	23 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量、炭化物軽量、少泥少量。	壤土	
SB6	24 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	25 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	26 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	27 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	28 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	29 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	30 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	31 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	32 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	33 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	34 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	35 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	36 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	
	37 黄褐色 (109R4/2)	粘土質シルト	地山暗～中ブロック量。	壤土	

第26図 B区溝跡断面図

第5表 B区溝跡 土層観察表

測線名	計測点	土色	土性	特徴		分類
				上層	下層	
SD2	C-C'	1. 塗褐色 (10 Y R3/3)	粘土質シルト	埋山斜面。砂が混じる。小礫無量。炭化物粒少量。		堆積土
		2. 塗褐色 (10 Y R3/4)	粘土質シルト	地山斜面下ブロック少量。砂が混じる。小礫微量。炭化物粒微量。		堆積土
		3. 塗褐色 (10 Y R3/4)	粘土質シルト	地山斜面下ブロック少量。砂が混じる。小礫微量。炭化物粒微量。		堆積土
		4. 塗褐色 (10 Y R3/4)	粘土質シルト	地山斜面下ブロック少量。砂が混じる。小礫微量。炭化物粒微量。		堆積土
SK43	E-E'	5. 灰褐色 (10YV8/25)	シルト	地山斜面。大ブロック多量。小礫少量。炭化物粒微量。		堆積土
		6. 灰褐色 (10YV8/25)	シルト	地山斜面下ブロック無量。炭化物粒微量。		堆積土
		7. 灰褐色 (10YV8/25)	シルト	地山斜面下ブロック少量。炭化物粒微量。		堆積土
		8. 灰褐色 (10YV8/25)	シルト	地山斜面下ブロック少量。炭化物粒微量。		堆積土
		9. 灰褐色 (10YV8/25)	シルト	地山斜面下ブロック少量。小礫微量。炭化物粒少量。		堆積土
		10. 灰褐色 (10YV8/25)	シルト	地山斜面下ブロック少量。小礫微量。炭化物粒少量。		堆積土
		11. 灰褐色 (10YV8/25)	シルト	地山斜面下ブロック少量。小礫微量。炭化物粒微量。		堆積土
		12. 灰褐色 (10YV8/25)	シルト	地山斜面下ブロック少量。小礫微量。炭化物粒微量。		堆積土
		13. 暗褐色 (10 Y R3/30)	粘土質シルト	小礫含む。地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		14. 暗褐色 (10 Y R3/30)	粘土質シルト	地山斜面下ブロック少量。小礫微量。炭化物粒微量。		堆積土
SD65	D-D'	1. 黑褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		2. 黑褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		3. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		4. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		5. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	炭化物粒微量。		堆積土
		6. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		7. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		8. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		9. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		10. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
SD55	E-E'	11. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		12. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		13. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		14. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		15. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		16. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		17. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		18. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		19. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		20. 黑褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
SD62	F-F'	1. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		2. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		3. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		4. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		5. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		6. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		7. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		8. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		9. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		10. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
SD55	G-G'	1. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。		堆積土
		2. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		3. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	砂ワタ状。炭化物粒微量。		堆積土
		4. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。		堆積土
		5. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。		堆積土
		6. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。		堆積土
		7. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		8. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		9. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
		10. 黑褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。炭化物粒微量。		堆積土
SD55	H-H'	1. 塗褐色 (10YR5/3)	粘土質シルト	地山斜面下ブロック無量。		堆積土
		2. 塗褐色 (10YR5/3)	粘土質シルト	地山斜面下ブロック微量。炭化物粒微量。		堆積土
		3. 塗褐色 (10YR5/3)	粘土質シルト	地山斜面。		堆積土
		4. 塗褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山斜面下ブロック少量。		堆積土
		5. 塗褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山斜面。		堆積土
		6. 塗褐色 (10YR5/5)	粘土質シルト	地山斜面。		堆積土
		7. 塗褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山斜面下ブロック少量。		堆積土
SD55	I-I'	1. 塗褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。		堆積土
		2. 塗褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。		堆積土
		3. 塗褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。		堆積土
		4. 塗褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。		堆積土
		5. 塗褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。		堆積土
		6. 塗褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。		堆積土
		7. 塗褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山斜面。		堆積土

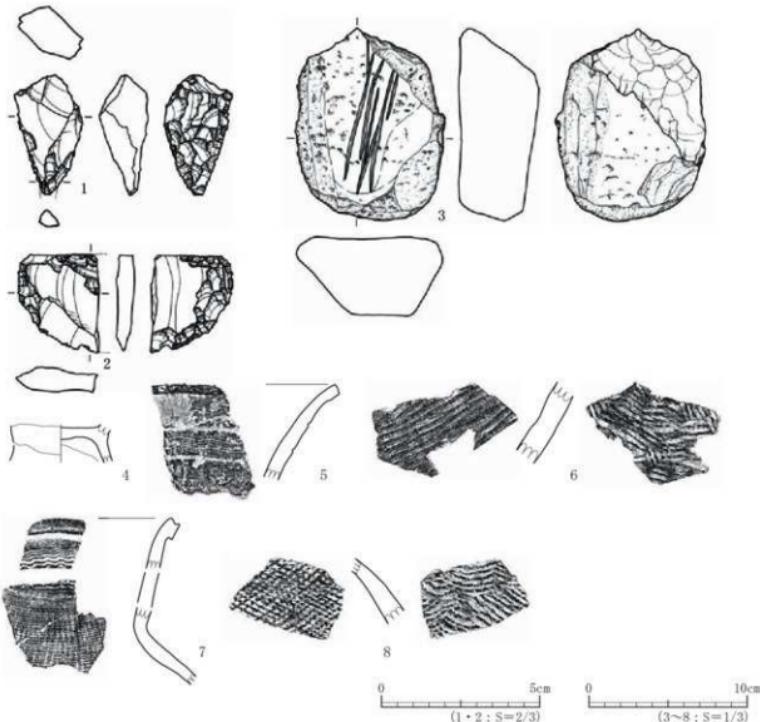
[SD55溝跡] (第26～29図・第5表)

[位置・検出面] B-4区北部で検出した。検出面はIX層である。

[重複] SD2溝跡、SK43・44土坑と重複し、SK43・44土坑より古く、SD2溝跡より新しい。

[規模・構造] 東西方向(W-4-S)に伸びる。検出長は24.2mで、西側は調査区外へ伸びている。上幅1.0～2.4m、下幅0.3～0.7m、深さ0.4～0.6mで、断面形は皿形を呈する。底面は平坦で、東に向かって低くなる。

[堆積土] 6層あり、上層(1～3)は地山ブロック・炭化物粒をわずかに含む黒褐色～暗褐色の粘土質シルト。下層(4～6)は地山ブロックを多く含む褐色～ぶい黄褐色～灰黄褐色の粘土質シルトが自然堆積している。

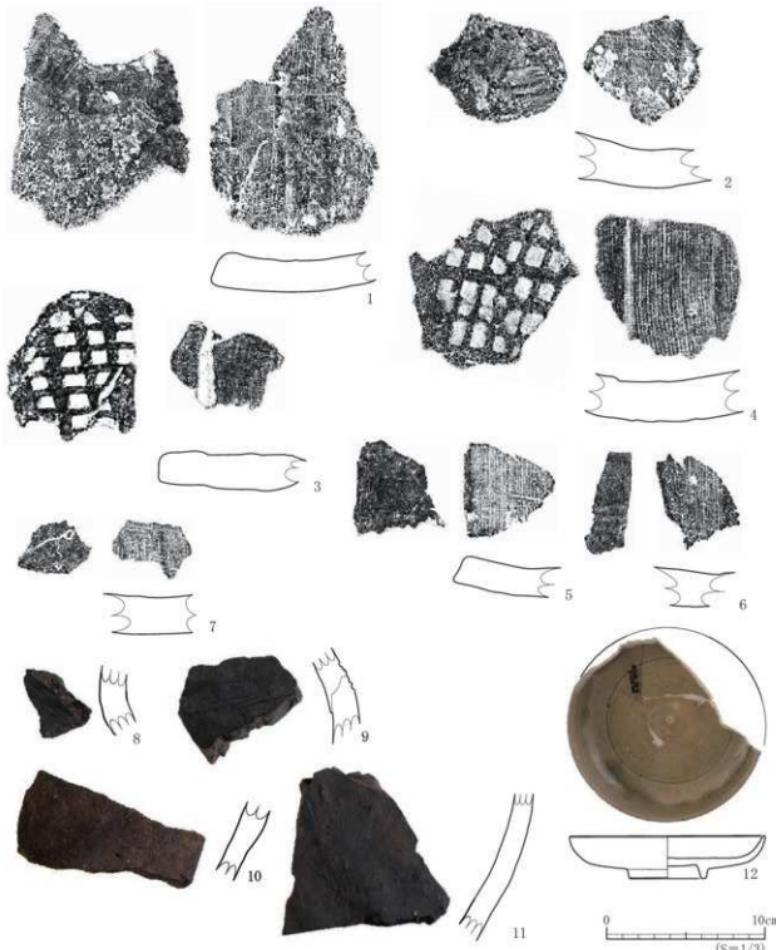


No.	種別	器種	遺構	層位	所存	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考	写真回数	登録番号
1	石器	石器	S02	堆積土	鉢底部分	—	6.9	—	—	外：圓筒形内：圓筒形	25-9	519
2	石器	楔形石器	S025	堆積土	未成品	石質頁岩	3.70	2.02	1.26	—	25-6	320
3	石器	石器	S025	堆積土	破片	石質頁岩	2.08	2.53	0.78	破壊	25-7	—

No.	種別	器種	遺構	層位	所存	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	特徴	写真回数	登録番号
4	土器器	器	S02	堆積土	鉢底部分	—	6.9	—	外：圓筒形内：圓筒形	25-9	P49
5	瓦器	器	S025	堆積土	一部	—	—	—	外：圓筒形内：クロマーネ縫合部状大	25-10	P51
6	瓦器	器	S02	中層	一部	—	—	—	平行なタテキ・ガタキメロクロナード縫合部状大	25-12	P44
7	瓦器	器	S02	堆積土	一部	—	—	—	外：同心円内：直角内：クロマーネ	25-11	P47
8	瓦器	器	S025	堆積土	一部	—	—	—	外：斜板子タタキ内：同心円内：直角	25-13	P62

第27図 B区溝跡出土遺物(1)

[出土遺物] 楔形石器(第27図2)、土器器甕・杯・土器器坏、須恵器甕(第27図8)、平瓦(第28図5)、中世陶器甕(第28図11)、近世の大堀相馬産陶器皿(第28図12)、近世陶磁器の塊・皿・擂鉢が出土している。



No.	概況	遺跡	遺物	性質	現存	口徑 (cm)	底径 (cm)	深さ (cm)	特徴	写真記号	参考番号
1	古代灰	平瓦	920	1層	一端	△	△	△	鉛錠不規則・鋸面：布目、横骨→ナゲ	ナゲ	25-16
2	古代灰	平瓦	920	1層	一端	△	△	△	鉛錠不規則・鋸面：布目→ナゲ	ナゲ	25-14
3	古代灰	平瓦	920	1層	一端	△	△	△	鉛錠不規則・鋸面：布目→ナゲ	ナゲ	25-17
4	古代灰	平瓦	920	埋積土	一端	△	△	△	鉛錠不規則・鋸面：布目、横骨	ナゲ	25-19
5	古代灰	平瓦	5005	2層	一端	△	△	△	鉛錠不規則・鋸面：布目、横骨→ナゲ	ナゲ	25-18
6	古代灰	平瓦	5000	埋積土	一端	△	△	△	鉛錠不規則・鋸面：布目	ナゲ	25-20
7	古代灰	平瓦	920	中層	一端	△	△	△	鉛錠不規則・鋸面：布目→横骨	ナゲ	25-15
8	中世陶器	器	5022	埋積土	一端	-	-	-	外：ロクロナゲ→沈澱（残部）内：ロクロナゲ	T21	26-1
9	中世陶器	器	5022	1層	一端	-	-	-	外：ロクロナゲ→沈澱（残部）内：ロクロナゲ	沈澱	26-2
10	中世陶器	器	5022	4層	一端	-	-	-	外：ロクロナゲ→沈澱（残部）内：ロクロナゲ	C11	26-4
11	中世陶器	器	5005	堆積土	一端	-	-	-	外：ロクロナゲ→ナゲ？ 内：ロクロナゲ→ナゲ？	ナゲ	26-3
12	陶器	器	5005	堆積土	2/3	(12, 3)	△	2.7	大盤形器		26-5

第28図 B区溝跡出土遺物(2)

第2節 C区

事業区域の中央部に位置し、標高16～17mの沖積低地に立地する。遺構は土坑2基、溝跡10条、自然流路跡1条を検出した。全体的に遺構・遺物の希薄な調査区である。

A. 土坑

【SK32 土坑】(第29・30図)

〔位置・検出面〕C-4区北東隅に位置する。検出面はVII層である。

〔重複〕なし。

〔規模・構造〕平面形は径0.7mの円形を呈し、断面形は深さ0.3mの皿形を呈する。壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は東に向かって傾斜している。

〔埋土〕2層あり、1層は地山ブロックを少量・炭化物粒を微量含む暗褐色の粘土質シルト、2層は地山ブロックを少量含む暗褐色粘土質シルトで埋め戻されている。

〔出土遺物〕遺物は出土していない。

【SK33 土坑】(第29・30図)

〔位置・検出面〕C-3区中央で検出した。検出面はVII層である。

〔重複〕なし。

〔規模・構造〕平面形は長軸1.0m、短軸は0.9mの円形を呈し、断面形は深さは0.1mの浅い皿形を呈する。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。

〔埋土〕2層あり、1層は地山ブロック・炭化物粒・焼土を少量含むぶい黄褐色の粘土質シルト、2層は地山ブロック・炭化物粒を多量含む暗褐色の粘土質シルトで埋め戻されている。

〔出土遺物〕遺物は出土していない。

B. 溝跡

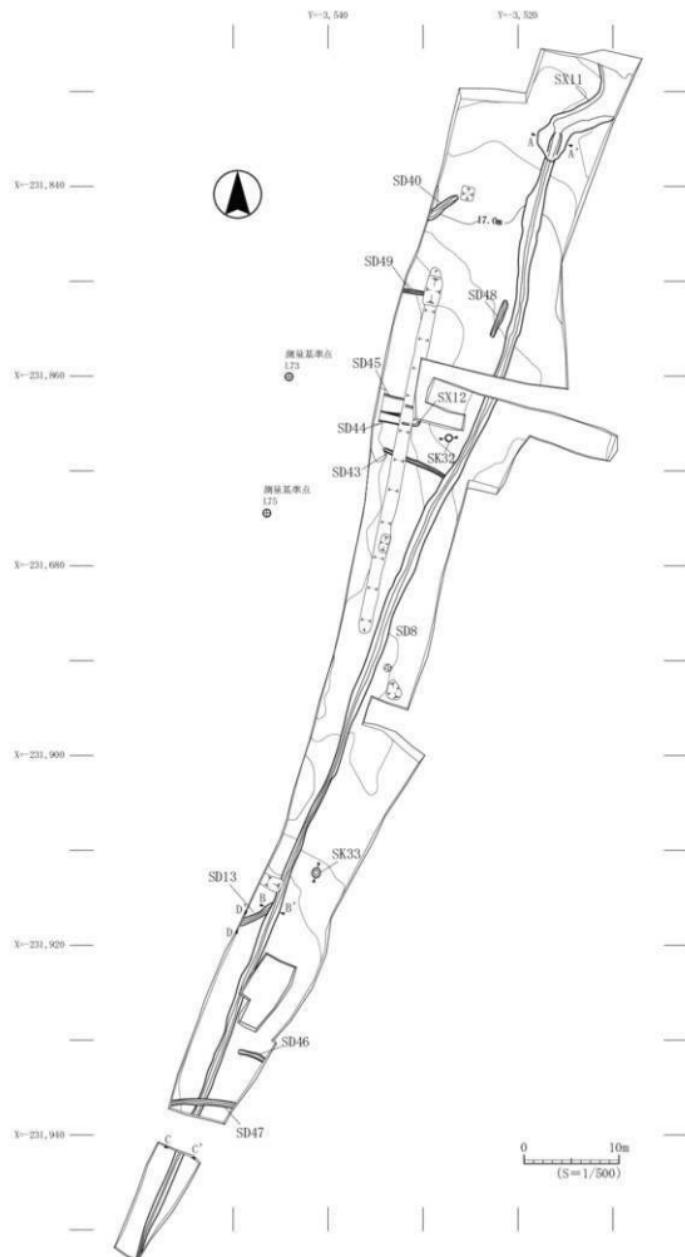
【SD8 溝跡】(第29・31・32図)

〔位置・検出面〕C-1からC-6区にかけて調査区中央部で検出した。検出面はVII層である。

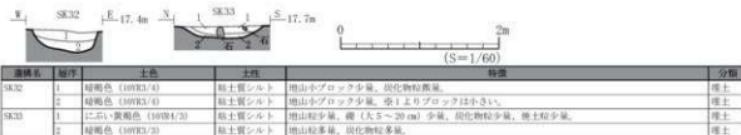
〔重複〕SD13・43・47溝跡、SX11自然流路跡と重複し、SD43・47溝跡・SX11B自然流路跡より古く、SD13溝跡・SX11A自然流路より新しい。

〔構造・規模〕南北方向(N-21-E)にやや蛇行しながら伸びる。検出長は127.0mで、南側は調査区外へ伸びている。上幅0.4～1.9m、下幅0.2～0.4m、深さ0.4～0.6mで、断面形はV字形を呈する。底面は北に向かって低くなっている。

〔堆積土〕8層あり、上層(1～4)は炭化物粒・小砾をわずかに含むぶい黄褐色の粘土質シルト、中層(5・6)は炭化物粒をわずかに含む粘土質シルト、下層(7・8)は地山ブロックを多量、炭化物粒を少量から多量含む暗褐色の粘土質シルトである。堆積土は自然堆積である。



第29図 C区全体図



第30図 C区土坑断面図

〔出土遺物〕土師器の坏（第32図1）・甕（同図2）が出土している。

【SD13溝跡】（第29・31図）

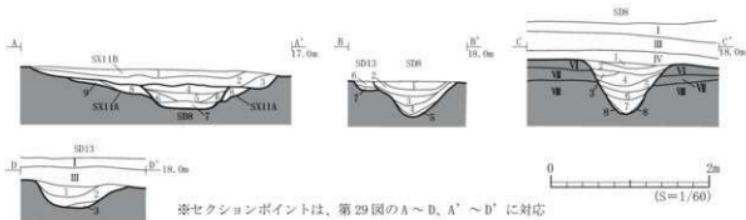
〔位置・検出面〕C-3区中央西部で検出した。検出面はVII層である。

〔重複〕SD8と重複し、これより古い。

〔構造・規模〕東西方向(W-25-S)に延びる。検出長は4.1mで、西側は調査区外へ延びている。上幅0.7m、下幅0.2m、深さ0.3mあり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦で、東に向かって低くなっている。

〔堆積土〕3層あり、地山ブロックが少量～多量、炭化物粒が微量～多量の暗褐色粘土質シルトが自然堆積している。

〔出土遺物〕土師器坏・甕・須恵器甕の小破片が出土している。



※セクションポイントは、第29図のA～D、A'～B'に対応

SD8溝跡・SX11自然段落C-5区断面 (A-A')

層構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SX11B	1	にじく黄褐色 (10YR4/3)	シルト質粘土	地山粒～半ブロック量、炭化物粒微量。	堆積土
	2	にじく黄褐色 (10YR4/3)	シルト質粘土	地山粒～半ブロック量、炭化物粒微量。	堆積土
SX11A	3	緑褐色 (10YR3/3)	粘土	地山粒～大ブロック量、炭化物粒微量。	堆積土
	4	緑褐色 (10YR3/3)	粘土	地山粒～小ブロック量、炭化物粒微量。	堆積土
	5	黒褐色 (10YR3/1)	粘土	地山粒～小ブロック量、炭化物粒少量。	堆積土
	6	褐色 (10YR4/1)	粘土	地山粒～半ブロック量、炭化物粒少量。	堆積土
	7	緑褐灰色 (7.5G7/1)	粘土	地山粒アロマを含む。	堆積土
SX11C	8	灰褐色 (10YR4/2)	シルト質粘土	地山粒～半ブロック量、炭化物粒微量。	堆積土
	9	灰褐色 (10YR4/2)	シルト質粘土	地山粒～大ブロック量、炭化物粒微量。	堆積土

SD8・13溝跡C-3区断面 (B-B')

層構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SD8	1	にじく黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物粒微量。小礫微量。	堆積土
	2	緑褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	炭化物粒微量。小礫微量。	堆積土
	3	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	小礫微量。	堆積土
	4	にじく黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山大ブロック量。小礫微量。	堆積土
	5	にじく黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山大ブロック多量。	堆積土
SD13	6	にじく黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	小礫微量。	堆積土
	7	にじく黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山大ブロック多量。小礫微量。	堆積土

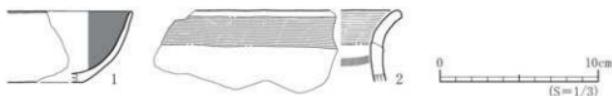
SD8溝跡C-1区断面 (C-C')

層構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SD8	1	にじく黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト	砂化物粒微量。	堆積土
	2	にじく黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物粒微量。小礫微量。	堆積土
	3	緑褐色 (10YR3/4)	砂質シルト	砂化物粒微量。小礫少量。	堆積土
	4	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	小礫少量。	堆積土
	5	にじく黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物粒微量。	堆積土
	6	にじく黄褐色 (10YR5/4)	粘土	炭化物粒多量。	堆積土
	7	にじく黄褐色 (10YR5/4)	粘土	炭化物粒少量。	堆積土
	8	緑褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山大ブロック多量。	堆積土

SD13溝跡C-1区西壁断面 (D-D')

層構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SD13	1	緑褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山粒～小ブロック・炭化物粒少量。	堆積土
	2	緑褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山粒～小ブロック多量、炭化物粒少量。	堆積土
	3	緑褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山ブロック多量、炭化物粒微量。	堆積土

第31図 C区溝跡断面図



No.	種別	基層	透構	層位	残存	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴	写真頁番 地図番号	地図番号
1	上部鉢	片	SD8	堆積土	L/S				外：調査不規 色：タキリ 内：褐色明	26-7	PT1
2	上部鉢	甕	SD8	堆積土	一箇				外：ヨコナゲ→ケツリ 内：ヨコナゲ→ケツリ	26-6	PT2

第32図 C区溝跡出土遺物

第3節 D・E区

遺跡範囲の南部に位置し、標高19～23mの丘陵端部に立地している。E区北部が最も高く、北と南に向かってゆるやかに傾斜する。遺構は、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、土坑12基、溝跡26条を検出した。ほかに柱穴列を3条検出したが、埋土の状況から近代以降のものとみられるため、本文中では扱わないこととした。

A. 掘立柱建物跡

【SB1建物跡】(第35～37図)

〔位置・検出面〕E区南部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕SD25溝跡・SD29溝跡と重複し、これらより古い。

〔規模・構造〕桁行3間、梁行2間の東西棟である。平面規模は桁行が北側柱列で総長4.5m、柱間寸法が西から1.5m・1.4m・1.6mあり、梁行は東側柱列で総長3.5m、柱間寸法が北から1.8m・1.7mある。

〔方向〕北側柱列でみると西で約7°南に偏する。

〔柱穴〕9ヶ所で確認した。平面形は円形を呈し、長軸44～62cm、短軸43～62cm、深さ20～46cmある。

埋土は地山ブロックを含む褐色灰色シルト質粘土である。柱痕跡は7ヶ所で確認し、径18～24cmある。

〔出土遺物〕P4の柱痕跡から須恵器長頸瓶(第37図1)、P3の掘方埋土から土師器甕、須恵器坏体部が出土している。

B. 井戸跡

【SE1井戸跡】(第34・38図)

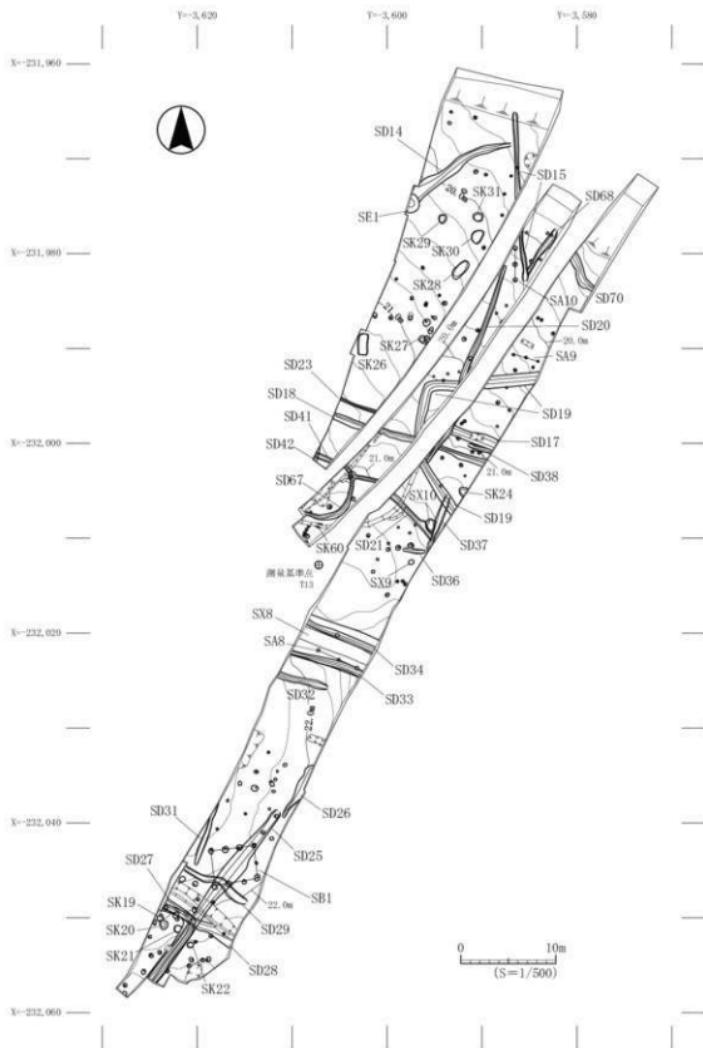
〔位置・検出面〕D-2区西部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕SD14溝跡と重複し、これより新しい。

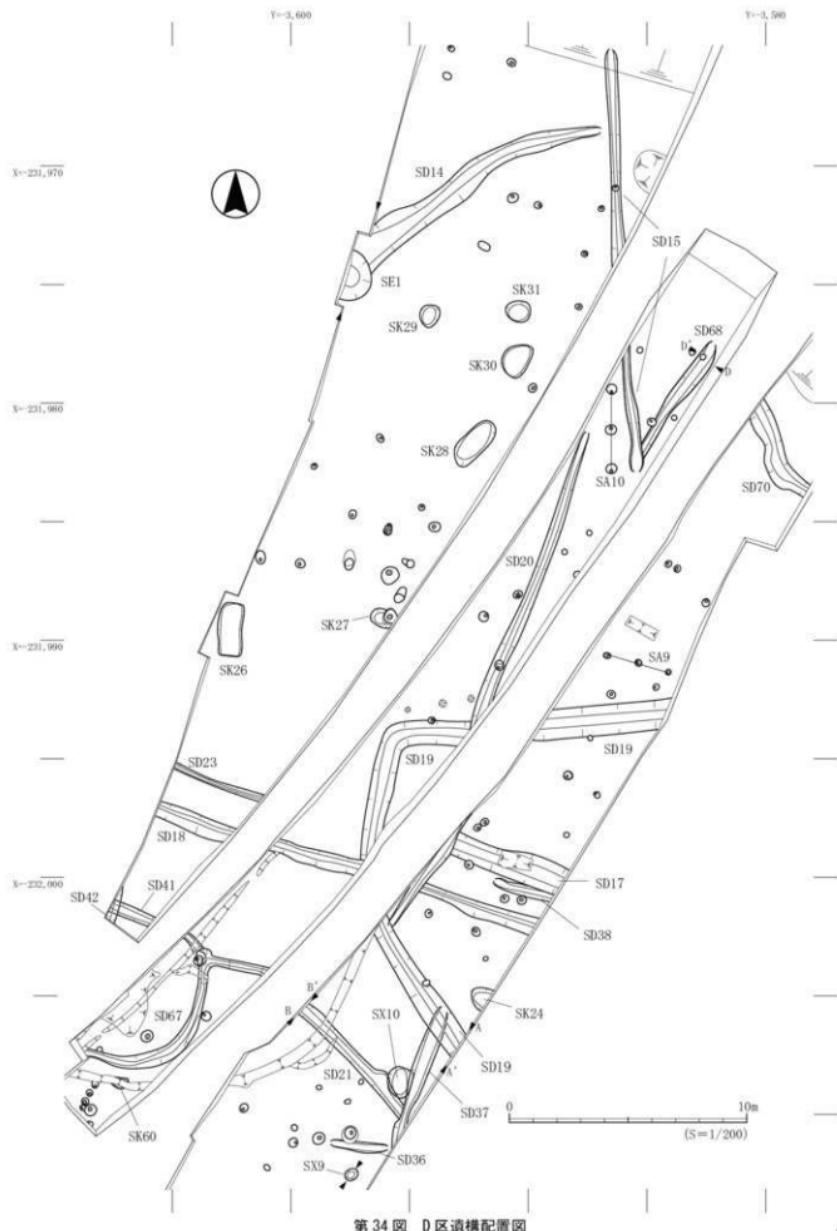
〔規模・構造〕素掘りの井戸跡である。平面形は径2.0mの円形を呈し、断面形は深さ1.0mの漏斗形を呈する。壁は底面から垂直に立ち上がるが、0.4mのところに浅い段がつき、そこから緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕6層あり、上層は地山ブロックを少量、炭化物粒・焼土を微量含むにぶい黄褐色の粘土質シルト、中層は径5cm前後の礫、地山ブロックを中量、炭化物粒・焼土を少量含む灰黄褐色のシルト～シルト質粘土、下層は礫・地山ブロックを多量含むにぶい黄褐色の粘土交じりの砂が自然堆積している。

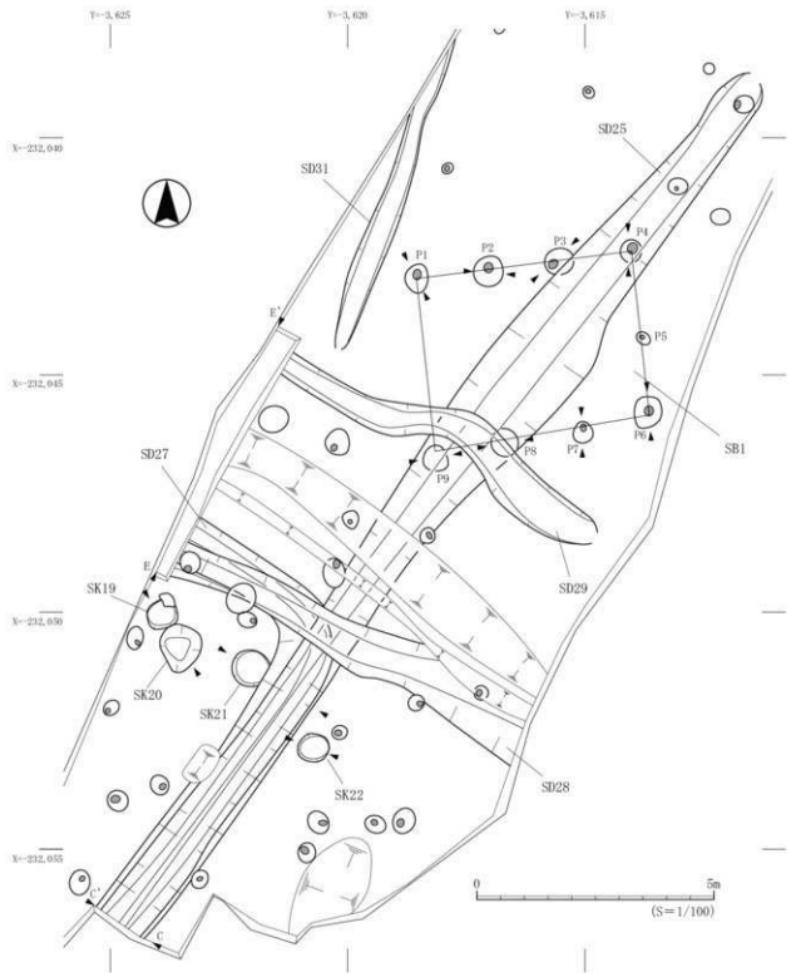
〔出土遺物〕遺物は出土していない。



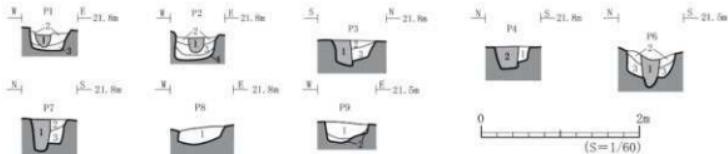
第33図 D・E区全体図



第34図 D区遺構配置図



第35図 E区南部造構配置図



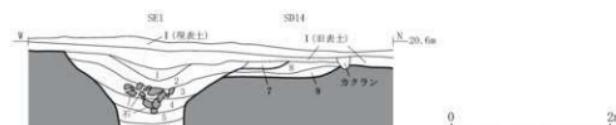
遺構名	序号	土色		特徴		分類
		上色	下色	地山	壁面	
P1 (P126)	1	褐色(色)(10YR5/1)	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。	柱地脚	柱地脚土
	2	褐色(色)(10YR5/1)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。	柱地脚	柱地脚土
	3	褐色(色)(10YR5/3)	粘土	柱地脚	柱地脚	柱地脚土
P2 (P177)	1	褐色(色)(10YR5/1)	シルト質粘土	地山小ブロックを含む。	柱地脚	柱地脚土
	2	褐色(色)(10YR5/1)	シルト質粘土	地山ブロックを含む。	柱地脚	柱地脚土
	3	褐色(色)(10YR5/1)	シルト質粘土	地山ブロック多量、炭化物短無量。	柱地脚	柱地脚土
	4	褐色(色)(10YR5/1)	粘土	地山ブロック多量、炭化物短無量。	柱地脚	柱地脚土
P3 (P196)	1	にじみ・黄褐色(色)(10YR4/3)	粘土質シルト	上部・炭化物短少量、下部・地山小ブロック少量。	柱地脚	柱地脚土
	2	褐色(色)(10YR4/6)	粘土質シルト	炭化物短少量。	柱地脚	柱地脚土
	3	黄褐色(色)(10YR5/6)	粘土質シルト	地山小ブロック少量。	柱地脚	柱地脚土
P4 (P182)	1	褐色(色)(10YR5/6)	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。	柱地脚	柱地脚土
	2	褐色(色)(10YR4/4)	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。	柱地脚	柱地脚土
P6 (P170)	1	褐色(色)(10YR5/3)	シルト質粘土	地山ブロックを含む。	柱地脚	柱地脚土
	2	褐色(色)(10YR5/1)	シルト質粘土	地山ブロック多量。	柱地脚	柱地脚土
	3	褐色(色)(10YR5/1)	シルト質粘土	地山小ブロック多量。	柱地脚	柱地脚土
P7 (P175)	1	にじみ・黄褐色(色)(10YR5/4)	粘土質シルト	上部・炭化物少量、下部・地山中ブロック少量。	柱地脚	柱地脚土
	2	褐色(色)(10YR4/4)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物微量。	柱地脚	柱地脚土
	3	黄褐色(色)(10YR5/6)	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。	柱地脚	柱地脚土
P8(P180)	1	黄褐色(色)(10YR5/6)	粘土質シルト	地山中ブロックを含む。	柱地脚	柱地脚土
	2	褐色(色)(10YR5/6)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物短無量。	柱地脚	柱地脚土
P9 (P192)	1	にじみ・黄褐色(色)(10YR5/4)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物短無量。	柱地脚	柱地脚土
	2	にじみ・黄褐色(色)(10YR5/4)	粘土質シルト	地山中ブロックを含む。	柱地脚	柱地脚土

第36図 SB1 建物跡断面図



No.	種別	寸幅	遺構	遺物	層位	残存	D径 (cm)	直徑 (cm)	厚さ (cm)	特徴	等高測定	登録番号
1	発熱器	長辺版	SB1-P4	2	口縁部					内: ロクロナゲ 外: ロクロナゲ 内外面に自然釉付着	26-8	P73

第37図 SB1 建物跡出土遺物



遺構名	寸幅	土色		特徴		分類
		上色	下色	地山	壁面	
SE1	1	にじみ・黄褐色(色)(10YR4/3)	粘土質シルト	地山起尻の小段少量。		堆積土
	2	にじみ・黄褐色(色)(10YR4/3)	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。炭化物短。地山起。地山乾燥の小～中段少量。		堆積土
	3	灰褐色(色)(10YR4/2)	粘土質シルト	地山小ブロック、地山乾燥の小段少量。地山起。地山乾燥の河～海側。多量。		堆積土
SD14	4	灰褐色(色)(10YR4/2)	粘土	地山小ブロック、地山乾燥の小段少量。空2,500×1縦オリーブ灰色粘土をテラス状に含む。		堆積土
	5	にじみ・黄褐色(色)(10YR4/3)	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。炭化物短。地山起。地山乾燥の小段少量。		堆積土
	6			地山4層のカタランに入る粘土と肩手5層の瓦。		堆積土
SD14	7	2,5Y4/3オーリーブ褐色	粘土質シルト	地山アーチ瓦を含む。炭化物短。地山起。地山乾燥の小段少量。		堆積土
	8	2,5Y4/3オーリーブ褐色	粘土質シルト	地山粘少量。炭化物短。地山起。地山乾燥の小段少量。		堆積土
	9	2,5Y4/3オーリーブ褐色	粘土質シルト	地山中～大ブロック多量。炭化物短無量。地山乾燥の小～中段多量。砂利をラミナ状に含む。		堆積土

第38図 SE1 戸井跡断面図

C . 土坑

【SK19 土坑】(第 35・39・40 図、第 6 表)

〔位置・検出面〕E-1 区南部で検出した。検出面は IX 層である。

〔重複〕 SK20 土坑と重複しており、これより新しい。

〔規模・構造〕長軸 0.7m、短軸 0.6m のやや不整な円形を呈する。深さは 0.4m あり、底面はほぼ平坦である。断面形は箱形を呈し、壁は垂直に立ち上がる。

〔堆積土〕4 層あり、上層は地山ブロックを少量含む褐色～にぶい黄橙の粘土質シルト、下層は地山ブロックを多量、炭化物粒を少量含むにぶい黄橙の粘土質シルトの自然堆積である。

〔出土遺物〕石鏃（第 40 図 5）や楔形石器が出土している。

【SK20 土坑】(第 35・39・40 図、第 6 表)

〔位置・検出面〕E-1 区南部で検出した。検出面は IX 層である。

〔重複〕 SK19 と重複しており、これより古い。

〔規模・構造〕長軸 1.0m、短軸 0.9m の不整な円形を呈する。深さ 0.5m あり、断面形は U 字形を呈し、底面から 0.3m のところに浅い段がつく。

〔堆積土〕10 層あり、上層は炭化物粒を少量含む褐色～にぶい黄褐色の粘土質シルト、中層は炭化物粒を含む黒褐色～暗褐色～にぶい黄橙の粘土質シルトの自然堆積で、下層は地山ブロックを多量に含むにぶい黄橙の粘土質シルトで埋め戻されている。

〔出土遺物〕弥生土器甕、石錐（第 40 図 7）、楔形石器（同図 9）、打製石斧（同図 8）、敲石（同図 13）・磨石が出土した。

【SK21 土坑】(第 35・39・40 図、第 6 表)

〔位置・検出面〕E-1 区南部で検出した。検出面は IX 層である。

〔重複〕 SD27 溝跡と重複しており、これより古い。

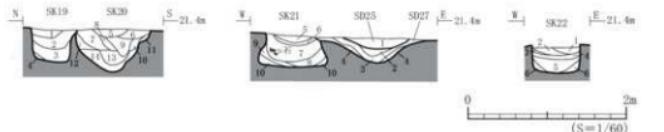
〔規模・構造〕径 0.8m の円形を呈する。深さは 0.3m あり、断面形は プラスコ形を呈する。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕堆積土は 6 層あり、上層は炭化物粒を含む褐色の粘土質シルト、中層は多量の炭化物粒、少量の焼土粒を含む暗褐色の粘土質シルトで、下層は多量の地山ブロックを含むにぶい黄褐色の粘土質シルトが自然堆積している。

〔出土遺物〕弥生土器甕（第 40 図 3～4）、石錐（同図 6）、石範（同図 10）、凹石（同図 12）、磨石が出土している。このほか、弥生土器甕の小破片が多数出土している。

【SK22 土坑】(第 35・39・40 図)

〔位置・検出面〕E-1 区南部で検出した。検出面は IX 層である。



剖面名	層序	土色	性質	特徴	分類
SK19	1	にじ・黄褐色 (10YR6/4)	粘土質シルト	含物なし。	堆積土
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山小プロック少量。	堆積土
	3	にじ・黄褐色 (10YR6/3)	粘土質シルト	地山小プロックを含む。	堆積土
	4	にじ・黄褐色 (10YR7/2)	粘土質シルト	含物なし。	堆積土
SK20	5	にじ・黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	含物なし。	堆積土
	6	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物粒少量。	堆積土
	7	暗褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物粒少量。	堆積土
	8	暗褐色 (7.5YR3/4)	粘土質シルト	含物なし。	堆積土
	9	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山跡少量。	堆積土
	10	にじ・黄褐色 (10YR5/4)	粘土質シルト	含物なし。	堆積土
	11	にじ・黄褐色 (10YR6/3)	粘土質シルト	含物なし。	堆積土
	12	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物粒少量。	堆積土
	13	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	含物なし。	堆積土
	14	にじ・黄褐色 (10YR7/2)	粘土質シルト	含物なし。	堆積土
SD25	1	にじ・黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	小礫および炭化物粒微量。	堆積土
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物粒・礫状に微量含む。	堆積土
	3	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山中プロック少量。	堆積土
	4	にじ・黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山中一大プロック多量。	堆積土
SK21	5	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物粒少量。	堆積土
	6	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山中一大プロック多量。	堆積土
	7	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山中一大プロック少量。小礫・礫粒微量。炭化物粒多量。	堆積土
	8	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中一大プロック少量。地山細少量。炭化物粒少量。	堆積土
	9	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山中一大プロック微量。炭化物粒微量。	堆積土
	10	にじ・黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山中一大プロック多量。礫と黒斑、炭化物粒微量。	堆積土
	11	黄色 (10YR6/3)	粘土質シルト	含物なし。	堆積土
	12	暗褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物粒少量。	堆積土
	13	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物粒少量。	堆積土
	14	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト	炭化物粒を含む。	堆積土
SK22	1	にじ・黄褐色 (10YR7/2)	粘土質シルト	地山小プロックを含む。	堆積土
	2	灰白色 (10YR6/2)	粘土質シルト	地山小プロック少量。	堆積土
	3	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物粒少量。	堆積土
	4	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト	炭化物粒を含む。	堆積土
	5	にじ・黄褐色 (10YR7/2)	粘土質シルト	地山小プロックを含む。	堆積土
	6	灰白色 (10YR6/2)	粘土質シルト	地山小プロック少量。	堆積土

第39図 E区土坑断面図

[重複]なし。

[構造・規模]長軸0.7m、短軸0.6mの円形を呈する。深さが0.3mあり、断面形は箱形を呈する。壁は底面から垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

[堆積土]6層あり、上層は炭化物粒を少量含む黄橙の粘土質シルト、中層は炭化物粒を多量含む黒～褐色の粘土質シルト、下層は地山プロックを含むにじ黄橙～灰白色の粘土質シルトである。上・中層は自然堆積であるが、下層は埋め戻されている。

[出土遺物]繩文土器深鉢(第40図1)、弥生土器甕(同図2)、楔形石器、磨石(同図11)が出土している。このほか、弥生土器の甕の小破片が多数出土している。

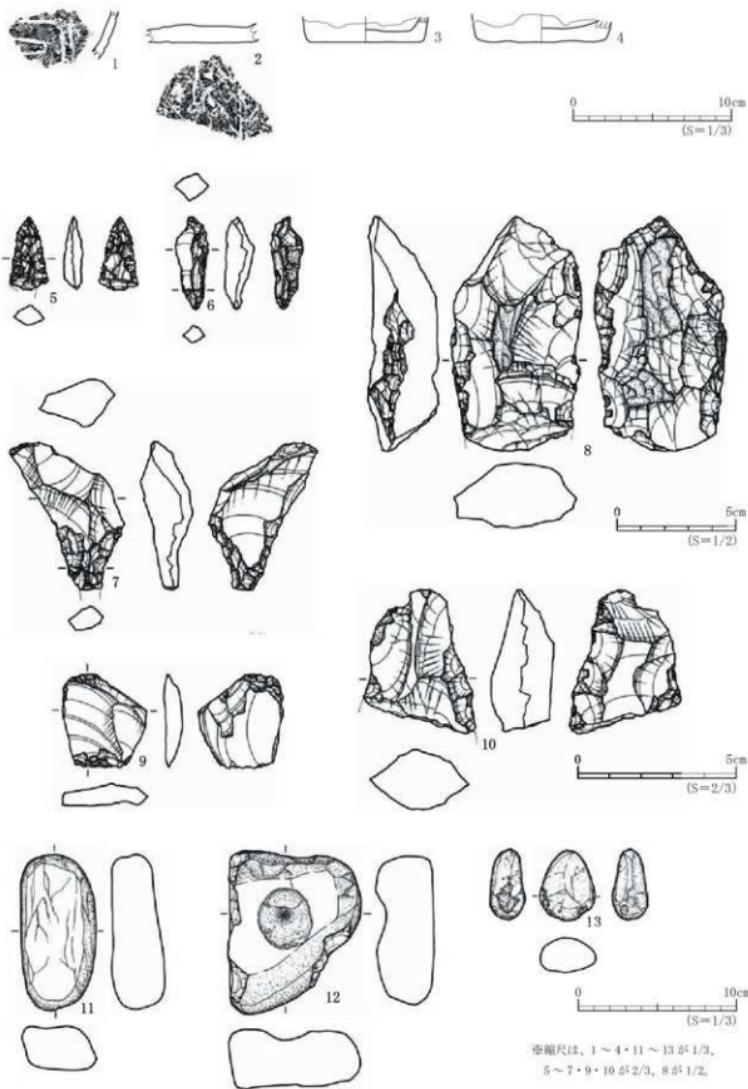
D. 溝跡

[SD19溝跡](第34・41・42図)

[位置・検出面]D-1区中央部からD-3区、D-4区にかけて検出した。検出面はIX層である。

[重複]SD18・20・37溝跡と重複し、SD18・20溝跡より古く、SD37溝跡より新しい。

[構造・規模]L字(南北:N-14-W、東西W-32-N)に延びる。検出長は25.5mで、D-1区東側で両端が調査区外に延びている。上幅1.3m、下幅0.4m、深さ0.6mで、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、東に向かって低くなっている。



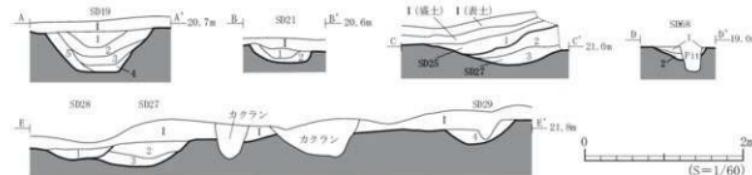
第40図 E区土坑出土遺物

座縮尺は、1～4・11～13が1/3、
5～7・9・10が2/3、8が1/2。

第6表 E区土坑出土遺物観察表

No.	種別	器種	遺構	層位	性質	口径(cm)	底径(cm)	深度(cm)	特徴	写真番号	世跡番号
1	礫文土部	灰陶	SD22	4層	一部	-	-	-	外：区画沈縛→1、2縄文 内：調査不明 駒士に砂粒を多く含む	26-9	P95
2	拘生土部	便	SD22	7層	一部	-	-	-	外：底：木葉組、陶柱痕？ 内：調査不明	26-10	P96
3	拘生土部	便	SD21	堆積土	底部のみ	-	6.8	-	外：調査不明 内：調査不明 駒士に小礫粒を多く含む	26-11	P91
4	拘生土部	便	SD21	4層	一部	-	-	-	内・外面部ともに調査不明 駒士に砂粒を多く含む	26-12	P93

No.	種別	器種	遺構	層位	性質	石材	長さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	参考	写真番号	世跡番号
5	石器	石器	SD19	堆積土	某部欠損	赤貝殻	2.29	1.21	0.61	有集	26-13	S38
6	石器	石器	SD21	堆積土	一部	貝質貝殻	2.87	0.88	0.78	棒状	26-14	S48
7	石器	石器	SD20	7層	堆積土欠損	安山岩質灰岩	5.05	2.14	1.36	-	26-16	S43
8	石器	打製石斧	SD20	7層	未成品	安山岩質灰岩	9.68	5.29	2.75	-	26-18	S42
9	石器	槌打石器	SD20	7層	一部欠損	絆質灰岩	2.94	2.06	0.52	-	26-15	S41
10	石器	石器	SD21	堆積土	基部のみ	貝殻	4.94	3.79	1.85	-	26-17	S49
11	石器	磨石	SD22	堆積	一部	ダイライト	9.77	4.72	3.43	-	26-19	S54
12	石器	磨石	SD21	3層	一部	ダイライト	10.25	8.51	2.93	-	26-20	S51
13	石器	磨石	SD20	7層	一部	玉類	4.47	3.47	2.15	-	26-21	S45



遺構名	層序	上位	下位	特徴	分類
SD19	A-B'	1 黄灰褐色 (1018A-2)	粘土質シルト	地山中へ大ブロック多量、炭化物少々、焼土を微量含む灰黄褐色の粘土質シルトで埋め戻され、下層は地山ブロックを少量～多量、炭化物粒・焼土を微量含むにぶい黄褐色のシルト質粘土が自然堆積している。	堆積土
	2	黄灰褐色 (1018A-2)	シルト質シルト	地山小へブロック多量、炭化物少々、焼土を微量含む。	堆積土
	3	[...]-黄褐色 (1018C-2)	シルト質粘土	地山少少量、炭化物粒・焼土を微量含む。	堆積土
	4	[...]-黄褐色 (1018C-2)	シルト質粘土	地山少少量化、炭化物粒・焼土を微量含む。	堆積土
	5	[...]-黄褐色 (1018C-2)	シルト質粘土	地山大ブロック多量、炭化物粒・焼土を微量含む。	堆積土
	6	[...]-黄褐色 (1018C-2)	シルト質粘土	地山少少量化、炭化物粒・焼土を微量含む。	堆積土
	7	[...]-黄褐色 (1018C-2)	シルト質シルト	地山少量化、炭化物粒・焼土を微量含む。	堆積土
SD21	B-B'	1 無色 (1018A-4)	粘土質シルト	地山小ブロック少量、炭化物無量。	堆積土
	2	褐色 (1018A-4)	粘土質シルト	地山少量化、炭化物無量。	堆積土
SD25	C-C'	1 線繩痕 (1018C-2)	粘土質シルト	地山少量化、炭化物粒を僅に多量含む。	堆積土
SD27	2	無繩痕 (1018C-2)	粘土質シルト	地山少量化、炭化物粒。	堆積土
	3	無繩痕 (1018C-2)	粘土質シルト	地山少量化、炭化物粒。	堆積土
SD68	D-D'	1 [...] -黄褐色 (1018B-2)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、少々少量化。	堆積土
	2	[...]-黄褐色 (1018B-2)	粘土質シルト	地山中ブロック多量、少々少量化。	堆積土
SD28	E-E'	1 黄灰褐色 (1018C-2)	粘土質シルト	地山小ブロック多量、炭化物無量。	堆積土
	2	黄灰褐色 (1018C-2)	粘土質シルト	地山程へブロック少量、炭化物無量。	堆積土
SD27	3	無繩痕 (1018C-2)	粘土質シルト	地山程へブロック少量。	堆積土
	4	無繩痕 (1018C-2)	粘土質シルト	地山程へブロック少量、炭化物を僅に少量含む。	堆積土
SD29					

第41図 D・E区溝跡断面図

【堆積土】5層あり、上層は地山ブロックを多量、炭化物粒・焼土を微量含む灰黄褐色の粘土質シルトで埋め戻され、下層は地山ブロックを少量～多量、炭化物粒・焦土を微量含むにぶい黄褐色のシルト質粘土が自然堆積している。

【出土遺物】土師器壺・甕、須恵器壺（第42図4）・甕、石錐（同図6）が出土している。

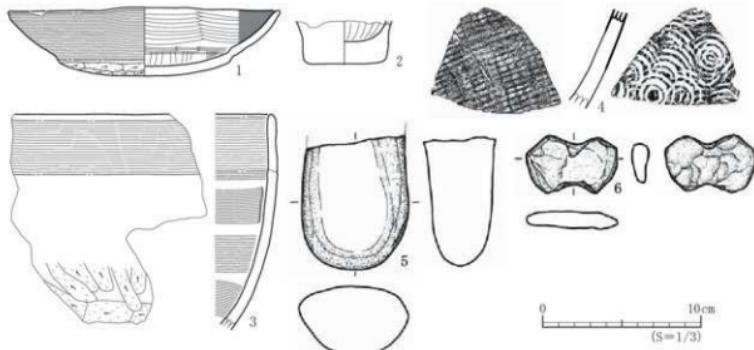
【SD21溝跡】（第34・41・42図）

【位置・検出面】D-1区中央部で検出した。検出面はIX層である。

【重複】SD37・67溝跡、SX10と重複し、SD37・67溝跡よりも古く、SX10よりも新しい。

【構造・規模】南北方向（N-43-W）に延びる。検出長は6.1mで、東側・西側両端で調査区外に延びている。上幅0.5～0.7m、下幅0.1～0.2m、深さ0.2mあり、断面形は皿形を呈する。底面は平坦で、東に向かって低くなっている。

【堆積土】2層あり、上層は地山ブロックを少量、炭化物粒・焼土を微量含む褐色の粘土質シルト、



No.	種別	器種	遺構	層位	保存	口徑(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	特徴	写真図版	登録番号
1	土師器	片	SD21	I層	3/4	(17.1)	4.3	4.3	内：ヨコナデ→ケズリ 内：「芋キ」無色修理 外：ミニチュア土器 脚外：脚修理不明	26-24	P77
2	土師器	壺	SD21	I層	底部のみ		3.6		内：ナギ、底部にスヌ材質 脚土に小縫を多く含む	26-23	P76
3	土師器	壺	SD21	I層	一部				内：ケズリ→ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナギ 脚土に小縫を多く含む	26-22	P80
4	土師器	壺	SD19	堆積土	一回				外：格子タテ目 内：同心円あわせ	26-27	P75
No.	種別	器種	遺構	層位	保存	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	特徴	写真図版	登録番号
5	石器	磨石	SD68	堆積土	二回欠損	ダイヤモンド	8.52	6.81	4.46	26-26	S32
6	石器	石錐	SD19	堆積土	空洞	筑山岩質風化	3.70	5.26	1.48	26-25	S29

第42図 D・E区溝跡出土遺物

下層は地山ブロックを多量、炭化物粒を微量含む灰黄褐色の粘土質シルトが自然堆積している。

[出土遺物] 土師器壺（第42図1）・甕（同図3）・ミニチュア土器（同図2）が出土している。

【SD25 溝跡】（第35・39・41図）

[位置・検出面] E-1区南部から中央部で検出した。検出面はIX層である。

[重複] SB1 建物跡・SD27・28・29 溝跡と重複し、SD28・29 溝跡より古く、SB1 建物跡・SD27 溝跡より新しい。

[構造・規模] 南北方向（N-37-E）に延びる。検出長 22.4m で、南側で調査区外に延びている。上幅 0.8 ~ 1.8m、下幅 0.1m 以上、深さ 0.2m あり、断面形は皿形を呈する。底面は平坦で、南に向かって低くなっている。

[堆積土] 1 層あり、小縫や炭化物粒をわずかに含むにぶい黄褐色の粘土質シルトが自然堆積している。

[出土遺物] 土師器小片や中世陶器甕が出土している。

【SD27 溝跡】（第35・39・41図）

[位置・検出面] E-1区南部で検出した。検出面はIX層である。

[重複] SD25・28 溝跡、SK21 土坑、P168・172 と重複し、これらよりも古い。

[構造・規模] L字（南北:N-35-E、東西:W-32-N）に延びる。総検出長 11.5 m（南北 7.8、東西 3.7）で、南側、西側両端で調査区外に延びている。上幅 0.8 ~ 1.2m、下幅 0.3 ~ 0.7m、深さ 0.4m で、断面形は皿形を呈する。底面は南側に向かって低くなっている。

〔堆積土〕3層あり、地山ブロックを少量～多量に含む褐色～にぶい黄褐色の粘土質シルトが自然堆積している。

〔出土遺物〕楔形石器、土師器甕、近世～近代の陶器蓋が出土している。

【SD28 溝跡】(第35・41図)

〔位置・検出面〕E-1区南部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕SD25・27溝跡と重複し、これらより新しい。

〔構造・規模〕東西方向(W-30-N)に延びる。検出長8.2mで、東側、西側両端で調査区外に延びている。上幅0.8～1.3m、下幅0.3～0.8m、深さ0.1mあり、断面形は皿形を呈する。底面は平坦で、西側に向かって低くなる。

〔堆積土〕1層あり、地山ブロックを少量、炭化物粒をわずかに含む灰黄褐色の粘土質シルトが自然堆積している。

〔出土遺物〕磨石、不定形石器、土師器甕・須恵器甕が出土している。

【SD29 溝跡】(第35・41図)

〔位置・検出面〕E-1区南部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕SB1建物跡・SD25溝跡と重複し、これらより新しい。

〔構造・規模〕東西方向(W-29-N)に蛇行しながら伸びる。検出長7.5mで、西側は調査区外に伸びている。上幅0.5～1.0m、下幅0.4m、深さ0.2mあり、断面形は皿形を呈する。底面は平坦で、西側に向かって低くなる。

〔堆積土〕1層あり、地山ブロック・小礫を少量含む暗褐色の粘土質シルトが自然堆積している。

〔出土遺物〕須恵器甕の小破片が出土している。

【SD68 溝跡】(第34・42図)

〔位置・検出面〕D-4区北部で検出した。検出面はIX層である。

〔重複〕SD15溝跡と重複し、これより古い。

〔規模・構造〕南北方向(N-34-W)に伸びる。検出長5.6m、上幅0.4～0.7m、下幅0.2～0.3m、深さ0.1～0.2mで、断面形は皿状を呈する。底面は平坦で、北に向かって低くなっている。

〔堆積土〕2層あり、地山ブロックを多量、小粒礫を少量含む灰黄褐色～にぶい黄褐色の粘土質シルトで埋め戻されている。

〔出土遺物〕磨石(第42図5)が出土している。

第7表 据立柱建物跡一覧表

遺構名	調査区	面積	柱方向	平面規範				方向		柱穴方		柱抜 取穴 (個)	備考 (出土遺物など)	辨認番号 平面 断面		
				軒行		縦行		方向		柱穴跡						
				柱長(m)	柱幅(m)	柱間寸法(m)	柱長(m)	柱幅(m)	柱間寸法(m)	角度	柱間距 (c m)	周囲 (c m)	平面形			
S81	E-1	3	東西	4.5	北	1.5+1.4+1.6	3.5	東	1.8+1.7	E-T-N	北	10~24	30~62	円形, 椎円形	土面跡無, 但遺物 器皿・瓶・壺	35 36
S82	E-2	1	南北	9.2	東	2.1+2.5+2.5 +2.1	5.8	南	1.9+2.1+1.8	N-S-W	東	14~20	48~68	円形, 椎円形	供生土上部, 土 器皿細片	15 17
S83	E-3	4	南北	10.1	西	2.0+2.7+2.7 +2.3	6.4	南	2.2+2.0+2.2	N-S-W	西	14~21	49~73	円形, 椎円形	器物なし	15 17
S84	B-3	2+	南北	3.9+	西	1.9+2.0	4.5	東	1.5+1.4+1.6	N-S-W	西	11~16	35~51	円形, 椎円形	土面跡無, 器皿 器皿	15 17
S85	B-2	2	東西	3.5	北	1.8+1.7	3.6	西	1.8+1.8	E-T-S	北	14~28	51~68	円形, 椎円形	土面跡無	16 17
S86	B-3	(2)	東西	1.8+	南	1.6 (1開分)	1.7+	西	1.7 (1開分)	E-T-S	南	12	33~48	円形, 椎円形	器物なし	66
S87	B-3	(2)	東西	1.6+	南	1.6 (1開分)	1.8+	东	1.8 (1開分)	E-T-S	南	10~16	34~63	円形, 椎円形	器物なし	66
S88	B-4	2	東西	4.4	南	2.2+2.2	3.9	西	1.9+2.0	E-T-S	南	15~28	35~77	円形, 椎円形	土面跡無, 器皿	16 17
S89	B-4	(2)	東西	5.1	南	2.7+2.4	3.7	東	1.8+1.9	E-T-S	南	10~19	28~45	円形, 椎円形	器物なし	10
S90	B-4	2	南北	4.5	東	2.0+2.2	2.3	南	1.1+1.2	N-S-W	東	10~29	31~49	円形, 椎円形	土面跡無片・器 皿細片・片	10

(注) 開然 (平面規範) 一 (数値) は概定, 二 (数値) は寸法, 三 (数値) はJIS上を参考

第8表 塙跡・柱穴列一覧表

遺構名	調査区	面積	規範				方向	柱抜跡	柱穴方	柱穴列	備考	辨認番号 平面 断面	
			縦長(m)	横幅(m)	柱間寸法(m)	柱間寸法(m)							
S43	B-2	3	6.9	2.3+2.3+2.3	N-S	37-E	16~18	39~54	円形	1	器物なし	15 18	
S44	B-3	西4南3東2	10.8	9.4	5.9	西4+2.1, 南3+2.3+3.1, 東2+1.8	西5-S-39-W	14~22	48~59	円形	0	器物なし	15 18
S45	B-4	3	5.4	2.1+1.7+1.6	W-S	35-K	12~15	31~41	円形	0	器物なし	10	
S46	B-4	3	4.5	1.7+1.4+1.3	W-S	35-K	10~12	30~35	円形	0	器物なし	10	
S47	B-4	3	6.4	1.9+2.0+2.5	W-S	35-K	14~15	27~47	円形	0	器物なし	10	

第9表 土坑一覧表

遺構名	調査区	面積	断面形	大きさ(m)	深さ(m)	堆積土	主な遺物				備考	辨認番号 平面 断面
							縦長(m)	横幅(m)	柱間寸法(m)	柱間寸法(m)		
S31	D-2	1	円形	1.0	0.9	自然	石器, 破片				SK12 より新しい	35 39
S32	E-1	不整円形	圓筒状	1.0+1.9	0.5	自然	所生土跡, 石器, 破片				SK19 より古い	35 39
S32	E-1	不整円形	フタヌイ状	0.8	0.4	自然	所生土跡, 石器, 破片				SK20 より古い	35 39
S32	E-1	不整円形	窓	0.7	0.6	自然	所生土跡, 破片				SK21 より新しい	35 39
S32	E-1	不整円形	穴付窓	1.0 × 0.8 以上	0.4	自然 → 人鳥	土面跡裏				SK22 より新しい	31
S32	E-2	圓形	穴付窓	2.2 × 1.0	0.3	人鳥	破片				SK23 より新しい	31
S32	E-2	圓形	窓	1.6×1.1	0.7	0.1 人鳥	なし				SK24 より新しい	31
S32	E-2	不整圓形	穴付窓	2.2 × 1.0	0.3	自然 → 人鳥	なし				SK25 より新しい	31
S32	E-2	不整圓形	窓	0.9 × 0.8	0.2 人鳥 → 自然	自然	なし				SK26 より新しい	31
S32	E-2	不整圓形	穴付窓	1.5 × 1.1	0.4 人鳥 → 自然	自然	なし				SK27 より新しい	31
S32	E-2	不整圓形	窓	1.0 × 0.9	0.3 人鳥	自然	なし				SK28 より新しい	31
S32	E-2	不整圓形	穴付窓	1.5 × 1.1	0.4 人鳥	自然	なし				SK29 より新しい	31
S32	E-2	不整圓形	窓	1.0 × 0.9	0.3 人鳥	自然	なし				SK30 より新しい	31
S32	E-2	不整圓形	穴付窓	1.5 × 1.1	0.4 人鳥	自然	なし				SK31 より新しい	31
S32	E-2	不整圓形	窓	1.0 × 0.9	0.3 人鳥	自然	なし				SK32 より新しい	31
S32	C-4	円形	窓	0.7	0.3 人鳥	土面跡裏					SK33 より新しい	29 30
S33	C-3	円形	窓	1.0 × 0.9	0.1 人鳥	土面跡裏					SK34 より新しい	29 30
S34	B-1	不整円形	窓	0.9 × 0.7	0.2 人鳥	自然	なし				SK35 より新しい	8
S35	B-4	円形	窓	1.1	0.3 人鳥	近世陶器					SK36 より新しい	10 20
S36	B-4	円形	窓	1.0 × 0.9	0.1 人鳥	近世陶器					SK37 より新しい	10
S37	B-4	円形	窓	1.5 × 1.4	0.5 自然	近世 → 近代陶器					カクランと重複	10
S38	B-4	円形	窓	1.0 × 0.9	0.1 人鳥	土面跡裏					カクランと重複	10
S39	B-4	円形	窓	1.0 × 0.9	0.1 人鳥	土面跡裏					カクランと重複	10
S40	B-4	円形	窓	1.0 × 0.9	0.1 人鳥	土面跡裏					カクランと重複	10
S41	B-4	円形	窓	0.7 × 0.6	0.2 人鳥	なし					SK39 より新しい	10 25
S42	B-4	不整円形	窓	1.4 × 1.3	0.3 人鳥	土面跡裏					SK41 より新しい	10 25
S43	B-4	円形	窓	1.8 × 1.4	0.4 人鳥	土面跡裏					SK45 より新しい	10 20
S44	B-4	円形	窓	1.1	0.4 人鳥	土面跡裏					カクランに覆われる	10
S45	B-4	円形	窓	0.6 × 0.5	0.1 人鳥	土面跡裏					カクラン	10
S46	B-4	不整圓形	窓	1.8 × 0.7 以上	0.1 人鳥	所生土跡, 石器, 破片					SK49 → SK48 → S72	11 20
S49	B-3	圓形	窓	1.0 × 0.8	0.1 人鳥	瓦質					SK49 より新しい	9 20
S50	B-4	圓形	窓	1.3 × 0.8 以上	0.1 人鳥	自然	なし				SK51 より新しい	10
S51	B-4	圓形	窓	1.0 × 0.8 以上	0.3 人鳥	自然	なし				SK50 より新しい	10
S52	B-3	円形	窓	0.9	0.1 人鳥	自然	なし				9	
S53	B-4	円形	窓	0.6	0.1 人鳥	自然	なし				9	
S54	B-3	円形	窓	0.8	0.3 人鳥	自然	なし				9	
S55	A-1	円形	窓	0.7 × 0.6	0.3 人鳥	自然	なし				SK56 より新しい	7 23
S56	A-1	円形	窓	0.5 × 0.3 以上	0.2 人鳥	自然	なし				SK55 より新しい	7
S57	A-2	円形	窓	0.6	0.2 人鳥	土面跡裏					SK57 より新しい	7
S58	A-2	円形	窓	0.6	0.2 人鳥	土面跡裏					SK58 より新しい	7 20
S59	B-4	円形	窓	0.5 以上 × 0.4 以上	0.3 人鳥	自然	なし				SK59 → SK48 → S72	11
S60	D-3	不整圓形	窓	0.6 以上 × 0.5	0.1 人鳥	自然	なし				カクランと重複	34

第10表 溝跡一覧表

遺構名	調査区	推奨長 (m)	断面形	規模 (m)			方向	堆積土	主な遺物	備考	辨認番号 平面図 断面
				上幅	下幅	高さ					
SD1	8-1×2	56.9	溝状	0.5~1.2	0.3~0.5	0.5~0.8	南北 (N-11-E)	自然→人為	土壌器井・甕、須恵器井・甕	SD35+36+37より新し。	7 23
SD2	9-4	26.3	溝状	1.6~1.8	0.7~0.9	0.5~0.7	東西 (W-11-S)	自然	土壌器井・甕、須恵器井・甕、鏡、瓦、土塊、瓦	SD35+36より新し。	10 25-H
SD6	9-2	6.8	溝状	0.5~2.2	0.3~0.6	0.2~0.6	東西 (W-14-S)	自然	須恵器井	8	25-B
SD7	9-2	17.8	溝	0.8~3.5	0.4~1.2	0.2~0.5	南北 (N-12-E)	自然	土壌器井・甕井・甕、須	SD36より新し。	8 25-HC
SD8	C-1×3	127.0	溝状	0.6~1.9	0.2~0.4	0.4~0.6	南北 (N-21-E)	自然	土壌器井・甕、須恵器井	SD43+47+53より古く。SD29より新し。	21-ABK
SD12	C-3	4.1	溝状	0.2	0.2	0.3	東西 (W-25-S)	自然	土壌器井・甕、須恵器井	SD6より古く。	29 21-E
SD14	D-2	11.5	溝状	0.9~1.	0.3~0.9	0.2	東西 (W-26-S)	自然	なし	SD1より古く。	34
SD15	D-2×4	16.0	溝状	0.6~0.9	0.1~0.2	0.2	南北 (N-3-E)	自然	なし	SD6より新し。	34
SD17	D-1	4.6	溝状	1.0~1.2	0.3~0.6	0.4	東西 (W-21-S)	自然	土壌器井片	SD26より古く。SD29上り新し。	34
SD18	D-1×3	16.7	溝状	0.6~0.8	0.1~0.2	0.3	東西 (W-18-S)	自然→人為	なし	SD29より古く。SD29上り新し。	34
SD19	D-1×3×4	25.5	溝状	1.3	0.4	0.6	L字 (南北:N-14-E、東西:W-5-S)	自然→人為	土壌器井、須恵器井、瓦	SD29より古く。SD27上り新し。	34 62-A
SD20	D-1×4	22.4	溝状	0.6~0.8	0.2	0.2	南北 (N-22-E)	自然	近世陶器罐、ガラス	SD17+18+19+20より新し。	34
SD21	E-1	6.1	溝状	0.5~0.7	0.1~0.2	0.2	南北 (N-43-W)	自然	土壌器井・甕・ミニチャーブ	SD27より古く。SD30上り新し。	34 62-B
SD23	E-2	4.6	溝状	0.3	0.1	0.1	東西 (W-21-S)	自然	なし	34	
SD25	E-2	22.4	溝状	0.6~1.8	0.1~0.2	0.2	南北 (N-37-E)	自然	土壌器井片	SD29より古く。SD1+SD27より新し。	34 61-C
SD26	E-1	1.6	溝状	0.3~1.	0.1~0.2	0.1	南北 (N-25-E)	自然	なし	33	
SD27	E-1	7.6	溝状	0.8~1.2	0.3~0.7	0.4	L字 (南北:N-35-E、東西:W-32-S)	自然	土壌器井、不定形石器	SD25+26より古く。SD21より新し。	41-Φ
SD28	E-1	8.2	溝状	0.6~1.2	0.3~0.8	1	東西 (W-30-S)	自然	土壌器井、不定形石器・砾石	SD25+27より新し。	41-Φ
SD29	E-1	7.5	溝状	0.5~1.6	0.4	0.2	東西 (W-29-S)	自然	須恵器井	SD1+SD25より新し。	35 61-D
SD30	E-1	7.0	溝状	0.5~0.6	0.4	0.1	南北 (N-19-E)	自然	なし	35	
SD32	E-1	5.5	溝状	0.6~0.8	0.3	0.3	東西 (E-15-S)	自然	なし	33	
SD33	E-1	7.7	溝状	0.9	0.3	0.3	東西 (W-17-S)	自然	なし	SD8より新し。	33
SD34	E-1	7.6	溝状	2.2	1.8	0.5	東西 (W-22-S)	自然	なし	SD8より新し。	33
SD36	D-1	2.8	溝状	0.3~0.5	0.2	0.2	南北 (N-30-E)	自然	刮削	34	
SD37	D-1	6.3	溝状	0.8	0.3	0.1	南北 (N-19-E)	自然	刮削片	SD19より古く。SD21+SD30より新し。	34
SD38	D-1	2.6	溝状	0.4	0.2	0.1	東西 (W-18-S)	自然	なし	SD17より古く。	34
SD40	C-5	4.1	溝状	0.8	0.2	0.3	東西 (W-20-S)	自然	なし	29	
SD41	D-2	1.9	溝状	0.5	0.2	0.1	東西 (W-22-S)	自然	なし	SD2より古く。	34
SD42	D-2	1.6	溝状	0.6~1.0	0.2~0.4	0.1	南北 (N-16-E)	自然	なし	SD1より新し。	34
SD43	C-4	7.1	溝状	0.6	0.2	0.2	東西 (W-24-S)	自然	なし	SD9より古く。SD8より新し。	29
SD44	C-4	2.1	溝状	1.0	0.8	0.3	東西 (W-14-S)	自然	なし	SD9より古く。SD8上り新し。	29
SD45	C-4	2.1	溝状	1.8	1.5	0.1	東西 (W-14-S)	自然	なし	SD9+45より古く。	29
SD46	C-2	2.9	溝状	1.8	1.5	0.5	東西 (W-16-S)	自然→人為	なし	29	
SD47	C-2	6.6	溝状	0.6	0.2	0.3	東西 (W-2-S)	自然	なし	SD8より古く。	29
SD48	C-5	4.2	溝状	0.6	0.2	0.1	南北 (N-20-E)	自然	なし	29	
SD49	C-5	2.2	溝状	0.6	0.2	0.2	東西 (W-9-S)	自然	なし	29	
SD50	B-3	23.4	溝状	1.7~2.9	0.3~0.8	0.7~0.9	南北 (N-18-E)	自然	土壌器井・甕、須恵器井・甕、瓦、近世陶器罐、ガラス	SD5+52+66より古く。SD1+SD2+SD3より新し。	25-DE
SD51	B-3	3.8	溝状	0.6~0.8	0.4~0.7	0.1	東西 (W-31-S)	自然	なし	SD9より新し。	9 25-D
SD52	B-2	2.1	U字状	0.3~0.5	0.3	0.2	東西 (W-11-S)	自然	なし	SD7+SD9より新し。	25-E
SD53	B-4	26.5	溝状	0.3~0.5	0.1~0.3	0.1	東西 (W-11-S)	人為	土壌器井	SD8+SD2より新し。	10
SD54	B-4	14.4	溝状	0.3~0.8	0.2~0.7	0.1	南北 (N-12-E)	自然	なし	SD9より古く。	10
SD55	B-4	24.2	溝状	1.0~2.4	0.3~0.7	0.4~0.6	東西 (W-4-S)	自然	土壌器井・甕、須恵器井・甕、瓦、近世陶器罐、瓦、瓦砾	SD3+44より古く。	10 25-FG
SD57	B-4	0.8	溝状	0.7	0.4~0.6	0.2	南北 (N-8-E)	自然	なし	10	
SD58	B-1	1.7	溝状	0.6	0.3	0.1	南北 (N-32-E)	自然	石核	SD8	
SD59	B-4	1.7	溝状	0.3	0.2	0.1	東西 (W-2-S)	自然	なし	SD8	
SD60	B-4	0.9	溝状	0.5	0.4	0.1	東西 (W-1-S)	自然	なし	SD8	
SD61	B-4	1.8	溝状	0.4	0.3	0.1	東西 (W-1-S)	自然	なし	SD8	
SD62	B-4	2.2	溝状	0.6	0.3	0.1	東西 (W-4-S)	自然	なし	SD8	
SD63	B-4	2.4	溝状	0.3	0.2	0.1	東西 (W-7-S)	自然	なし	SD8	
SD64	B-4	1.0	溝状	0.3	0.2	0.1	東西 (W-5-S)	自然	なし	SD8	
SD65	B-2	2.0	溝状	0.3~0.8	0.2	0.2	南北 (N-6-E)	自然	なし	8 25-C	
SD66	B-4	2.0	溝状	0.2	0.1	0.1	東西 (W-11-S)	自然	なし	SD9より新し。	10
SD67	D-3	10.6	U字状	0.3~0.6	0.2	0.2	5字形	自然	須恵器井、近世陶器罐	SD1+SD2より新し。	34
SD68	D-4	5.6	溝状	0.6~0.7	0.2~0.3	0.1~0.2	南北 (N-34-E)	自然→人為	石核	SD15より古く。	34
SD69	E-2	5	溝状	0.6~	0.6~	0.6~	-	土壌器井	砂質のみ	自然表面	34
SD70	D-1	4.0	U字状	0.6~	0.6~	0.6~	-	自然	なし	自然表面	34

第4節 その他の出土遺物

調査で出土した遺物のうち、主要な遺構以外から出土したものについて、種類ごとにまとめて述べる。なお、B-2区のSB2建物跡から弥生土器の壺が出土しているが、遺構の年代に関連しないと判断したため本節で示す。

弥生土器は、B-2区のSB2建物跡P3柱穴から鉢（第43図1）が出土した。

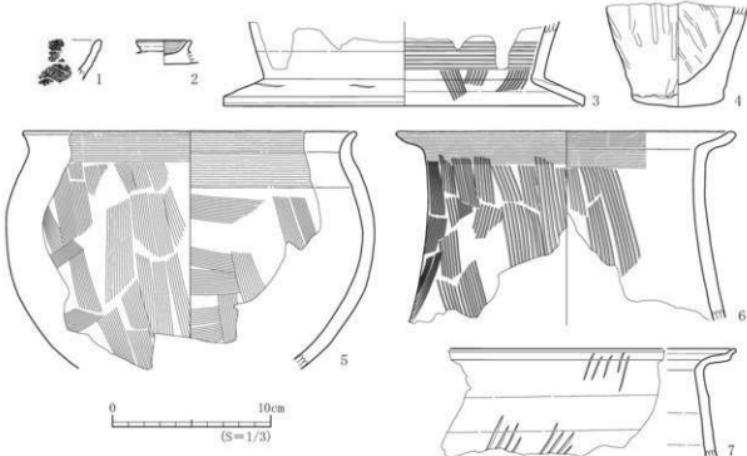
土師器は、A-2区のP797柱穴から壺（同図3）、SX15整地層からロクロ調整の甕（同図7）、A-1区の遺構確認面から甕（同図4）、A-2区の遺構確認面などから蓋（同図2）と甕（同図5・6）が出土した。

須恵器は、A-1区の遺構確認面から蓋（第44図1）、長頸瓶（同図5）、甕（同図4）、A-2区の搅乱から壺（同図2）、D-1区の搅乱から長頸甕（同図6）、E-1区の遺構確認面などから蓋（同図7）と甕（同図3）が出土した。

かわらけは、B-4区のSD58溝跡からロクロ成形の小皿（同図9）が出土した。

中世陶磁器は、E-1区のSX8流跡から常滑窯産の甕（同図10）と白石窯産の甕（同図11）が、D-3区の盛土中から中国龍泉窯産の青磁碗（同図12）が出土した。

近世磁器は、A-1区の搅乱から肥前産とみられる染付皿（同図14）、在地産とみられる角小皿（同図13）、B-4区のP473柱穴から肥前産とみられる染付皿（同図15）、B-4区の搅乱から波佐見系の染



No.	種類	断面	遺構	層位	残存	口径 (cm)	底径 (cm)	周長 (cm)	特徴	写真回数	記録番号
1	弥生土器	壺	B-2区P797	繩文埋土	一部				外：山形文 内：ミガキヤ	27-5	P95
2	土師器	片蓋	A-2区	遺構確認面	一部	7.4	(1.6)		外：ロクロナギー墨色処理、表面ツマミ下部にミガキ有 内：ミガキー墨色処理	27-8	P35
3	土師器	壺	A-2区P797	堆積土	底部のみ	22.8			外：ロクロナギー 壁：ハタメ→カヌメ→ロクロナギー 胎土に小綱を多く含む、底面張り出しにスヌ付蓋	27-11	P32
4	土師器	甕	A-1区	遺構確認面	1/8	5.6			ミニアート上部、外：ミガキヤ、底：ナギー 壁ナギー 胎土に小綱を多く含む	27-6	P9
5	土師器	甕	A-2区	遺構確認面	1/8	21.0	16.9		外：ナギー 壁ナギー 壁内：ナギー	27-10	P37
6	土師器	甕	A-2区	ウツラン					外：ロコナギーハケメ 内：ロコナギーハケメ	27-9	P40
7	土師器	甕	A-2区SX15	堆積土	1/8				手縫タタキ→ロクロナギー 内：あて具不明→ロクロナギ	27-7	P33

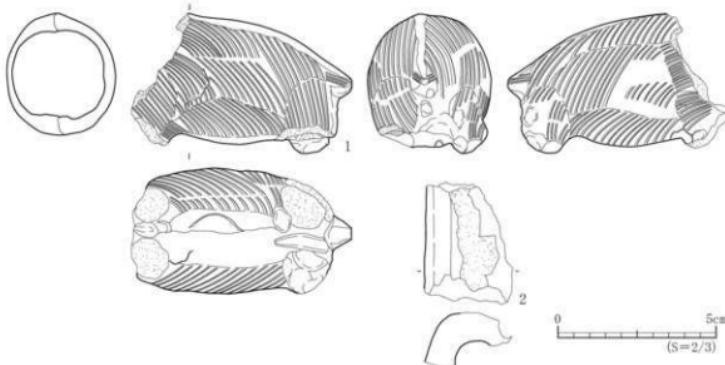
第43図 その他の出土遺物 (1)



第44図 その他の出土遺物 (2)

第 11 表 その他の出土遺物観察表（須恵器・中世陶磁器・近世陶磁器）

No.	種別	器種	遺構	位置	残存	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器	环	A-1 区	遺構確認面	1/4	15.8	—	(2.9)	内：ロクロナダ→回転ケズリ→ロクロナダ 外：ロクロナダ→回転ケズリ後つまみ足接合部、その後ロクロナダ	27-12	P12
2	須恵器	环	B-2 区 カクラン	—	1/3 (15.8) (8.6)	3.3	—	—	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ→透→回転ケズリ	27-15	P59
3	須恵器	環?	E-1 区 カクラン	一部	—	—	—	—	内：ロクロナダ	27-13	P126
4	須恵器	便	A-1 区	遺構確認面	—	—	—	—	内：格子状切口	28-1	P6
5	須恵器	長筒瓶	A-1 区	遺構確認面	1/8	—	—	(8.2)	内：透→体部：ロクロナダ 瓶底に自然剥離部・湖西産	27-36	P7
6	須恵器	長筒瓶	B-1 区 カクラン	一部	—	—	—	—	内：ロクロナダ	28-3	P79
7	須恵器	便	E-1 区	遺構確認面	1/8	—	—	—	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ→回転キズリ	27-11	P89
8	須恵器	楕瓶	B-2 区 SD26	半壊土	—	—	—	—	内：ロクロナダ	28-2	P83
9	小わらけ	小壷	SD26	半壊土	底部のみ	—	4.2	—	内：ロクロナダ→透→回転キズリ 底：ロクロナダ→ナダ	28-7	P66
10	中世陶器	便	E-1 区 SD38	半壊土	1/8	—	—	—	内：ロクロナダ	28-10	C26
11	中世陶器	便	E-1 区 SD38	半壊土	1/8	—	—	11.6	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ→透→回転不明 白石産	28-9	C29
12	青磁	便	B-1 区	壘土	—	—	—	—	内：透→中国産青磁	28-6	C24
13	磁器	盖	A-1 区 カクラン	—	3/4	8.2	4.0	2.2	在地窯？ 底部内面に花紋の焼附あり	28-11	C3
14	磁器	盖	B-4 区 カクラン	—	1/2 (8.5)	6.0	2.5	—	内：透	28-12	C7
15	磁器	盖	B-4 区 P12	半壊土	3/4	14.2	8.8	3.9	半壊蓋？	28-14	C17
16	磁器	盖	B-4 区 カクラン	—	1/4	14.2	8.6	3.5	透孔系 見込コンニャク列による五弁花、体部内面に二重唇縫、唐草文	28-13	C18



No.	種別	器種	遺構	位置	残存	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴	写真図版	登録番号
1	土製品	土人形	B-4 区 P552	脚部埋土	脚部のみ	(0.9)	(2.8)	(4.3)	内：ハケメ状のもので脚面を想えている 背面と腰部分で土をつなぎ合せせる。イノシシ小判	28-15	P67
2	土製品	羽口	B-4 区 カクラン	残存長	7.8	(6.6)	(2.5)	(1.9)	先端部鉗付管、先端約 1/2 が被焼により変色 口徑→鉗付部外径、茎部→鉗付部内径、底部→先端部内径	28-16	P61

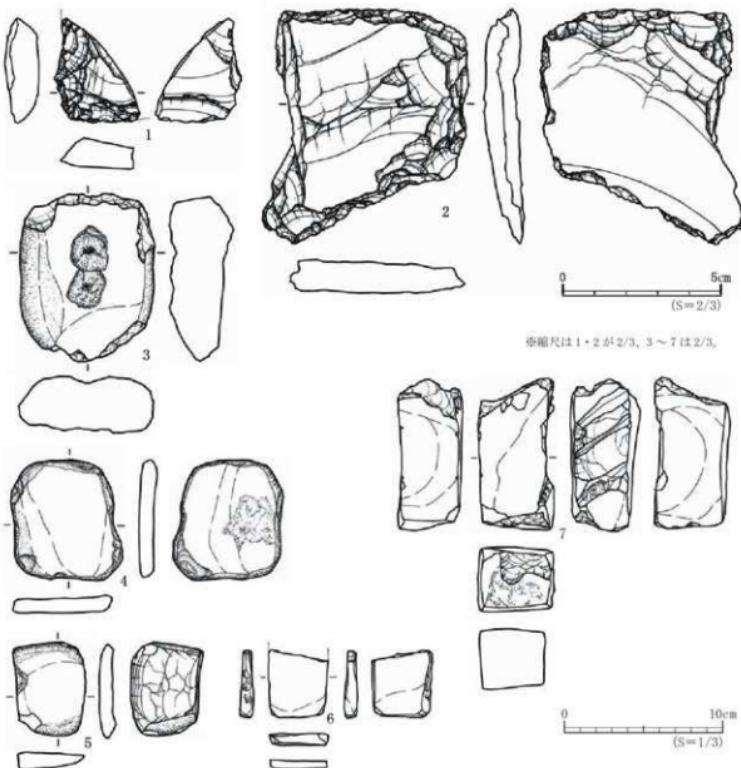
第 45 図 その他の出土遺物 (3)

付皿 (同図 16) が出土した。

土製品は、B-4 の区 P552 柱穴から空洞とみられる中空の土人形 (第 45 図 1)、カクランから羽口 (同図 2) が出土した。

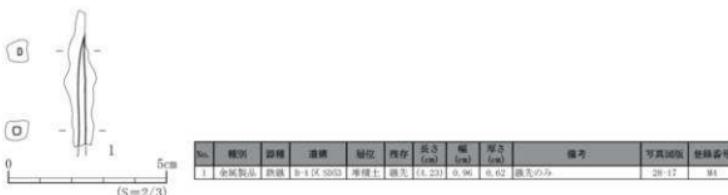
石器は、A-1 区の撹乱から砥石 (第 46 図 5・6)、B-3 区の P373 柱穴から板状石器 (同図 2)、B-4 区の P415 柱穴から石皿と併用されたとみられる台石 (同図 4)、遺構確認面などから石籠 (同図 1)、砥石 (同図 7)、E-1 区遺構確認面から凹石 (同図 3) が出土した。

鉄製品は、B-4 区の SD53 溝跡から鐵鏃 (第 47 図 1) が出土した。



No.	種別	御種	遺構	部位	性状	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考	写真図版	登録番号
1	石器	骨器	B-4 区	遺構表面	刃部	絆縫合痕	3.40	2.96	1.07		27-1	960
2	石器	板状石器	B-3 区 P273	柱状隙	破片	始板切	7.38	6.91	1.05		27-4	59
3	石器	圓石	B-1 区	遺構表面	一部欠損	ディサイト	10.52	8.50	4.06		27-3	519
4	石器	合石	B-4 区 P415	堆積土	ほば完形	安山岩	7.46	6.77	1.06	石器と伴用	27-2	519
5	石器	圓石	A-1 区カララン	一部のみ	断面観	5.93	4.38	1.04		28-5	51	
6	石器	圓石	A-1 区カララン	カララン	破片	安山岩質灰岩	4.21	3.71	0.78		28-4	52
7	石器	圓石	B-1 区カララン	カララン	破片		9.48	4.81	4.15		28-6	526

第46図 その他の出土遺物(4)



第47図 その他の出土遺物(5)

第6章 自然科学分析

第1節 台町遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

台町遺跡は、宮城県伊具郡丸森町金山字下片山（北緯 $37^{\circ} 54' 46''$ 、東経 $140^{\circ} 47' 39''$ ）に所在し、阿武隈川と雄子尾川の合流点西側の沖積低地上に立地する。測定対象試料は、土坑や竪穴住居跡から出土した炭化物 6 点である（表 1）。竪穴住居跡の時期は弥生時代と推定されている。

2 測定の意義

遺構の年代を推定する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、 0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、 1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO_2) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からの差を千分偏差 (%) で表した値である（表 1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、

1950 年を基準年 (0yrBP) として選る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta\ ^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下 1 術を丸めて 10 年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1 \sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68. 2% であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta\ ^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。
- (4) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の曆年代範囲であり、1 標準偏差 ($1 \sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2 \sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が历年較正年代を表す。历年較正プログラムに入力される値は、 $\delta\ ^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1 術を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、0xCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。历年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表 1、2 に示す。

E-1 区の土坑から出土した試料の ^{14}C 年代は、No. 1 が $2380 \pm 30\text{yrBP}$ 、No. 2 が $2510 \pm 30\text{yrBP}$ である。历年較正年代 (1σ) は、No. 1 が縄文時代晩期末葉から弥生時代前期頃、No. 2 が縄文時代晩期後葉頃に相当する (小林 2009、小林編 2008)。

B-4 区の堅穴住居跡 SI2 から出土した試料の ^{14}C 年代は、No. 3 が $2060 \pm 20\text{yrBP}$ 、No. 4 が $3090 \pm 30\text{yrBP}$ 、No. 5 が $2090 \pm 20\text{yrBP}$ 、No. 6 が $1420 \pm 20\text{yrBP}$ である。历年較正年代 (1σ) は、No. 3、5 が弥生時代中期頃、No. 4 が縄文時代後期後葉から晩期初頭頃、No. 6 が古墳時代終末期頃に相当する (小林 2009、小林編 2008、佐原 2005)。SI2 掘方 1 層出土の No. 4 は、SI2 出土試料の中で最も古く、堅穴掘削時に周辺から混入した炭化物と見られる。SI2-K1 の 1 層下部から出土した No. 3 と No. 5 は弥生時代中期頃のほぼ同年代を示し、これらが住居跡の推定時期と整合する。SI2-K1 の 1 層上部出土の No. 6 は住居跡の推定時期より新しい値を示した。

試料の炭素含有率は、いずれも 50% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360
- 小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散, 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生 農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 55-82
- 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション
- Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887
- 佐原眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分, ウェルナー・シュタインハウス監修, 奈良文化財研究所編集, 日本の考古学 上 ドイツ展記念概説, 学生社, 14-19
- Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正値)

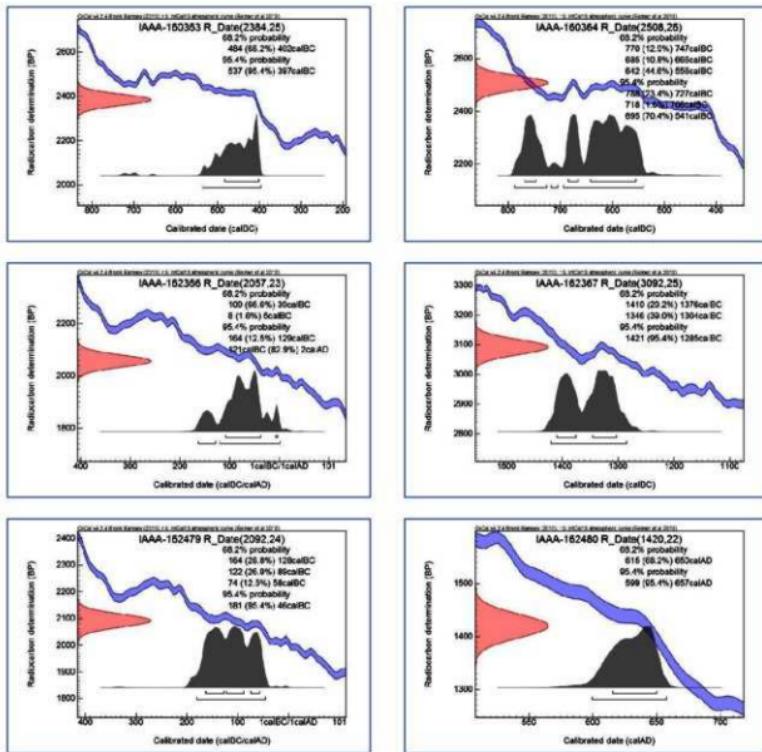
測定番号	試料名	採取場所	試料 形態 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (% (AMS))	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり Libby Age (yrBP) pMC (%)
IAAA-160363	No.1	E-1 区 SK21 埋3	炭化物 AAA	-25.56 ± 0.41	2,380 ± 30 74.31 ± 0.24
IAAA-160364	No.2	E-1 区 SK22 埋4	炭化物 AAA	-28.51 ± 0.45	2,510 ± 30 73.17 ± 0.24
IAAA-162366	No.3	B-4 区 SI2-K1 1層下部	炭化物 AaA	-26.76 ± 0.44	2,060 ± 20 77.41 ± 0.23
IAAA-162367	No.4	B-4 区 SI2 横方1層	炭化物 AAA	-23.24 ± 0.53	3,090 ± 30 68.05 ± 0.21
IAAA-162479	No.5	B-4 区 SI2-K1 1層下部	炭化物 AaA	-25.32 ± 0.42	2,090 ± 20 77.07 ± 0.24
IAAA-162480	No.6	B-4 区 SI2-K1 1層上部	炭化物 AaA	-26.83 ± 0.38	1,420 ± 20 83.80 ± 0.23

[#8053, 8407, 8435]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ暦年年代範囲	2 σ暦年年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-160363	2,390 ± 20	74.23 ± 0.23	2,384 ± 25	484calBC - 402calBC (68.2%)	537calBC - 397calBC (95.4%)
IAAA-160364	2,570 ± 20	72.65 ± 0.23	2,508 ± 26	770calBC - 747calBC (12.9%) 685calBC - 666calBC (10.8%) 642calBC - 556calBC (44.6%)	788calBC - 727calBC (23.4%) 718calBC - 706calBC (1.6%) 695calBC - 541calBC (70.4%)
IAAA-162366	2,090 ± 20	77.13 ± 0.22	2,057 ± 23	109calBC - 39calBC (66.6%) 8calBC - 5calBC (1.6%)	164calBC - 129calBC (12.5%) 121calBC - 2calAD (82.9%)
IAAA-162367	3,060 ± 20	68.29 ± 0.20	3,092 ± 25	1410calBC - 1376calBC (29.2%) 1346calBC - 1304calBC (39.0%)	1421calBC - 1285calBC (95.4%)
IAAA-162479	2,100 ± 20	77.02 ± 0.23	2,092 ± 24	164calBC - 128calBC (28.8%) 122calBC - 89calBC (26.9%) 74calBC - 58calBC (12.5%)	181calBC - 46calBC (95.4%)
IAAA-162480	1,450 ± 20	83.48 ± 0.22	1,420 ± 22	615calAD - 650calAD (68.2%)	599calAD - 657calAD (95.4%)

[参考値]



【図版】暦年較正年代グラフ（参考）

第2節 マイクロX線CT可視化法による台町遺跡出土古銭の銭種判別

藤沢敦・佐々木理（東北大学総合学術博物館）

1. はじめに

マイクロX線CTによる3次元可視化法を、台町遺跡から出土した鋳着し塊状となっている古銭について適用し、銭種の判別を行った。

2. 試料と方法

試料は、6枚の古銭が鋳着してひとかたまりとなったものである。紐状の繊維で縛ったような痕跡が残っており、一面には糸状の痕跡が鋳の表面に残っている。一枚ずつに分離すると、これらの特徴を毀損してしまうため、非破壊で銭種を判別することが必要となった。

片側の表面には、鋳出された文字が一部見えている。この面を、仮に表とする。紐状の繊維でつなげられているところを上とした場合、上下の幅は2.7cm、左右の幅は2.9cm、厚さは1.0cmである。図Aに、接写機能のあるデジタルカメラでの撮影画像（多焦点合成写真）を示す。

試料は、東北大学総合学術博物館の高出力CT装置（ScanXmate-D180RSS270、コムスキャンテクノ、日本）を用い、管電圧200kV、管電流200μA、投影数を360°当り2000として撮影し、解像度21.244μmで撮影し、conCTexpress（コムスキャンテクノ、日本）を用いて、解像度21.2μmの断層像を再構成した。これらの断層像からMolcerPlus（White Rabbit、日本）を用いて3次元モデルを作成し可視化した。

合成した3次元モデルを回転し、古銭の文字面と平行な面で、間隔21.2μmで連続的な断層像を作成した。6枚全てが、厳密には同じ向きに重なっている訳では無いが、おおむね古銭の表面と平行にスライスしたこととなる。表面に付着した鋳の部分や、資料が存在しない領域も含まれているが、511枚の断層像を作成した。



図A 古銭の拡大撮影画像

3. 結果と銭種の判別

錢出された文字の一部が見えている側を表として、そちらを1枚目とした。連続した画像は、この表側から順番にスライスした形となっている。スライスされた画像を順番に検討し、錢の表面に鋳出された文字を検討した。古錢の背面については、文字がないと背面の状態を正確に示す画像を特定し難い。そのため背面の画像は提示していないが、背面に文字や「星」や「月」と呼ばれる小突起が認められるものは無い。

図Bでは、比較的銭名の判読ができる画像を抜き出している。数字はスライスした順番を示す番号である。裏としたものは、全体の表とは反対になっていたもので、判別用の画像は反転して示している。古錢の向きを合わせるために、画像は任意の角度で回転している。上側の画像が回転や加工を施していないものの画像で、下側の画像は反転・回転するとともに、明るさやコントラストなどを調整した画像である。これで判るように、6枚の古錢は、表裏も向きも、特に合わせずに縛られている。

これらの画像から判別した銭名は、以下のとおりとなる。なお、銭種の判別にあたっては、永井久美男による『新版中世出土銭の分類図版』を使用した。以下の記載で頁を示したもののは、同書の掲載頁である。図Bに示した対照資料の拓本も、同書掲載のものの中から、文字の形状の類似性が高いものを選択して引用した。

- 1枚目（表） 天聖元寶（真書）：北宋、1023年初鋳

上の「天」、下の「元」は、明確に判読できる。右の「聖」、左の「寶」は、あまり明確でないが、天聖元寶（真書）と判断して差し支え無い。

- 2枚目（表） 至和元寶（篆書）：北宋、1054年初鋳

下と左の文字は不明確であるが、上の「至」と右の「和」の独特な字体から、至和元寶（篆書）と判断できる。

- 3枚目（裏） 祥符通寶：北宋、1009年始鋳

文字が全体に太く見えているが、「祥」「符」「通」「寶」の4字とも判読が可能である。

- 4枚目（表） 元祐通寶（真書）：北宋、1086年初鋳

上の「元」と下の「通」は判読できる。右は不明確ではあるが「祐」で間違いないであろう。左の「寶」の字の特徴は、判然としない。「通」のしんようの左側が、縦の直線に近い形状となるところは特徴的で、元祐通寶（真書）と判断できる。

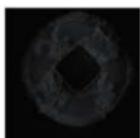
- 5枚目（裏） 聖宋元寶（篆書）：北宋、1101年初鋳

全体に判読が難しいが、下の「元」の特徴的な字体や、右の「宋」のうかんむりの両側が大きく下まで伸びる特徴から、聖宋元寶（篆書）と判断できる。

- 6枚目（裏） 皇宋通寶（真書）：北宋、1038年）初鋳

下の文字が「宋」であることが判る。右の文字は「通」であることが判るが、他の2字は明確でない。ただし、「下に「宋」があるのはこの皇宋通寶だけである」(45頁)であるとされており、「宋」の字体の類似性から、皇宋通寶の真書と判断できる。

6枚とも北宋のもので、初鋳年は1009年から1101年である。いずれも、日本で比較的多く出土し



0098



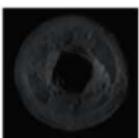
0098 補正



42-3 引 土 真書



1枚目（表） 天元聖寶（真書）



0156



0156 補正



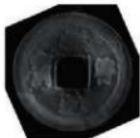
47-5 引 土 真書



2枚目（表） 至和元寶（篆書）



0247



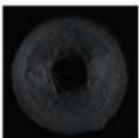
0247 反転・補正



40-3 鞍馬二ノ瀬町



3枚目（裏） 祥符通寶



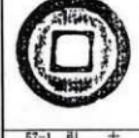
0269



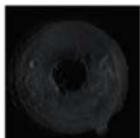
0269 補正



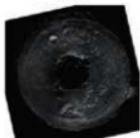
57-1 引 土 行書



4枚目（表） 元祐通寶（真書）



0361



0361 反転・補正



64-8 引 土 真書



5枚目（裏） 聖宋元寶（篆書）



0405



0405 反転・補正



45-2 鞍馬二ノ瀬町 真書



6枚目（裏） 皇宋通寶（真書）

ほぼ原寸、右側は対照資料（『新版中世出土銭の分類図版』より）

図B X銭 CT断層像による銭別の判別

ている銭種で皇宋通寶と元祐通寶は、特に出土が多い6種類に入れられている（図頁）。中世の中国銭は比較的長期間流通するため、初鋤年をもって出土遺構の年代を限定することはできないが、上限は1101年となる。

4. 六道銭の可能性について

裏面のほぼ全体に、糲状の痕跡が認められる。X線CT撮影では、表面の詳細な形状も撮影可能であるが、今回は表面にノイズが発生して、表面形状がわかりづらくなっている。そのため、現状写真から判断するに留まるが、全体形状などから、稻糲の可能性が高いと考えて良いであろう。6枚の古銭が糲状のもので綴じられていたことは、偶然6枚が残されたのではなく、意図的に6枚を一つの単位としたことを示す。糲が一緒に埋納された可能性が高いことも合わせて、葬送に伴い埋納された六道銭の可能性が想定できる。

今回判別できた銭種は、いずれも北宋の11世紀から12世紀初頭が初鋤の銭貨であった。これより後に大量に流入した銭貨を含まないことから、この年代に比較的近い年代の可能性もある。しかし、六道銭の墓への埋納が、どこまで遡るかという問題がある。調査事例の豊富な関東地方の所見であるが、六枚埋納が定着するのは、永樂通宝の流通が広まった16世紀以降と考えられている（北澤滋2009・谷川章雄2009）。ただし、これ以前にも六枚埋納自体は、数は限られるものの存在している。

そのため、古銭の種類や埋納の状況などから、時期を限定することは困難である。今後、類例の増加を待つて、比較検討していくことが必要であろう。

参考文献

- 石神裕之 2009 「六道銭研究の現状と課題」『六道銭の考古学』9～39頁、高志書院
北澤滋 2009 「六枚埋納（六道銭）の成立」『六道銭の考古学』209～233頁、高志書院
谷川章雄 2009 「総括—六道銭の習俗の考古学をめぐってー」『六道銭の考古学』257～266頁、高志書院
永井久美男 2002 『新版中世出土銭の分類図版』高志書院

第7章 総括

第1節 遺構の年代と特徴

本調査では、堅穴住居跡2軒、掘立柱建物跡10棟、堀跡・柱穴列跡5条、井戸跡2基、土坑36基、溝跡56条、ピット多数などを検出した。出土遺物は縄文時代から近世まであらゆる時代のものが出土している。以下に、主な遺構の特徴と年代を考察する。

①堅穴住居跡

SI2 住居跡はB-4 区南西部で検出した。平面形は長径4.5m、短径4.2m の円形を呈し、掘方埋土を床面とする。柱穴は3個検出した。土坑が1基あり、貯蔵穴とみられる。炉は検出されなかった。住居跡の堆積土から出土した土器はいずれも小破片だが、文様が確認できた資料には、口縁が受け口状に内湾し外面に1本描きの沈線文をもつ壺（第12図3）や、2本同時平行沈線文をもつ甕（第12図7）が認められる。口縁が受け口状に内湾し1本描き沈線文を持つ土器は、いわゆる円田式や、山形県南陽市百刈田遺跡（財団法人山形県埋蔵文化財センター2010）等に類例の見られる、中期中葉～後葉の土器と考えられる。2本同時平行沈線文の壺は福島県南相馬市長瀬遺跡（福島県文化センター1995）等に類例がある中期後葉の桜井式に相当するとみられる。また、平行沈線文を持つ壺（第12図4）は、白石市和尚堂遺跡（白石市教育委員会2009）等に類例の見られる中期後葉の十三塙式の可能性がある。SI2 住居跡と重複するSK48 土坑からも、中期中葉～後葉の年代が想定される土器（第23図2・3）が出土している。いずれも小破片のため詳細な対比を行うことは難しいが、以上から、SI2 住居跡の年代は弥生時代中期後半頃と考えられる。なお、住居の貯蔵穴とみられる土坑1の埋土から出土した炭化物の放射性炭素年代測定の結果は、2試料とも弥生時代中期頃という値が得られている。

SI3 住居跡については、住居南東部にあたる全体の1/4程度の検出にとどまる。平面形は南北1.7m以上、東西1.4m以上の方形を呈するとみられる。遺構に伴う遺物としては堆積土から須恵器提瓶や刀子（第15図）が出土した。須恵器提瓶は体部破片で、全体の器形は不明だが、外面に櫛描波状文が施されており、7世紀代のものとみられる。このほか、非クロクロ調整の土師器の小破片が出土している。このことから、住居跡の年代は7～8世紀頃と考えられる。

②掘立柱建物跡・堀跡

掘立柱建物跡はB区で9棟、E区で1棟検出している。

B区で検出したSB2～9 建物跡は、棟方向からA～Cの3群に分けられる。A群のSB5・6・7・8 建物跡は、構造が2×2間の總柱建物で、柱穴が径33～77cm の円形または方形を呈し、北に対して西に2～12度ほど傾く。B群のSB2・3 建物跡は、桁行4間・梁行3間の東西棟で、棟方向が北に36～38度ほど傾き、柱穴が43～73cm の円形・楕円形・隅丸方形で、堀跡とみられる柱穴列が付属する。それらと棟方向を同じくするSB4 建物跡もB群に含める。C群のSB9・10 建物跡は、柱穴が30～40cm 程度と小さく、南北方向の柱列が西に13～19度傾く。

建物を構成する柱穴の重複関係から、SB5 建物跡（A群）はSB3 建物跡（B群）より古く、SB8 建物

跡（A群）はSB9建物跡（C群）より古いことから、A群の建物が最も古い。A群は古代の遺構であるSI3住居跡や後述するSD1溝跡と方向を同じくすることから、古代の可能性がある。C群の柱穴埋土は近世末～近代以降とみられる遺構の埋土・堆積土に特徴が近いことから、近世末～近代以降の遺構であると推定される。B群は埋土の特徴がC群と異なり、近世末以降の遺物が出土しないことから、古代～近世の遺構とみられる。以上のことから、掘立柱建物群はA群→B群→C群の変遷が考えられる。

E区で検出したSBI建物跡は、柱穴の掘方埋土から非ロクロ調整の土師器壺や須恵器壺、柱痕跡から須恵器長頸瓶が出土しており、年代は7～8世紀頃と考えられる。

③土坑

土坑は、A区で4基、B区で18基、C区で2基、D区で8基、E区で4基検出している。

縄文～弥生時代の土坑は、E-1区南部でSK19～22土坑の4基を検出した。平面形は円形・不整円形を呈し、断面形は逆台形・擂鉢形・フラスコ形・箱形を呈する。このうちSK20・21・22土坑からは、文様が確認できないが縄文土器あるいは弥生土器とみられる土器片が多数出土した。出土した炭化物の年代測定では、SK21土坑が縄文時代晚期末葉～弥生時代前期頃、SK22土坑が縄文時代晚期後葉頃の値が得られた。SK21・22土坑はおおよそ縄文時代晚期後葉～弥生時代前期頃のものと推定され、SK20土坑も同じ年代とみられる。機能としては貯蔵穴が考えられる。SK19土坑からは土器が出土していないが、SK20～22土坑に近接し堆積土も類似することから同様の遺構であるとみられる。

弥生時代の土坑は、B-4区でSK48土坑を検出した。最下層から平行沈線文のある弥生時代中期中～後葉の可能性がある土器の小破片（第23図2・3）が出土していることから、SK48土坑の年代は弥生時代中期後半頃と考えられる。SK48土坑と重複しこれより古いSK59土坑はそれ以前と推測される。

古代の土坑は、A-2区でSK58土坑1基を検出した。ほぼ完形の土師器壺が出土している。平底に近い器形で、外面は体～底部ヘラケズリ・口縁部ヨコナデ、内面にミガキと黒色処理が施されている。利府町郷楽遺跡第107号住居跡（宮城県教育委員会・利府町教育委員会1990）出土土器に類似することから、SK58土坑の年代は8世紀前半と考えられる。

中世とみられる土坑は、B-3区でSK49土坑1基を検出している。埋土から銭貨が出土した。紐で6枚が束ねられており、X線CT撮影を行ったところ全て北宋錢で、「天聖元寶」（1023年始鑄）などの錢名を確認した。出土状況から六道錢とも考えられることから、墓坑の可能性がある。渡来錢のみの六道錢を埋納する墓はほぼ中世であると考えられているが（藤澤2002）、SK49土坑では伴出遺物や関連する遺構がないため、時期を絞り込むことは難しい。

④溝跡

溝跡は、A・B区で20条、C区で10条、D・E区で26条検出した。

・A・B区

古代の溝跡は、A区でSD1溝跡を検出した。南北方向の溝跡で、検出長は58.9m、上幅0.5～1.3m、南側は調査区外に伸びる。出土遺物には土師器・須恵器がある。土師器の壺（第25図1）は非ロクロ成形で底面が平底を呈し、外面の調整は不明だが、内面にミガキと黒色処理が施されている。多賀城市山王遺跡SD2124溝跡出土土器（宮城県教育委員会1994）などに類似し、年代は8世紀中頃～後

半と考えられる。また、ロクロ成形の壺（同図2）も出土している。内面はミガキ後に黒色処理され、底部は手持ちケズリによる再調整が施される。多賀城市市川橋遺跡SX1351C河川跡出土土器（多賀城市教育委員会2003）などに類似し、年代は8世紀末～9世紀初頭と考えられる。壺（同図3）は頸部に段等は認められず、外面とも体部ハケメの後、口縁部にヨコナデが施されている。8世紀前半頃のものとみられる。須恵器の壺は2点（同図7・8）出土し、いずれも底部のみの残存だが、底面は回転ヘラケズリである。遺構の年代としては8世紀代と考えられる。

古代以降の溝跡は、C区でSD8溝跡を検出した。南北方向に伸びる検出長120m以上の溝跡で、南はC-1区南側の調査区域外まで伸びており、北はSX11沢跡に接続する。非ロクロ土師器壺・甕の破片が出土しており、古代の遺構の可能性も考えられるが、詳細な年代まで絞り込むことは難しい。また、SD13溝跡は重複関係からSD8溝跡よりも古い遺構とみられる。

近世以降の溝跡は、B区のSD2・50・55溝跡とD-1区のSD21溝跡を検出した。SD50・55溝跡からは近世陶磁器が出土しており、年代は近世以降と考えられる。SD2溝跡では堆積土の中層や下層から中世陶器が出土しており、近世以降の遺物は出土していないが、方向・断面形・堆積土がSD50・55溝跡に類似していることから一連の溝跡と考えられる。これらの溝跡は方向からC群の建物と関連する可能性がある。SD21溝跡からは古代の土器も出土しているが、溝跡の方向や堆積土は、雉子尾川への排水や畑の区画に伴うとみられる周囲の近世・近代陶磁器が出土する溝跡に類似することから、SD21溝跡は近世以降の比較的新しい年代が想定される。D-4区のSD68溝跡も同様に近世以降とみられる。

このほか、B区のSD53・58・59溝跡で土師器や須恵器の小破片、SD7溝跡で古代瓦の破片が出土しているが、遺構の年代を決定できるようなものではない。

第2節 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代に位置づけられるものとしては、B-4区で検出したSI2住居跡およびその出土遺物が挙げられる。住居跡は丘陵端部の平坦地に立地している。

弥生時代の竪穴住居跡は、丸森町内では初めての発見となる。宮城県内で中期中葉～後葉段階の住居跡は、仙台市長町駅東遺跡（仙台市教育委員会2009）、名取市泉遺跡（名取市教育委員会2010）など、仙台平野の名取川中流域に立地する遺跡でいくつか調査例がある。

長町駅東遺跡では中期中葉の竪穴住居跡が1軒検出されている。平面形は長軸6.0m・短軸4.6m以上の不整な楕円形を呈する。壁は緩やかに立ち上がり、壁高は最大16cmである。地山を床面とし、地床炉を有する。一方、泉遺跡では中期後葉の竪穴住居跡・竪穴状遺構が4軒検出されている。平面形は一辺または直径が2～3mの不整形方・円形・楕円形を呈し、壁高が5～10cmと浅く、地山を床面とし、地床炉を有する。

また、福島県の相双地域では、南相馬市長瀬遺跡や同市鳥井沢B遺跡などで中期末の住居跡16軒が調査された（福島県文化センター1995）。長瀬遺跡では住居跡が5軒検出されている。竪穴住居跡は4軒検出され、平面形は方形基調の約4×4mの規模で、壁高は3～15cmある。地山を床面とし、

うち2軒に地床炉がある。平地式と推測される住居跡は1軒検出されているが、炉は確認されていない。鳥井沢B遺跡では竪穴住居跡が7軒検出されている。方形・長方形基調の約4×4mの規模で、壁高が10～15cmある住居跡が5軒、不整形の約4×1mの規模で壁高が24cmある住居跡が1軒、円形基調の直径約3mの規模で壁高が約20cmある住居跡が1軒である。いずれも地山を床面とする。うち2軒に炉跡がある。

今回検出したSI2住居跡は、平面形が4.5×4.2mの円形で、掘方埋土を床とし、炉を持たない。また、住居内北側にマウンド状の高まりをもつ。他遺跡の住居跡と比較すると住居の平面形や床面構築方法に違いがみられる。このような住居構造が仙台平野や相双地域とは異なる当地域の特徴であるか否かは、今後の資料の蓄積を待って再度検討しなければならない課題である。

遺跡の立地という観点でも、台町遺跡における中期後半段階の集落の発見は重要である。中期後葉以降、仙台平野では中期中葉の大規模な地震・津波の影響を受けた海岸部を除いて、集落は小規模分散化し、丘陵・台地・低地などの多様な立地が認められるようになる。このような集落のあり方は、生業の多様化と関連している可能性が考えられている（太田2015）。また、相双地域やいわき地域の丘陵部においても、小規模分散化した集落が認められる（斎野2011）。伊具盆地に位置する台町遺跡も、これら周辺地域と同じような居住のあり方を示していると言える。さらに、阿武隈川にのぞむ沖積地に面し、背後に丘陵が控える遺跡の立地から、この集落における多様な生業が推測される。台町遺跡および台町古墳群では過去にそれぞれ1点ずつ石庵丁が採集されている。一方、今回の調査では住居跡から石鎚・打製石斧・磨石・凹石などが出土した。稲作農耕に加えて、隣接する河川や丘陵での狩猟採集を合わせた、盆地縁辺部における資源利用の一端がうかがえる。

第3節 古代の遺構と遺物

(1) 古代の集落の様相について

確実に古代のものと考えられるのは、A・B区のSI3住居跡、SB5・6・7・8建物跡、SK58土坑、SD1溝跡と、E-1区のSBI建物跡である。

このうち丘陵端部には7～8世紀頃と考えられるSI3住居跡と、これと建物方向を同じくし古代の遺構とみられるSB5・6・7・8建物跡（A群）が存在し、丘陵下の低地部には8世紀代とみられるSD1溝跡がめぐらされている。これらの遺構の分布状況のほか、遺構が立地する丘陵端の平坦部が北西側に続いている地形的状況を考慮すると、集落の本体は今回の調査区のさらに北西側に広がっている可能性が考えられる。

(2) 出土した古代の瓦について

今回の調査ではB区の溝跡で古代の瓦が10点ほど出土した。いずれも平瓦であり、凹面に布目痕と模骨痕が認められるものが主体で、凸面に格子叩き目を持つものが2点ある。

このような特徴を有する瓦は、周辺では角田市角田郡山遺跡で出土している（角田市教育委員会1993・1994・1996・2000・2007）。古代の伊具郡衙に関連すると考えられている建物群が発見されており、7世紀末～8世紀初頭の年代に位置づけられている。のことから、今回出土したB区の瓦も7世紀

末～8世紀初頭頃のものとみられる。

丸森町内の発掘調査では、大内地区の卯月沢遺跡で凸面に格子叩き目を有する瓦片が出土している（宮城県教育委員会 2013）。瓦は須恵器壺底部に融着した状態で、焼台であると考えられている。卯月沢遺跡では、規模や方向に規則性をもつ7世紀後葉～8世紀初頭の堅穴住居跡14軒が密集して検出され、円面硯を含む須恵器が一定量出土していることから、官衙との関連が考えられている。

台町遺跡の瓦は、比較的小さな破片が多く、調査では関連する遺構も認められなかつたことからその性格付けは難しい。しかし今回調査された古代の集落と年代が近いことから、この集落内に関連する建物等が存在した可能性も否定できない。

第4節　まとめ

1. 台町遺跡は、阿武隈川とその支流である雉子尾川に挟まれた、標高16～22mの沖積低地から丘陵端部に立地する遺跡である。堅穴住居跡2軒、掘立柱建物跡10棟、堀跡・柱穴列5条、井戸跡2基、土坑34基、溝跡56条、ピット多数などを検出した。
2. 繩文時代～弥生時代の遺構は、土坑4基である。繩文土器または弥生土器とみられる土器が出土した。貯蔵穴と考えられる。出土した炭化物の年代測定では、繩文時代晚期～弥生時代前期の値が得られている。
3. 弥生時代の遺構は、堅穴住居跡1軒と土坑2基である。堅穴住居跡からは弥生土器（鉢・壺・甕）や石器（石鏃・石匙・打製石斧・凹石・磨石）が出土した。出土した土器は十三塙式や桜井式に比定されることから、住居跡の年代は弥生時代中期後半頃とみられる。県南地域では弥生時代の堅穴住居跡は初めての発見である。
4. 古代の遺構は、堅穴住居跡1軒、掘立柱建物跡4棟、土坑1基、溝跡1条である。堅穴住居跡は非ロクロ調整の土師器壺・須恵器提瓶・刀子が出土し、7～8世紀と推定される。また、古代の遺構に伴うものではないが、凸面に格子叩き目、凹面に模骨痕を有する古代の平瓦が出土した。
5. 古代以降の遺構は掘立柱建物跡3棟・堀跡2条・井戸跡1基・溝跡1条である。中世の可能性がある遺構は土坑1基で、紐により6枚が束ねられた北宋錢が出土し、六道錢の可能性がある。近世以降の遺構は、掘立柱建物跡2棟、溝跡4条である。
7. 台町古墳群は、台町丘陵上に立地する古墳時代の群集墳だが、今回の調査では古墳やそれに類する遺構は検出されなかった。

参考文献

- 相澤清利 2013 「東北地方南部の平行沈線文系土器と十三塚式土器」『鶴』第 9 号
- 太田昭夫 2015 「仙台平野の弥生時代」『弥生時代の山形』(山形県うきたむ風土記の丘考古資料館第 22 回企画展図録)
- 角田市教育委員会 1993 『角田郡山遺跡 I』角田市文化財調査報告書第 10 集
- 角田市教育委員会 1994 『角田郡山遺跡 II』角田市文化財調査報告書第 12 集
- 角田市教育委員会 1996 『角田郡山遺跡 IV』角田市文化財調査報告書第 17 集
- 角田市教育委員会 2000 『角田郡山遺跡 V』角田市文化財調査報告書第 24 集
- 角田市教育委員会 2007 『市内遺跡発掘調査 一角田郡山遺跡・品濃遺跡調査概報』角田市文化財調査報告書第 32 集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2010 『百刈田遺跡第 1 ~ 4 時発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 184 集
- 齋藤良治 2009 「丸森町大古町遺跡の考察 ～十二世紀から十三世紀中葉の遺物を中心にして～」『宮城史学』第 28 号
- 齋藤良治 2001 「伊具五郷についての一考察」『宮城史学』特別号 (第 20・21・22 号)
- 斎野祐彦 2011 「東北地城」『講座日本の考古学 5 弥生時代 (上)』青木書店
- 斎野祐彦 2015 「農耕社会の変容」『東北の古代史 2 倭国形成と東北』吉川弘文館
- 佐藤祐輔 2012 「東北地方南部における弥生時代中期後半の土器編年と遺跡立地」『考古学集刊』第 8 号
- 佐藤祐輔 2013 「東北南部の弥生中期後半から弥生後期の遺跡動態」『東北南部における弥生後期から古墳出現前夜の社会変動』福島県湯川村桜町遺跡資料見学・検討会ー予稿集』
- 佐藤祐輔 2015 「東北」『考古調査ハンドブック 12 弥生土器』ニュー・サイエンス社
- 志間泰治 1952 「伊具地方の考古学的考察」『伊具郡郷土史』
- 志間泰治 1954 「宮城県伊具郡金山町台町古墳群調査概要」『歴史』第 7 輯 東北史学会
- 白石市教育委員会 2009 『和尚堂遺跡ほか発掘調査報告書』白石市文化財調査報告書第 37 集
- 福島県文化センター 1995 『原町火力発電所関連遺跡調査報告』6
- 藤木 海 2017 「多賀城創建以前の瓦の生産」『第 43 回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』
- 藤沢 敦 2006 『小規模古墳の消長に基づく古墳時代政治・社会構造の研究』(平成 15 年度～17 年度科学研究費補助金研究成果報告書)
- 藤澤典彦 2002 「墓中埋納錢貨の変容 一六道銭の成立をめぐってー」『季刊考古学』第 78 号
- 丸森町史編さん委員会 1984 『丸森町史』
- 丸森町教育委員会 1999 『大古町遺跡 ー 第 1 次・2 次調査概要ー 建設省桜づつみ事業に伴う発掘調査』丸森町文化財調査報告書第 16 集
- 丸森町教育委員会 2003 『大古町遺跡 ー 国道 113 号館矢間バイパス工事に伴う発掘調査報告書 I ー』丸森町文化財調査報告書第 17 集
- 丸森町教育委員会 2004 『大古町遺跡 ー 国道 113 号館矢間バイパス工事に伴う発掘調査報告書 II ー』丸森町文化財調査報告書第 18 集
- 丸森町教育委員会 2016 『台町遺跡・台町古墳群 ー 阿武隈川下流右岸金山地区河川改修事業に伴う発掘調査報告書』

ー』丸森町文化財調査報告書第 22 集

宮城県教育委員会 1991 「台町古墳群」『館南面遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 144 集

宮城県教育委員会 2013 『卯月沢遺跡』宮城県文化財調査報告書第 232 集

渡辺泰伸 1990 「瓦生産の諸段階－古代東北地方における瓦生産導入期－」『伊東信雄先生追悼考古学古代史論攷』

写真図版



図版1 遺跡遠景（北東から）



1. 台町遺跡・台町古墳群遠景（南東から）



2. 台町遺跡全景（北から）

図版 2 遺跡遠景・全景



1. A・B 区全景（上が南）



2. B 区全景（北東から）

図版3 A・B 区全景



1. A-1 区全景（南から）



2. A-2 区全景（西から）



3. SD1 溝跡（南から）



4. SK58 土坑断面（西から）



5. SD1 溝跡断面（北から）



6. SE2 井戸跡（北東から）

図版 4 A-1・2 区全景、検出遺構



1. B-2 区全景（南東から）



2. SD6 溝跡（東から）



3. SD7 溝跡（北西から）



4. SD6・7 溝跡調査断面（東から）



5. B-1 区全景（南東から）

図版 5 B-2 区全景・検出遺構・B-1 区全景



1. B-3 区全景（北東から）



2. B-4 区全景（東から）

図版 6 B-3・4 区全景



1. SI2 住居跡（南から）



2. SI2 住居跡（西から）

図版 7 SI2 住居跡 (1)



1. SI2 住居跡検出状況（西から）



2. SI2 住居跡完掘状況（西から）



3. SI2 住居跡柱穴 1 (南西から)



4. SK48 土坑断面（西から）



5. SI2 住居跡土坑 1 断面（東から）



6. SK48・SK59 土坑断面（南から）



7. SI2 住居跡土坑 1 (東から)



8. SK48・SK59 土坑（南西から）

図版 8 SI2 住居跡 (2)



1. SI3 住居跡床面検出状況（東から）



2. SI3 住居跡検出状況（東から）



3. SI3 住居跡完掘状況（東から）



4. SI3 住居跡北壁断面（南から）



5. SI3 住居跡西壁断面（東から）

図版 9 SI3 住居跡



1. SB2 建物跡（南から）



2. SB2-P4 (東から)



3. SB2-P5 (東から)



4. SB2-P6 (北から)



5. SB2-P7 (北から)



6. SB2-P8 (西から)



7. SB2-P9 (西から)

図版 10 SB2 建物跡



1. SB3 建物跡（北東から）



2. SB3-P1（西から）



3. SB3-P4（西から）



4. SB3-P7（東から）



5. SB3-P10（北東から）



6. SB3-P11（北東から）

図版 11 SB3 建物跡



1. SB4 建物跡（北西から）



2. SB4-P1 (東から)



3. SB4-P3 (北から)



4. SB4-P2 (東から)



5. SB4-P4 (北から)



6. SB4-P5 (北東から)

図版 12 SB4 建物跡



1. SB5 建物跡（西から）



2. SB5-P1 (北から)



3. SB5-P2 (北から)



4. SB5-P3 (南から)



5. SB5-P5 (南から)



6. SB5-P7 (北から)



7. SB5-P9 (西から)

図版 13 SB5 建物跡



1. SB8-P7・P648 (西から)



2. SB8-P9 (東から)



3. SA3-P2 (北西から)



4. SA3-P3・P323 (北から)



5. SA3-P4 (西から)



6. SA4-P1 (北から)



7. SA4-P6 (北から)



8. SA4-P8 (北から)

図版 14 SB8 建物跡柱穴、SA3・4 墓跡柱穴



1. SK35 土坑断面（北から）



2. SK35 土坑（南から）



3. SK49 土坑断面（南から）



4. SK49 土坑（南から）



5. SK43 土坑断面（東から）



6. SK43 土坑（北から）



7. SD2 溝跡（北から）



8. SD50 溝跡（北から）

図版 15 B 区土坑・溝跡



1.C-1区全景



4.C-3.4区全景



2.C-2区全景



5.C-5区全景



3.C-6区全景

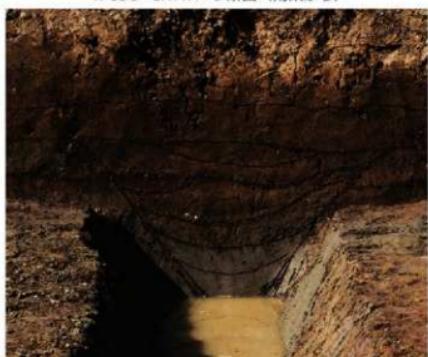
图版 16 C-1 ~ 6 区全景



1. SD8・SX11A・B 断面（南東から）



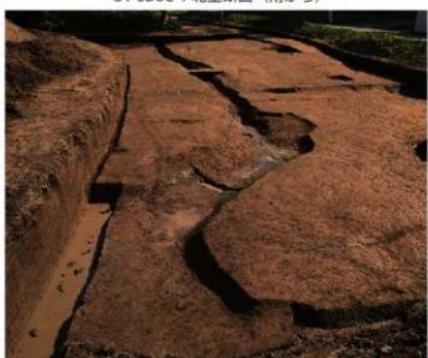
2. SD8・13 断面（南から）



3. SD8C-1 北壁断面（南から）



4. SD13 断面（東から）



5. SX11 自然流路跡完掘（北から）



6. SK32 土坑完掘（西から）

図版 17 C区検出遺構



1. D-1・2、E区全景（北から）



2. D-1区全景（北から）



3. D-2区全景（北から）



4. D-3区全景（北から）



5. D-4区全景（北から）

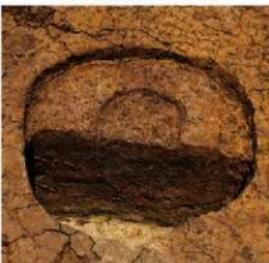
図版 18 D-1～4、E区全景



1. SB1 建物跡（東から）



2. SB1-P1 (南西から)



3. SB1-P2 (南から)



4. SB1-P3 (東から)



5. SB1-P4 (西から)



6. SB1-P6 (西から)



7. SB1-P7 (南西から)

図版 19 SB1 建物跡



1. SE1 井戸跡（東から）



2. SD19 溝跡（D-1 区西から）



3. SD19 溝跡（D-1 区東から）



4. SD19 溝跡（D-4 区北西から）



5. SD21 溝跡（東から）



6. SD21 溝跡遺物出土状況（北から）

図版 20 D 区



1. SK19・20・21・22 土坑完掘状況（南西から）



2. SK19・20 土坑断面（南から）



3. SK21 土坑・SD25・27 溝跡断面（南から）



4. SK22 土坑断面（南から）



5. SD25・27 溝跡（北から）

図版 21 E 区



1. A・B区調査前（西から）



2. A-1区調査前（南西から）



3. A-2区調査前（南西から）



4. B-1区調査前（南東から）



5. B-4区調査前（東から）



6. C区調査前（北西から）



7. D-1区調査前（北から）



8. E-1区調査前（北から）

図版 22 調査前状況



1. F 区全景（南から）



2. F 区全景（北から）



3. G-1 区全景（東から）



4. G-2 区全景（西から）



5. G-3 区全景（東から）



6. E-2 区全景（北東から）

図版 23 E-2、F 区、G-1～3 区



[1-20: SI2, 21,22: SI3, 23: SE2, 24-28: SK48, 29: SK58,
30: SK40, 31: SK49, 32-37: SD1]

图版 24 SI2・3住居跡、A・B区井戸跡、土坑、溝跡出土遺物(1)



(1-5: SD1, 6,12,14-17: SD2, 7,13,18: SD55, 8,10,20: SD50, 9,19: SD7, 11: SD6, 14)

(1-5,8-20: S=1/3, 6,7.5=2/3)

图版 25 A+B 区溝跡出土遺物 (2)



(1,2: SD2, 3-5: SD55, 6,7: SD8, 8: SB1, 9,10,19: SK22, 11,12,14,17,20: SK21,

13: SK19, 15,16,18,21: SK20, 22-24: SD21.)

(1-12,17,19-27: S=1/3, 18S=1/2, 13-16S=2/3)

図版 26 B+C+E 区遺構出土遺物



(1,2: SD2, 3-5: SD55, 6,7: SD8, 8: SB1, 9,10,19: SK22, 11,12,14,17,20: SK21,

13: SK19, 15,16,18,21: SK20, 22-24: SD21.)

(1-12,17,19-27: S=1/3, 18,S=1/2, 13-16,S=2/3)

図版 27 その他の出土遺物 (1)



(1: 遺構確認面, 2: SK26, 3-6,11-13: 横瓦, 7: SD58, 8: 盛土, 9,10: SX8, 14: P473, 15:P552, 17:SD53)

(1-16: S-1/3, 17:S-2/3)

図版 28 その他の出土遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな	だいまちいせき・だいまちこふんぐん							
書名	台町遺跡・台町古墳群							
副書名	阿武隈川下流右岸金山地区河川改修事業に伴う平成28年度発掘調査報告書							
シリーズ名	丸森町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第23集							
編著者名	荒井優作・黒田智章・山口貴久							
編集機関	丸森町教育委員会							
所在地	〒981-2192 宮城県伊具郡丸森町字島屋120 TEL. 0224-72-3036							
発行年月日	西暦2017年9月●日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
台町遺跡	宮城県伊具郡丸森町 字下片山・字台 町・字日野川原	04341	10102	37度 54分 46秒	140度 47分 39秒	2016.5.9 ～12.16	6,132.9m ²	記録保存調査
台町古墳群	宮城県伊具郡丸森町 字一本木・字平・金字 山下片山・字台町	04341	10050	37度 54分 44秒	140度 47分 30秒			
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
台町遺跡	集落	弥生時代・古代	堅穴住居跡・掘立柱建物跡・堀跡・井戸跡・土坑・溝跡	弥生土器・土師器・須恵器・中世陶磁器・石器・金属製品			弥生時代中期後半の堅穴住居跡1軒を検出	
台町古墳群	古墳	古墳時代	なし	なし				
要約	台町遺跡と台町古墳群は、阿武隈川とその支流である雄子尾川に挟まれた、台町丘陵およびその東側に広がる沖積低地上に立地している。国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所による阿武隈川下流右岸金山地区河川改修事業に伴い、平成28年度に発掘調査を実施した。調査の結果、台町遺跡において、弥生時代の堅穴住居跡1軒・野藏穴4基、古代以降の堅穴住居跡1軒・掘立柱建物跡11棟・堀跡および柱穴列条・井戸跡2基・土坑30基・溝跡51条・ピット等を検出した。弥生時代の堅穴住居跡は県南地域では初めての発見で、出土した土器から中期後半頃のものと考えられる。このほか、古墳～奈良平安時代・中世・近世の遺構・遺物が発見されたことにより、この地が長期間にわたって人々に利用されてきたことが明らかとなった。							